

韓國洪原附近の戦況 (三十八年一月十一日)

十一日午後三時大本營著韓國駐軍報告

咸興方面の我一支隊は洪原附近に於て西伯利哥薩克騎兵第九聯隊の一部を撃破し小銃九、八、槍二馬匹二頭其他若干を鹵獲す敵は將校以下死者九を遺棄して潰走せり

敵の遼東奇襲 (一月十一日より同十六日まで)

(一)

十二日午後大本營著遼東守備軍報告

十一日午前十時我騎兵支隊は唐馬塞西方に於て敵騎約四中隊と遭遇し午後二時三十分まで交戦の後之を撃退し敵に多數の損害を與へたり其後敵は更に砲八門騎兵數中隊の増援を得たるを以て劉二堡に引附け目下砲撃中なり
昨夜より今朝に亘り敵の騎兵小部隊は鞍山站、海城間及營口、大石橋間に潜入し鐵道に小破壊を行ひたるも直に修理を加へ開通せり
昨日午後砲兵を有する二千以上の敵兵は牛莊に來襲し該地に在りし我守備隊は一時退却の己むを得ざるに至れり目下兵力を増加して猛烈に之を砲撃中又牛家屯には敵の騎兵近く壓迫し來りたるも我に損害なし

十三日午後大本營報告

砲十二門及騎兵約八中隊より成る敵の一部隊は十二日午後二時より牛家屯兵站司令部を包圍し三家子方面より突撃し來りたるも悉く之を撃退せり敵の死傷少くも八十を下らず
戰場に遺棄したる敵の死傷者及其他の情報に依り判斷すれば敵は鐵道守備隊歩兵第二聯隊に附屬する騎兵團にして指揮官は少將ミシチニコなるか如し

(三)

十三日夜大本營著遼東守備軍報告

十二日營口附近にて撃退したる敵は大高坎以北に潰走せり
戰場に遺棄したる敵の死者六十二、傷者六其他散亂せる武器等にて察するに敵の死傷は二百を下らざるへし又我一部隊は十三日牛莊に於て敵を驅逐し之を潰亂せしめたり

(四)

十八日午前大本營著滿洲軍報告

一月十四日我一支隊は牛莊の西方三叉河附近に於て敵の騎兵集團を包圍し之を潰亂せしめたり敵の死傷三百名以上にして鹵獲武器等多數なり
同支隊に屬せし參謀將校の言に依れば同支隊と對戦せし敵兵中多數の清國官兵の混し居る者あるを見る

一月十六日牛莊方向より敗退せし敵の騎兵五六千、砲十數門は老都牛桑を経て東北方に退却せり同日夕我騎兵支隊は老鶴蛇附近に於て敵騎と衝突せり其報告に依れば敵の騎兵の上衣は清國衣にして

帽も亦清國帽なるものあり又全く清國衣を着し髯髪を有する者數多あり此敵は頗る疲勞を極め居れり

城廠方面の戦況 (二月二十三日)

二十四日午後大本營電

一月二十三日我一部隊は葦子峪西北方に於て敵の騎兵約一中隊を驅逐し同地を占領せり馬匹、武器等鹵獲品若干あり

又他の一部隊は昌城附近に於て敵を攻撃し之を潰亂せしめたり敵の死傷二十以上にして將校以下五名を捕虜とし武器、馬匹等若干を鹵獲せり

黑溝臺附近の會戦 一月二十五日より同二十九日まで

二月一日大本營電滿洲軍總司令官

一月二十五日より二十九日に亘る戦闘を「黑溝臺附近の會戦」と命名す

黑溝臺攻撃軍は一月二十五日正午頃黑溝臺方面に來襲せし敵を撃退すへき任務を領し六臺附近に集結せり此日黑溝臺を守備せし我一支隊は約一師團の敵に包圍せられ頑強なる抵抗の後夜暗に乘し古城子方向に退却せり

二十六日黑溝臺攻撃軍司令官は左翼隊をして蘇麻堡頭泡の線に右翼隊をして其右翼に連絡し砲兵全部をして老橋四端に展開して黑溝臺を攻撃せしむ

此日飛雪紛々として寒威凜冽大に視界を妨げ運動爲めに遅延し正午頃より黑溝臺の攻撃實施中約一師團の敵は長灘方向より前進し沈且堡を攻撃して之を包圍し其一、二大隊を以て我に向ふの報に接し古城子附近に在りし部隊をして此敵を撃退せしむ

左翼隊は蘇麻堡、五家子の線に展開せしか敵は黑溝臺頭泡の線を占領し特に頭泡は其形状恰も城塞の如く之に機關砲を備へ防備頗る堅固なるを以て先づ之を奪取するに非されは黑溝臺の攻撃意の如くならざるを以て首力を擧げて之を攻撃し左翼隊は老橋東側に於て約二大隊の敵を驅逐しつゝ老橋蘇麻堡の線に展開し全く蘇開地に暴露して勇敢に攻撃前進を行ひしも敵の砲兵は黑溝臺の周圍に砲列を布置し總數約十三門巧に縦斜射を行ひしを以て我死傷多大にして未だ目的を達するに至らずして日没に至る

二十七日我右翼に迫りし敵は一時退却せるを以て古城子附近に在りし部隊を中央とし兩翼隊の中央に排列し蘇麻堡を左翼とするか如く展開し黑溝臺に向つて攻撃せり

又狼洞溝附近に在りし一兵團をして柳條口及李家窩棚の線を占領して黑溝臺攻撃軍の右翼隊の右側背及沈且堡左側を掩護せしめ又某一部隊を修二堡方向に前進せしめ該方面に現れたる敵を撃退して遠く軍の左側背を掩護せしむ

狼洞溝附近に在りし兵團は午前十時四十五分同地を出發し大臺東側を経て猛烈なる敵の銃砲火を冒し勇猛果敢に柳條口及李家窩棚の線に在る約一師團の敵に對し攻撃前進し爲に黑溝臺攻撃軍の右翼隊の右側背を安全ならしめたり

黑溝臺攻撃軍は猛烈に敵を攻撃せしも敵兵就中其砲數は逐時増加し我死傷多大にして攻撃の進捗意の如くならず然れども諸隊は毫も之を顧みず歩一步に敵に近接せり

左翼隊は牛居及黃蠟蛇子方面より來る約一師團の敵に側面を衝かれ又八黃地附近に侵入したる敵の歩兵及騎砲兵に背射せられ將校以下の死傷甚しきを以て其左翼を一時三尖泡に後退するの止むを得ざるに至れり

夜に入り黑溝臺攻撃軍の諸隊は各方面に於て敵の夜襲を受け特に蘇麻堡附近に於ては前後より各一聯隊の敵より攻撃を受けしか格闘亂撃の後各方面共悉く敵を撃退せり

修二堡方面に前進せし我一部隊は優勢の敵に支へられ徐家窩棚、斜哨の線に停止す

二十八日狼洞溝附近より前進せし一兵團は巧に敵を攻撃し其右翼隊は午前九時三十分柳樹口を占領し其翼隊は午後三時李家棚を占領せり

黑溝臺攻撃軍の各隊は依然攻撃を續行せしか中央隊方面に於ては昨夜夜襲し來りし敵の敗殘兵蘇麻堡部落内に潛入し在りて背面より尙ほ我を射撃せしかは此際の一部は背面して此敵を殲滅し捕虜二百餘名を得たり

百餘名を得たり

右翼隊は其側背に修二堡に前進する支隊の現出したるを知り勇を鼓して前進を起し五家子を恢復せり修二堡に向ひ前進せし支隊は優勢の敵を攻撃して同地を占領す時に午前三時なり

狼洞溝に在りし部隊は午後十一時同地を發し黑溝臺攻撃軍の最左翼に連りて黑溝臺の敵を攻撃する豫定なりしも八黃地、哈爾堡の線に在る有力なる敵より背射せらるゝを以て勢ひ先づ之を撃退せざるへからず依て其一部を割きて修二堡に在る支隊と協力して八黃地の敵を撃退せり敵は洪家窩棚方面に退却し其兵力歩兵約一聯隊、騎兵一旅團、砲十二門、機關砲二、三門なり

二十九日各隊は連續三晝夜猛烈に敵を攻撃せしも未だ其目的を達成せざるを以て更に諸隊を激勵して夜襲を實行せしめたり

黑溝臺攻撃軍の諸隊は全滅を期し數回の攻撃前進を企てしも敵の砲兵殊に機關砲のため頗る多大の損傷を蒙れり然れども諸隊は衝天の勢を以て攻撃を續行す敵は我猛撃に耐へず午前五時三十分より

退却を始めたり是に於て我諸隊は逐次黑溝臺に突入し午前九時三十分に至り全く確實に之を占領し

直に追撃に轉し烟子を経て土臺子に至る又左側支隊の一部は黃蠟蛇子を占領せり其他修二堡に在りし支隊は當面の敵を撃退して七臺子及北方約五吉羅の無名部落に亘り渾河の線を占領せり

大臺附近に在りし部隊は此日午前五時李家窩棚附近に在りし部隊と共に微弱の敵を撃退して菲菜河

予附近を占領し其主力は敵を追撃して渾河右岸に進出し長灘南方千米突に達せり
是に於て軍は全く敵を渾河右岸に驅逐せり
我に對せし敵は西伯利第一軍團、集成軍團、狙撃步兵第二及第五旅團、第八軍團の一部西伯利豫備隊
六十一師團並に獵歩兵等にして少くも七箇師團及騎兵一師團を下らす此敵は四方臺及年魚泡附近に
退却せり

我死傷約七千に達し敵の損害も亦多大にして捕虜の言に依れば我左翼に向ひし歩兵四聯隊は殆ど全
滅し一中隊にして二三十人に減せしもの少からず又敵の損害は一萬を下らざるへしと云ふ

勅語下る

滿洲軍ハ其左翼ニ來襲セシ優勢ナル敵ヲ退ヘ勇猛果敢之ヲ渾河右岸ニ驅退シ其企圖ヲ挫折シ多大ノ損害ヲ與ヘタリ 朕深ク之ニ
從喜セシ時卒ノ勞苦ヲ察シ其功績ヲ嘉ス

奉 答

我滿洲軍の左翼を挽回し猛烈に攻撃し來りし優勢の敵軍を退へ殲滅戦の際敵晝夜運糧官戰の被敵に多大の損害を與へ之を驅逐
したるは一に 陛下の御機成に因る然るに參典軍隊に對し優遇なる勅語を賜ふ臣及參典軍隊の深く感激に堪へざる所從來益々
勵し誓て勳節に勵むんことを期す
右隨て奉答す

明治三十八年一月三十一日

滿洲軍總司令官 俊齋大山

沙河方面の戦況

(二月二十八日より三十一日まで)

(一)

二十日夜大本營

昨夜軍の右翼及中央方面に於ては絶わす彼我斥候の衝突したる外大なる變化なし左翼方面に在りて
は敵は絶わす緩徐なる砲撃を爲せり
沈且堡及黒溝臺方面に攻撃し來りし敵の主力は年魚泡(長灘の西方約一里)より四方臺(長灘西北約
四里)方向に退却せるものゝ如し
沈且堡及黒溝臺方面に於て敵の遺棄せし屍體多數なるも未だ精確なる報告に接せず

(二)

三十日夜大本營

昨夜軍の右翼方面に在りては敵の斥候は我陣地前各所に來りしか盡く我前哨のために撃退せられた
る外異動なし
中央方面に在りては昨夜十時頃より十一時に亘り萬寶山西方高地の敵砲兵は前三道岡子及腰屯附近
を射撃せり本日柳匠屯西北方の敵砲約二門及萬寶山西方高地の臼砲は長嶺子北方高地及腰屯附近を
射撃せり

左翼方面に在りては昨夜十一時頃林盛堡附近の敵歩兵約二中隊は我に向ひて亂射を爲し又敵は昨夜
北嶺子南方約二百米に二箇所の散兵隊を増築し其より尙ほ突出して更に小壘壕數箇を構築せり本日
午前八時三十分頃より小韓臺子附近の敵の重砲及野砲約十二門は連續沈且堡を砲撃せり又午後二時

半頭敵の歩兵約六中隊二臺子より荒地に向ひ侵入せり

潭河右岸に在りては午後二時頃敵の歩兵約二大隊土臺子に來襲し同地に在りし我部隊は交戦せしか其後の状況詳ならず

二十五日以來の戦闘に於て李大屯、沈旦堡、黑溝臺方面に於て敵の遺棄せし死體は一千二百を下り

(三)

三十一日夜大本營

昨三十日軍の右翼及中央方面は在りては敵砲兵は我陣地の各所を砲撃し又敵の小部隊は各方面に來襲せしも我前哨のため悉く撃退せられたり

左翼方面に在りては同日敵の重砲は盛に北煙臺(萬家園子東南約一里)及沈旦堡を砲撃せり又本日

(三十一日)午前敵は沈旦堡、喇叭臺(沈旦堡東方約一里)及李大屯に向ひ砲撃し其歩兵約二中隊は

北臺子南端附近より沈旦堡に向ひ襲來せしも之を撃退せり

昨日(三十日)午後長灘方向より敵の歩兵二中隊鴨子泡(沈旦堡西北一里)に向ひ又他の歩兵約二大隊騎兵一聯隊土臺子に攻撃し來りしも悉く之を撃退せり

捕虜の言に依れば敵日來我軍の左側に向ひて疑々大膽なる行動を爲せし騎兵將官ミシチニコは二月十七日哈爾濱附近に於て足部に負傷せりと

黑溝臺附近の會戰後報

(二月三十一日より二月二日まで)

(一)

二月一日大本營滿洲軍報告

昨三十一日軍の左翼方面に在りては敵の小部隊各方面に來襲したるも直に之を撃退せり

左翼側方面に在りては昨三十一日夜敵の歩兵約一聯隊來襲せしも之を撃退せり此方面の敵の主力は

年魚泡並に四方臺附近に又其一部は長灘に在り

本日敵は四方臺、張家窩棚及長灘附近に工事を施しつゝあり又敵の騎兵部は茨榆花、偏堡子、月堡子の線に在り

(二)

三日午前大本營滿洲軍報告

昨日軍の右翼方面に在りては敵の小部隊各方面に來襲せしか前哨は悉く之を撃退せり

又本日午前六時頃より塔山西麓及び柳匠屯西方より房身、蒲草窪附近(柳匠屯南方約二吉)を射撃し又間もなく敵の歩兵約二中隊房身を包圍せしも之を撃退せり敵の死傷詳ならずと雖も敵は死者一を

遺棄し及捕虜二名あり

中央方面に在りしは本日沙河堡東北約二吉の敵砲兵は沙河沈南方高地を又萬寶山西方高地附近の敵砲兵は北長嶺子、腰屯を砲撃せり其他昨夜來襲彼我斥候の衝突絶わす

左翼方面に在りては敵は今朝劇烈に沈旦堡附近を砲撃せり同所に在る我砲兵も亦之に應射せり

信すへき詳報に據れば敵は威鏡道及蘇家屯(拉木屯北方約二里)より蘇胡堡(孟達堡北方約二里)に延長して數回の列車を往復せしめつゝあり

又今朝八時頃より敵の野砲及重砲は鴨子泡附近に砲火を集中したるの後約一師團の敵兵王家窩棚(長灘東南部落)に進入し其内約一營旅團の敵兵攻撃し焚りしも之を撃退せり

昨一日柳條口方面に於て撃退せし敵は屍體約百六七十を遺棄し齒齧品小銃等若干あり捕虜の言に據れば敵の狙撃歩兵第二、第四聯隊長は同所に於て負傷せしを聞して信すへき詳報に據れば過る二十
六日黃蠟蛇子に在りし我小哨將校一名、下士卒二十八名敵に包圍せらるゝも飽くまで應戦し大半負傷し遂に敵の捕獲する所と爲り其負傷者は敵兵悉く之を慘殺せしと云ふ

(三)

三日午後大本營滿洲軍報告

昨日二日軍の右翼方面に在りては敵砲兵は我陣地の各所を砲撃せし外異狀なし
中央方面に在りては昨夜零時半頃敵の歩兵約一中隊奉天街道及其西方地區より我前哨に又午前五時半頃約一小隊の敵兵萬家園子附近に向ひ來襲せしも直に撃退せり昨夜四名の投降者あり
左翼方面に於て昨朝來柳條口附近に攻撃し來りし敵は狙撃歩兵第一、第五旅團にして悉く長灘方向に撃退せられたり敵の受けたる損害は比較的多大にして少くとも七百を下らず現に敵の死體三百以上を運搬するを目撃せり

黑溝臺附近の戰鬪に於ける敵の遺棄せる死體にして我軍に於て蘇麻堡附近のみにて始末せしもの既に九百以上に達せり

威鏡道及沙河附近の會戰

(二月二十八日より二月四日まで)

(一)

二月四日大本營報告

一、威鏡道方面

探報に依れば二十四日以來端川に停止しありし露兵約三百騎、砲二門は二十八日悉皆城津に退却せり

二、沙河方面

昨日の夜僅少なる敵歩兵歪頭山及狄々山附近に來襲せしを皆之を撃退せり又同日午後柳匠屯、萬寶山、沙河堡北方、澆城堡(温盛堡東南約一吉)、東孤家子(温盛堡西南約二吉)及西孤家子(沈旦堡北方約一里)附近より我陣地各所を砲撃せり

本日午前十一時頃敵の騎兵五六百三臺子七臺子北方約一里より渾河右岸に迫り又他の歩兵約一中隊砲兵約一中隊より成る敵は川臺子より七臺子に向ひ攻撃せり敵は尙ほ後尾部隊を有するものゝ如く七臺子の守備隊は之と交戦中なり

(二)

五日大本營報告

一、咸鏡道方面

諜報に依れば敵は咸津に蓄積しありし糧食を三箇所とも盡く焼失したり
敵軍に属せし露國通譯の韓人に送りたる書簡及露兵の談話に依れば露國は旅順陥落せられ今又哈爾
濱方面危険なれば獨り此方面に於て假令戰鬪勝つも無効なるを以て今より北方に引上ぐるなりと

二、沙河方面

昨日午後敵砲は塔山西側より馬園子山附近を砲撃し今朝僅少なる敵の歩兵は各所に來襲せしむ之
を撃退せり

長灘方面にありては敵兵銳意工事を爲すの外一般に靜穩なり

昨日七臺子を攻撃せし敵は我該地にありし守備兵のため阻止せられ三臺子に停止しありしか今朝に
至り茨楡蛇七臺子(北方約二里)方向に退却せり

沙河方面の戦況

二月五日より同十一日まで

(一)

六日大本營電

昨日朝敵歩兵約一少隊三家子(柳山子東方約五里)附近に來襲せしむ之を撃退せり
同日午後三城子山、柳匠屯附近、萬寶山西方高地桑園子及官林堡附近の敵砲は我陣地各所を砲撃し又
昨夜十時頃漢城堡附近の敵砲兵は鐵道橋附近を射撃せり其他彼我斥候衝突の外異狀なし

龍河右岸方面は昨日と大差なし

(二)

八日午前大本營電

昨日唐家山石山、桑園子、沙河堡、漢城堡、官林堡及小韓臺(沈旦堡北方約一里)附近の敵砲兵は我陣
地各所を砲撃せり
又昨夜一、二小隊の敵歩兵は馬園子山、興隆屯及腰屯西北高地附近に來襲せしか我前哨は悉く之を撃
退せり

萬家園子、李大屯、沈旦堡及黑溝臺の前面に在りては敵兵防禦工事を繼續しつゝあり

(三)

九日午前大本營電

昨日七日夜萬寶山西方高地、沙河堡、漢城堡及孟達堡附近の敵砲兵は我陣地各所を砲撃せり
又敵は依然林盛堡、萬家園子及黑溝臺附近の前面に銳意防禦工事を繼續しつゝあり

(四)

九日午後電

昨日八日敵砲兵は漢城堡附近より拉木屯西北、鐵道橋附近に向ひ又年魚泡附近より煙臺子附近に向ひ
砲撃せり同夜敵の歩兵約一中隊半は興隆屯に向ひ又約一、二小隊は長嶺子東北高地及房身に向ひ來
襲せしむ悉く之を撃退せり

本日敵砲兵は三城子山西南方より歪頭山南側附近に向ひ又唐家屯石山西北方より狄々山に向ひ砲撃

せし外異状なし

(五)

十一日午前電

五〇

昨九日午前九時頃我一部隊は張起盛(邊牛条堡東北約一里)南方高地を占領せり該地に在りし敵の歩
兵約二中队は死者一、傷者十を運搬しつゝ張起盛方向に退却せり又同日午後敵砲兵は唐家屯北方高
地、桑蘭子、萬寶山西方高地、漢城堡及孟達堡附近より我陣地各所を砲撃せり
又本日沙河堡、漢城堡附近の野砲及孟達堡附近の重砲の我陣地を砲撃せり
本日までに黒溝臺方面にて埋葬せし敵の屍體約二千鹵獲品小銃二千挺なり

(六)

十一日午前電

昨十日夜敵の歩兵約一中隊は歪頭山村附近に來襲せしも之を撃退せり又同日塔山西麓及沙河堡附近
の敵砲兵は蒲草窪附近を射撃せり
本日午前六時頃敵の歩兵約一中隊は李大人屯附近に來襲せしも直に之を撃退せり其他敵の重砲及野
砲は李大人屯、喇叭臺(李大人屯西方約一里)附近を緩徐に砲撃せり又萬家園子、李大人屯方面の敵は
續に工事を増築し輕便鐵道小房身(孟達堡東方約二吉)附近まで延長したるものゝ如し

興京及沙河方面の戦況

(二月十一日)

十二日午後大本營電

一、興京方面

我一部隊は城廠西方約三里附近に在りし敵騎約二十を包圍し負傷十一、即死三の損害を興へ乘馬三、
牛十一、羊四十を鹵獲せり

二、沙河方面

昨十一日敵の砲兵は山咀子、桑蘭子、萬寶山、沙河堡及後鴉虎嶺子(黃蠟蛇子西北約二吉)附近より我
陣地各所を又包相屯附近の敵の重砲は緩徐に砲撃せり其他萬家園子沈且堡方面の敵は
工事を増築し孟達堡西南方には新に二十四門の肩牆を構築せり
露國公報に依れば過日黒溝臺附近の會戦に於て狙撃第六、第二、第三聯隊長及狙撃第二旅團長負傷せ
りと

沙河方面の戦況

(二月十二日より同二十二日まで)

(一)

十三日午後大本營電

昨十二日午前十時頃敵砲兵は歪頭山村を砲撃し同時に敵の歩兵小部隊同村に來襲せしも之を撃退せ
り
昨夜約一小隊の敵兵は歪頭山村及前松木堡子(歪頭山東方約一吉)附近に又今日午前十時過僅少なる
敵の歩兵部隊砲撃、韓山臺に來襲せしも悉く之を撃退せり黒溝臺方面に在りては敵兵依然工事を

繼續するの外異状なし

(二)

十五日午前大本營電

五四二

昨十三日敵砲兵は塔山東側、萬寶山西方高地、桑蘭子、達連屯及荒地附近より又本日萬寶山西方高地、孟達堡及沙河堡附近より我陣地各所を砲撃せり其他敵は林盛堡李大屯及黑溝臺の前面に依然防禦工事を繼續しつつあり

七臺子方面に在りては今日十四日午後敵の騎兵約二中隊雙樹子(七臺子西方約四里)より虎墩砦(雙樹子東南約一里)に侵入し又他の敵の騎兵約二中隊は平房(七臺子西南約五里)より大岔(平房南方約一里)に向ひ前進せり又砲兵を有する約八、九千の敵の騎兵集團は平房西方より南進し午後六時頃七臺子西南約六里附近に於て渾河左岸に進出せんとしつつあり

(三)

十六日午前大本營電

昨十四日我砲兵は前松木堡子を射撃し全部落に火災を起さしめたり三城子山附近の敵砲兵は之に應射せり

昨夜歪頭山村に約一小隊の敵歩兵來襲し次て今日十五日拂曉約一大隊の敵の歩兵同地に來襲せしも悉く之を撃退せり

七臺子方面に在りては本日午前敵の騎兵約五百、尙在門(七臺子西北約一里)より三臺子に進入せり

昨渾河右岸に沿ひ南下せし敵は沈家凹子(小北河の西南約四里)附近に宿營し其監視部隊は高子砦(沈家凹子東方約一里)附近に配置せられあり依て我一部隊は此敵を撃退せる目的を以て前進せしむ其追及するに先ち敵は北方に退却を始めたるを以て直に黑魚勾方向(小北河西方約三里)に急迫して敵に損害を與へたり敵は王家窩棚(小北河西方約三里)附近に砲兵を配置し其退却を收容せり敵の兵力は砲兵を有する騎兵約十中隊なるか如し

露國公報に依れば西伯利第一軍團長ヌタンケルペルン東部西伯利狙撃歩兵第三十三、第三十六聯隊長及狙撃歩兵第十九聯隊長負傷せりと

(四)

十六日午後大本營電

昨十五日敵砲兵は沙河堡、漢城堡及孟達堡附近より我陣地各所を砲撃せり
今日午前五時我將校斥候は遼牛泉堡附近に於て敵歩兵百名と衝突し之を撃退せり
十四日以來南下せし敵は六間房(七臺子西北約五里)以北に退却せり

(五)

二月十七日電

昨夜包相屯(李大屯西北約一里)附近の敵の重砲は韓山台、睡叭台附近を又本日沙河堡、萬寶山附近の敵野砲は沙河堡南方高地及長嶺子附近を砲撃せり

昨日退却せし敵騎の大集團は六間房附近に在り大細角(小北河西方約三里)附近には敵兵を見り

(六)

二月十八日午後電

昨十七日桑蘭子、達連屯(林盛堡西北約二吉米)及包相屯附近の敵砲兵は我陣地各所を砲撃せり
又約二小隊の敵歩兵は柳條口附近に來襲せしか直に之を撃退せり其他各方面の敵は依然防禦工事を
繼續しつゝあり

(七)

十九日午後大本營電

昨日午後敵砲兵は萬寶山、桑蘭子、官屯(沙河堡北約二吉米)柳匠屯、漢城堡及包相屯附近より我陣地
各所を砲撃せり又本日午前より約一師團を下らざる敵の縱隊は塔山附近より西進し行家臺子(萬家
園子西北約二吉米)に進入せり

(八)

二十日午後大本營電

今朝七時頃敵の歩兵約一小隊房身(塔山南方一里弱)前に來り射撃せしも暫時にして柳匠屯(塔山
方約半里)方向に退却せり
昨夜包相屯(李大人屯西北約一里)附近の敵重砲は時々嗚吠臺附近を砲撃せり又奉天街道附近に於て
は少數の敵兵終夜亂射せり

(九)

二十一日午後大本營電

沙家屯塔山西方約半里北方に敵の重砲新に現出す

昨二十日の夜張良堡(沙河堡西方約二里)北方に於て彼我斥候衝突し又大孤家子(鮑家臺子西方約二
里)及溫盛堡(孤家子東北一里弱)附近の敵の野砲は拉木屯(沙河堡西方約二里)附近を、達連屯(孤家
子西南約半里)附近の野砲は三家子(達連屯南方一里弱)附近を、瓜加庄(李大人屯北方約一里)附近の
重砲は李大人屯附近を縱隊に射撃せり

(十)

廿二日午後大本營電

昨日山咀子、沙河東北方、萬寶山及四方臺東北方の敵砲兵は馬園子、長嶺子及鐵道橋附近を砲撃せり
又周官堡附近の敵重砲は沈旦堡を、二臺子附近の野砲は沈旦堡及後高大人屯(沈旦堡東南一里弱)を
砲撃せり

(十一)

廿三日午後大本營電

鐵道橋路以西の敵は工事を繼續しつゝあり又本日午後四方臺附近より張良堡附近を、後達連屯附近
より吉祥屯附近を砲撃せり
二十日午後沙河屯東北方、四方臺東方及汪家孤家子(桑蘭子北方一里弱)の敵砲兵は我陣地に向ひ
若干射撃せり
同日午後四時頃支那服を着せし十五名の敵の斥候は年魚泡より土臺子北方約五百米に接近せしか我
兵之を撃退せり敵の死傷六(内將校一)我に損害なし又午後八時頃約一分隊の敵の斥候は荒地南方に

同時に敵の歩兵約一中隊泡子沿(林堡堡西方二里)の前方約二百米に接近せしも我射撃に依り退却せり包相屯(李大人屯西北約一里)附近の敵の重砲は午後一時頃東部砲台附近を射撃せり

(十二)

二十四日午後電

今二十四日午前九時頃敵は前松木堡子(歪頭山東方約半里)に放火して胡家臺(前松木堡子東方約半里)に退却せり

昨夜半敵の歩兵約一小隊媽々街(楊家窩棚西方約二里)附近に接近せしも之を撃退せり又本日午前敵の將校斥候らしき者歪子北方に接近せしを以て之を撃退し其三名を斃せり
本日午後敵の重砲は包相屯より李大人屯を、又二臺子の野砲は沈旦堡を射撃せり

(十三)

二十五日午後電

昨夜(二十四日)候家屯(歪頭山西北半里)に約一大隊の敵兵來襲し又修家攻(歪頭山西北約一里半)の高地に向ひ兵力未詳の敵兵逆襲し來りしも之を撃退せり

(十四)

二十六日午後大本營電

劉姓臺子(秋々山北方約一里)附近の敵砲約二十四門は修家攻に向ひ砲撃せり
昨夜敵の一小部隊本道以東の地區に來襲せしも之を撃退せり又本日萬寶山附近の敵砲兵は腰屯附近を瀧城堡の敵砲兵は拉木屯及鐵道橋附近を射撃せり

本日は天候不良にして恰も吹雪の狀態を呈せり

第三十一章 奉天附近の會戰

會戰の命名

(三月十二日大本營)

明治三十八年二月下旬より三月中旬に至る會戰を「奉天附近の會戰」と命名す

一、各個戰報

(一)清河方面附近の戰況

二十五日午後大本營電

我一部隊は二月十九日より二十二日に至る間に於て葦子峪、金斗峪及太子河左岸の地區を占領して近く敵に接し二十三日を以て清河城(本溪湖の東約十二里)附近の敵を攻撃せり此日朝來降雷紛々咫尺を辨せず地形險峻に加ふるに太子河の融氷を以てし諸隊の運動大に困難なりし 正午頃には我第一は既に敵を隔る五百米乃至千米の距離に接近し猛烈なる攻撃を爲せり

敵は天險の陣地に據れるのみならず敵月を費し堅固なる築城を爲し敵線の副防禦を設置し頑強の抵抗を持續せしを以て容許に之を奪略する能はず是に於て翌二十四日拂曉より更に攻撃を續行し午前十時頃に至り我彼相接近して爆藥戰を交ゆるに至れり敵の頑強なる抵抗も我猛烈果敢なる正面攻撃と最も勇敢なる側面攻撃に對し永く持續する能はず午後六時全く清河城を占領せり

我に對せし敵は歩兵約十六大隊砲約二十門にして清河城を全く燒棄し混亂して北方に退却せり戰場に遺棄せし敵の死體約百五十、捕虜二十四、戰利機關砲三、小銃約二百、小銃彈約十萬、地圖、電話器等若干あり土人の言に據れば後方に運搬せし敵の死傷者は清河城を通過せしものゝみにても千以上なりと云ふを以て見れば敵の損害は多大なるものと信ず我軍に於て凍傷患者殆ど皆無なり

(二)沙河方面の戦況

二十八日午後大本營電

本道以東の地區に在りては萬寶山、沙河堡及四方臺附近の敵砲兵は時々我に向ひて發射し又拉木屯前面の敵歩兵約一小隊は其位置より濫射せり
本道以西の地區に在りては昨二十六日夜萬家園子、泡子沿、陸叭臺、小樹子の各所に約一、二中隊宛の敵歩兵來襲せしも之を擊退せり

黒林屯(李大屯東北約一里)金山臺(李大屯西方約半里)附近の敵は再び工事を始めたり又北臺子及小樹嶺(北臺子の西約一里)附近の敵歩兵は頻に亂射を爲し敵砲兵は時々沈旦堡を砲撃せり

(三)

二十八日大本營電

東勾山及唐家屯北方高地の敵砲兵は本日午前四時より射撃を開始せしも我は之に應射せず
昨二十七日夜四方臺附近の野砲及温盛堡附近の重砲は鐵道橋附近の我前哨に砲火を集中し午後十一時頃約五中隊の敵歩兵は鐵道線路の南側に亘り包圍攻撃し來り其一部は遂に我散兵壕内に突入し激

烈なる格闘戦を爲し我前哨は頑強に抵抗し午前三時過途に全く之を擊退せり敵の遺棄せり屍體は五六十にして若干の捕虜及戰利品あり又萬家園子、三家子、陸叭臺等の各所に敵兵約一、二中隊つゝ來襲せしも悉く之を擊退せり

(四)興京本溪湖及沙河方面の戦況

三月二日大本營電

興京方面の我一部隊は清河城占領後敵を北方に擊退しつゝあり清河城附近に於て鹵獲せしもの大豆約三百石、豆餅約五千枚、高粱約五十石、粗製鹽約十石あり

本溪湖方面の我部隊は前肅家河子(本溪湖東北約五里)鄧眼嶺(肅家河子西北約二里半)及八日地(鄧眼方約一里半)附近の敵を漸次擊退して之を北方に壓迫せり

沙河方面の我一部隊は松木堡子及姚千戸屯を占領し敵砲兵は鐵道線の東西地區に亘り多數の野砲重砲を現し我を射撃せり

(五)

二日大本營電

興京方面の我一部隊に對する敵は漸次増加の模様あり本溪湖方面の我部隊は高臺嶺東方高地及長勾(東勾山東方約半里)附近の敵の陣地を奪取せり

沙河方面に在りては歪頭山附近前面の敵は小夜襲を試み渾河左岸の敵は沈旦堡附近より渾河に亘る

地區に對し大逆襲を爲せしも共に悉く之を擊退せり又長灘及四方臺の敵は我兵既に之を擊攘せり

(六)

三月三日大本營電

興京方面の我一部隊に對する敵は屢々逆襲を試みしも皆悉く之を擊退せり本溪湖方面の我部隊は敵を其本防禦線に壓迫し目下對戦中なり

沙河方面の鐵道線以東の地區にありては後松木堡子及唐家屯北方の高地を占領し敵と對戦中又敵の歩兵約一大隊奉集堡より上瓦房に進入せんとせしも直に之を擊退せり鐵道線以西の地區に在りては漸次敵の防禦線を擊破して東北方に壓迫しつゝあり

又我一部隊は大民屯及新民廳附近の敵を擊攘し新民廳に於ては敵の糧秣を鹵獲せり

(七)

三月四日著電

興京方面

當方面の我一部隊は數日前敵を地塔(撫順の東南約六里)及馬群丹(撫順南方約六里)附近の陣地に壓迫し目下對戦中

沙河方面

昨三日夜敵は眞面目の夜襲を後松木子及唐家屯附近の我陣地に向ひ四回試みたるも悉く之を擊退せり

鐵道線以東の地區に於ける敵の數回の小夜襲も亦悉く之を擊退せり

鐵道線以西の地區に在る我兵團は猛烈なる攻撃を續行し目下武鎮營(沙河堡の西方約二里)より來神堡(武鎮營西北約一里)を経て蘇胡堡(來神堡の西北約二里)に亘る地區を占領せり

一 鴨河右岸の我兵團は小北渾河及遼河の間に在る敵を擊攘しつゝ北進し長灘附近より四方臺附近に亘る敵の防禦線を擊破して猛烈なる追撃を續行し目下倭家堡(奉天西南約六里)より達子堡(奉天西方約五里)を経て拉木河(達子堡北方約一里半)に亘る線に達せり

數日來各所に於ける敵の死傷及鹵獲品等多大なるも未だ其調査に遑あらず但し(玉江堡蘇胡堡西南約一里半)に於て鹵獲せしもの麥、蕎麥粉等約一萬袋、豆粕約五萬箇其他黑麵包、食鹽、薪、野菜等あり又大韓臺(玉江堡南方約一里半)に在る敵の被服庫を占領せり

(八)興京及沙河方面の戦況

五日午後大本營著電

興京方面

敵は數線の防禦線に據り尙ほ頑強に抵抗しつゝあり

沙河方面

昨四日邊牛采堡(歪頭山東方約一里半)北方高地を攻撃せし我部隊は敵の第一陣地を奪取せり

後松木堡子附近の我部隊は今日拂曉其東北方高地に在り角而堡を占領せり

鐵道線以東の地區に在りては今日午前八時半頃我一部隊柳匠屯(西寶山東南約一里)を占領し敵の一部を該部落の中央複郭に壓迫し目下之を包圍しつつあり
鐵道線以西の地區に在りては今日午後五時頃漢城堡、小蘇家堡附近を占領し尙ほ攻撃前進中なり蘇家屯停車場は目下焼けつつあり

(九)興京本溪湖及沙河方面の戦況

興京方面

六日大本營電

地塔附近の敵は今日六日屢々逆襲し來りしも我兵悉く之を撃退せり

馬群丹附近の敵は頑強の抵抗を爲しつつあるも我攻撃は漸次其歩を進め其一部は今日午後八時頃地東北方面高地(馬群丹南方約四吉)を占領するに至れり

本溪湖方面

本日午後我一部隊は種子勾(馬群丹南方約二里)南方帶の高地を占領し敵を三家子(馬群丹西南約一里)方向に撃退せり

昨日夜高嶺附近の我正面に向ひ敵兵逆襲し來りしも之を撃退せり

沙河方面

鐵道線以東に在りては昨日夜修家坎の北端に逆襲し來りし敵を撃退せし外戦況變化なし

鐵道線以西に在りては東部漢城堡より二蓋子に亘る敵と對戦中にして敵は頗る頑強に抵抗し且つ近次兵力増加の模様あり

渾河右岸に在りては今日六日朝砲七十門を有する約一師團の敵大石橋附近に向ひ逆襲し來りしも之れを撃退せり

(十)興京及沙河方面の戦況

七日大本營電

興京方面

懷仁方向に前進せし我部隊は三月六日早朝邊石哈達(懷仁の西南約二里)を占領し尋て懷仁を占領せり
地塔及馬群丹方面の戦況變化なし

沙河方面

鐵道線以東に在りては今日午前三時頃敵の歩兵唐家屯北方高地に攻撃し來りしも之を撃退せり此際敵は死體三、三十を遺棄して退却せり又午前二時頃より塔山及萬寶山附近の敵砲兵は我に砲火を集中し次て衆多の敵兵來襲し來りしも午前四時半頃に至り悉く之を撃退せり鐵道線以南に在りては本日午前十一時頃東部漢城堡を占領し一旦敵の回復攻撃を受けしも全たく之れを撃退せり

渾河右岸に在りては敵兵揚士屯附近に漸次増加の模様あり又李官堡は我兵、其三分の二を既に奪取し

敵兵約一師團の進襲を受けしも之を撃退せり

(十一)

八日午後電

馬群丹附近に於て數日來優勢なる敵と交戦しつゝありし我部隊は本日午前八時頃敵を其陣地より驅逐し北方に向ひ追撃中なり

(十二)敵軍の退却

八日夜大本營滿洲軍總司令部聯合

自は今朝來退却を始め我各軍は猛烈に之を追撃中なり

(十三)興京及沙河方面の戦況

九日午前大本營電

興京方面

馬群丹方面の敵を撃退せし我部隊は尙ほ追撃を續行しつゝあり

沙河方面

鐵道線以東に在りては敵漸く動搖の徵候を呈せしを以て去る七日夜半より全線總攻撃に移り敵を其陣地より驅逐し渾河河孟に壓迫しつゝあり

鐵道線より渾河左岸に至る全地區は既に我占領に歸せり

渾河左岸に在りては揚士屯及李官屯附近の敵は引續き頑強に抵抗を持續し屢々逆襲し來りしも我兵悉く之を撃退し多大の損害を興へて漸次奉天方向に壓迫中なり又奉天北方の地區に在りては敵の頑

強なる抵抗を受けしも小集屯(奉天西北約二里)、八家子(小集屯東約半里)及三台子は既に我有に歸し鐵道は奉天北方に於て我軍既に之を破壊せり

(十四)

九日午後電

一昨日以來敵は寧家屯(揚士屯西方約半里)西方畑地に於て擔架又は車輛を以て運搬しつゝある我死傷者に對し屢々猛烈なる砲撃を加へたり

(十五)

九日午後大本營電

興京方面

地塔附近に於て堅固の陣地に據り頑強に抵抗を爲せる敵を攻撃中なりし我部隊は數日來其攻撃を續行し今九日午前三時全く之を撃退し續て追撃中也又馬群丹方面の我部隊も依然敵を急迫しつゝ無順方向へ前進中なり

沙河方面

奉天の南及東方地區に在りては全く敵を渾河河孟に壓迫し其左岸に停止し堅固の防禦工事に據れる敵を攻撃中なり

奉天の西及方北地區に在りては最も頑強に抵抗しつゝ敵に對し攻撃猛烈を極めつゝあり本日強風砂塵を捲き日色爲に暗く全く展望し難はるる状態を呈せり

(十六)奉天占領

十日午後大本營電

五五六

奉天占領 奉天を占領せり數日來の包圍攻撃は全く其目的を達し今や奉天附近各所に於ては非常の激戦中にして捕虜並に兵器、彈藥、糧秣等諸軍需品の鹵獲極めて多大なるも未だ此調査に遑めら

(十七)撫順占領

十日午後大本營電

東京方面の我一部隊は昨夜撫順を占領し目下同北方高地端を占領せる敵を攻撃中なり

(十八)興京及沙河方面の戦況

十日夜大本營電

興京方面の我部隊は撫順北方高地に據り尙ほ抵抗しつつある優勢の敵を攻撃中なり

沙河方面の各兵團は敵を全く沙河右岸に撃退し目下奉天東方及北方に於て之を包圍し戦場追撃中なり

敵報告に依れば敵は本十日正午より鐵道線路と奉天街道中間の地區を全く隊形を紛亂し疲勞困憊の狀を呈し實に悲惨の狀態を以て三窪(奉天北方約三里)附近に亘る地區に充満して續々北方に退却す其數實に幾萬なるを確むる能はず而して該地附近に在りし我歩砲兵は逐次此敵に銃砲火を集中し甚大の損害を與へつゝ日夜に至れり

又我一部隊は興隆甸より急行し夕刻蒲河(奉天北約五里)附近に至り敗退する敵に對し多大の損害を

與へ敵を殲滅せんことを勉めつゝあり

(十九)

十一日午後電

興京方面の我部隊は敵を撃破し續て之を追撃し昨十日午後十一時會元堡(撫順の北方二里)に達し目下尙ほ猛烈に追撃前進中であり輕便鐵道貨車數百輛を鹵獲せり其他の戦利品は未だ調査に遑めら

二、總括戰報

大本營公示

二月十九日より三月十日に至る奉天附近の會戰經過

(上)京方與面

二月十九日 常方面の兵團は其運動を開始す

二十日 右翼隊は千合嶺及様子嶺にありし歩兵約二大隊、騎兵約三中隊、山砲約二門より成る敵を攻撃し午後四時三十分同嶺を占領せり敵は死傷二十を遺棄して金斗峪方向に退却す此日捕虜一名、

武器被服若干の戦利品あり又其左翼隊は小島、營給嶺附近にありし歩兵約二大隊、騎兵約一中隊の敵を驅逐し同地を占領せり

二十一日 午前九時頃敵の歩兵約一大隊及砲四門より成る一隊柳河の東方に集合し又歩兵約二中

隊柳河より金斗峪方向に行進するを見る午後四時頃に至り敵の砲兵約一中隊英守堡(柳河の

西南三吉)附近に現れ我に對し砲撃を開始せり我砲兵之に應射して日没に至る此日海柳河河谷に漕動せし敵の砲兵約二中隊あり

二十二日 午前十時頃海柳河附近の敵砲兵は我右翼隊の第一線を砲撃し正午頃其歩兵約三中隊我右翼隊の右翼に又約一中隊は左翼隊の右翼に向ひ進襲し亦りしも其に之を離退せり此日午後右翼隊は海柳河附近の防禦工事に據れる歩兵一聯隊、砲兵一中隊の敵を攻撃して之を離退し其一部は敵の抵抗を受くることなく午後四時金斗峪を占領せり又左翼隊は南台子附近に開進し清河城附近の敵に對して攻撃の準備に着手せり此際敵の歩兵約四、五中隊攻撃し來りしも之を離退せり

二十三日 豫定の如く清河城附近の敵を攻撃す此日降雪紛々咫尺を辨せず加ふるに太子河の融氷を以てす之かため諸隊の運動大に困難を極む特に敵は天險に加ふるに數箇月以來堅固なる築城を施せる障地に據りて頑強に抵抗せるか故に日没に至り終に攻撃を中止するに至れり

二十四日 拂曉より更に攻撃を續行し遂に午後六時全く同地を占領せり諸隊は機を逸せず追撃に轉せしも地形と夜暗とに妨げられ速く之を急追すること能はざりし此日我に對せし敵は馬群丹方向に潰走せり戰場に遺棄せし敵の屍體約百五十、捕虜二十四名、機關砲三門、小銃約二百、小銃彈藥約十萬發等あり捕虜の言に據れば我に對せし敵は豫備歩兵第七十二師團の全部にて野山砲二十門を有し各中隊の人員約百五十名あり而して其二、三中隊は殆ど全滅に歸せり又東部西伯利狙撃歩兵

の一部も此師團の西方に到着しありしと

二十五日 拂曉より追撃を續行し右翼隊は西川嶺附近に達し左翼隊の一部は大嶺附近に在りし東部西伯利狙撃歩兵第二十二聯隊及豫備歩兵第七十一師團の一部より成る歩兵約三大隊の敵と衝突し日没に至る

二十六日 早朝より更に追撃を續行し右翼隊は微弱なる敵を驅逐し午後三時五龍口を占領せり又左翼隊の主力は八盤嶺附近に在りし砲兵を有する兵力未詳の敵を驅逐し更に進て五百牛条を占領せり大嶺附近の敵と對峙せし我左翼隊の一部は本日此敵を離退し多大の損害を與へたり敵は沿道の村落を悉く燒棄して退却せり

二十七日 右翼隊は更に追撃を續行し地塔附近に於て新に來着せし西伯利狙撃歩兵第二十三及第二十四聯隊野砲八門、機關砲四門より成る敵と衝突し日没に至る又左翼隊は救兵台東方高地より五百牛条西方高地を経て馬群丹南方高地に亘り障地を占領せる敵に對し砲撃を開始せしも地形の關係上未だ攻撃を實施するに至らず

二十八日 左翼隊は敵を擊攘し救兵台東北高地及五百牛条西北高地を占領し猶ほ夜襲を以て馬群丹南方高地の敵を擊攘することを勉めたるも其成果を見るに至らず此日午後四時頃敵の歩兵約三大隊荒地附近に進入し其一部は我左翼を脅威せり

三月一日 左翼隊は一支隊を頭道溝附近に出して我左側を掩護し且つ沙河方面の右翼兵團と連絡せしめ尙ほ攻撃を續行したるも敵は數線の堅固なる防禦陣地に據り且つ其兵力漸次増加し西伯利第二十一、第二十二聯隊も此方面に増加し來り之かため攻撃進捗意の如くならず又右翼隊も地塔方面の敵兵漸次増加するを以て現狀を維持するの止むを得ざるに至れり

二日 馬群丹及地塔方面の敵は益々其兵力を増加し頑強なる抵抗を爲し屢々逆襲を試みたるも盡く之を撃退せり

三日 戰況著じき發展を見ること能はず

四日 左翼隊は拂曉より尙ほ馬群丹の攻撃を續行したるも地形險惡にして目的を達するに至らず右翼隊は主力を以て地塔附近の敵に對して一時現狀を維持し其一部を馬群丹方向に前進せしめ左翼隊の攻撃を援助したり此日右翼隊の左翼に向ひ敵兵猛烈に逆襲し來りしも之を撃退せり此方面に新に第二十二師團の第八十五聯隊及他の二個聯隊増加し來れり

五日 左翼隊は早朝より馬群丹方面の敵を攻撃し漸次其歩を進めたるも尙ほ未だ敵陣地の全部を奪取するに至らず右翼隊は依然敵と相會時せり

六日 左翼隊は更に攻撃を續行し遂に夜に至り漸く荒地東北高地より稗子勾西北高地に亘る線を占領するを得たり右翼隊方面の敵は屢々小逆襲を試みしも悉く之を撃退せり該隊の右翼には「レン

ネンカンブ」支隊の一部行動し又永陵方面の敵も此方面に増加し來りたるか如し是より先恆仁方面に前進せしめし我一部隊は本日全く恆仁を占領せり

七日 我左翼隊は引續き杜家堡子北方高地の敵を攻撃せしか又其目的を達すること能はず依て一支隊を其左側に派遣し沙河方面より應援し來る支隊と協力し馬群丹南方高地の敵を攻撃せしも亦未だ突入に至らず我右翼方面は狀況依然たり

八日 更に攻撃を續け遂に馬群丹の敵を其陣地より撃退し腰嶺附近よりレントウワン（腰嶺と石佛嶺の中間）に亘る線に達するを得たり

九日 左翼隊は敵を急迫し午後五時半頃敵の後衛を驅逐しつゝ江河左岸に進出せり又右翼隊は昨八日より更に猛烈に攻撃を繰返し夜半まで續行し本日午前全く敵を撃退し尋て追撃に轉せり

十日 敗退せる敵は數日來堅固なる防禦工事を施せる撫順北方の陣地に依り我を拒止す時に陣河の中流既に解氷し橋梁に依る外渡河し能はざるを以て我攻撃甚だ困難なりしも左翼隊は百難を排し最勇敢なる攻撃を行ひ本日夕に至り全く之を撃退し續て夜半に至る迄猛烈なる追撃を續行せり是に於て撫順附近の地區全く我有に歸せり又右翼隊は今朝來猛烈なる追撃に移り本日夕渾河左岸に達せり此際敵は其附近の陣地に據り抵抗を試みんとせるを以て同隊は夜襲に依り之を撃退せんとするや敵は夜暗に乗じて退却せり

我東京方面の兵團に對せし敵は東部西伯利狙撃第六師團、豫備歩兵第七十一師團、同第二師團の第六第七聯隊、第三師團の第十、第十一、第十二聯隊、第三十七師團の第四百四十六聯隊、第二十二師團の第八十五聯隊、「レンネンカンフ」支隊等にして我軍の追撃の結果潰亂して北方に退却せり
 營方面に於ける敵の死傷は本會戰以來のものを積算すれば二萬に下らざるべく我死傷は三千八百名なり捕虜及戰利品諸品は既に報せしか如し
 二月二十四日より三月十四日に至る經過

(下)沙河方面

二十四日 右翼兵團方面に在りては前松木堡子に在りし敵は同村に放火して見家臺に退却せり又午前十一時過蔡家屯の部落に火災起りしも其原因詳ならず
 其右翼隊は本日鄧眼嶺八日地及前肅家河子を又中央隊は本夜下邊貝溝より張起遼南方に亘る線を左翼隊は修家坎の高地を占領せり此日偏嶺附近の敵は高力營方向に退却し高官堡には尙ほ敵騎三中隊内外あるを見る中央兵團方面に在りては昨夜僅少の敵兵我前哨に向ひ亂射せし外異狀なし
 右翼兵團方面に在りては本日午前敵の將校斥候土臺子北方に接近せしを以て我前哨之を驅退し其二名を獲せり
 本日午後敵の重砲は包相屯より李大屯を又二臺子附近の野砲は沈且堡を射撃せり又本夜歪頭山の西北候家屯に歩兵約一大隊、修家坎に兵力未詳の敵兵逆襲し來りしも之を驅退せり
 二十五日 右翼兵團方面に在りては其右翼隊は敵の騎兵約三中隊を驅逐し二馬嶺より二馬園子を驅逐し楊大人屯(高官寨東北約一里)の東北五道嶺に亘る線を占領せり又其左翼隊は本夜姚千戸屯の占領を試みしも優勢なる敵の抵抗に遭遇し一時其攻撃を中止し狄々山及修家坎附近に準備陣地の構成に移れり
 中央兵團方面に在りては昨夜僅少の敵兵小東甸の我作業部隊を射撃せし外異狀なし
 左翼兵團方面に在りては昨夜數名の投降者ありし外異狀なし
 此日午後四時頃約一師團を下らざる諸兵連合の敵の一縱隊は官林堡より東北に向ひ行進するを見る又渾河右岸に在りては約二軍團の敵兵長灘より四方臺に亘り陣地を構成し其騎兵の大集團は大黃旗堡及黃地附近を中心として位置せり而して遼河右岸には敵の騎兵斥候出沒するのみにして未だ大なる部隊の駐屯するを認めず

二十六日 天候不良吹雪の状態を呈し咫尺辨せず右翼兵團の右翼隊は小堡より高臺嶺を経て王窩嶺に亘る堅固の陣地を固守せる歩兵約三千砲約十五門の敵と相對峙して日没に至る又中央隊は下邊貝溝北方高地より松樹咀子に亘る敵を擊攘して之を占領せり此日劉姓臺子附近の敵砲兵約三中隊(二十四日)は修家坎に向ひ砲撃せり

中央兵團方面に在りては昨夜約一小隊の敵兵來襲せしも之を撃退し又本日萬寶山附近の敵砲兵は腰屯附近に漢城堡附近の敵砲兵は拉木屯及鐵道橋附近を射撃せし外異狀なし左翼兵團方面も亦狀况依然たり

本日夕刻後獨虎嶺子より前獨虎嶺子方向に敵の騎兵約一聯隊運動するを見る

二十七日 右翼兵團方面に在りては其右翼隊は敵の前進陣地たる王富嶺北方の高地を占領し尙ほ其北方の本陣地を攻撃せんとせしも此陣地は堅固の角面堡を有し且つ敵の歩兵約四大隊、砲兵約一中隊馬群丹方向より前進し來り小堡附近に停止し我右側を脅威するの狀あるを以て一時其攻撃を中止し暫く現狀を維持することとせり

右翼兵團の左翼及中央兵團は此日砲撃を開始せり各所の敵砲兵は午後に至り砲數約三百門を顯し應戰せり萬寶山及其西方高地の敵高地は我最大重砲のため特に多大の損害を受けたるか如し中央兵團方面に在りては本夜四方臺附近の野砲及溫盛堡附近の重砲我鐵道橋附近の前哨に砲火を集中し午後十一時頃約五中隊の敵歩兵鐵道線の兩側に亘り包圍攻撃し來り其一部は遂に我散兵壕内に突入し猛烈なる格闘戰を惹起せしも我前哨は後方よりの増援を得守地を死守し午前三時過終に全く之を撃退せり此際にあつて我損害は五十内外にして敵の遺棄せし死體は五六十に達せり此他若干の捕虜及戰利品あり

左翼兵團方面に在りては本日午後に至り包相屯及五家子附近に於て敵の往復頻繁となり黒林屯金山臺附近の敵は我砲撃中止後再び工事を始め北嶺子及小樹子附近の敵歩兵は頻に亂射を爲し日没に墜し所在不明の敵砲兵再び沈且堡を砲撃せり又本日夜萬家園子、三家子、陞叭臺等の各處に敵兵約一二中隊つゝ來襲し來りしも悉く之を撃退せり

渾河右岸に策動せる我迂回兵團は僅少の敵を驅逐し其の右翼隊を以て双樹蛇附近の中央隊を以て劉家崗子附近を左翼隊を以て魏四家子、上下力馬附近を占領し其騎兵は東長崗子を占領せり此日左翼兵團に捕虜下士以下五十名あり

十八日 右翼兵團方面に在りては其右翼に向ひ馬群丹方向より來進せる敵兵は小堡附近に止まりて南進の模様なし又本日午後馬群丹の西南三家子より南方二溝に向ひ歩兵約二大隊の敵兵前進し來るの報あり東勾山及唐家山北方高地の敵砲兵は本日午前四時より我に向つて射撃を開始せしも我之に應射せず午後一時に至り我兵團の全線の砲撃を開始せり此砲撃は敵に多大の損害を與へたり右翼は西孤嶺東方高地より王富嶺高地を経て松樹坦子南方高地に亘り待機陣地を占領せり

中央兵團方面に在りては朝來更に砲撃を開始し漸次敵の防禦工事を破壊し又砲兵を沈黙せしむるの狀況を呈せり

右翼兵團方面に在りては敵の野砲約七中隊重砲十三門我前面に現はれ李大屯陞叭臺及沈且堡附近

を射撃せり而して我兵團の主力は狼洞溝西方の地區に在て常に前進し得る準備を爲し其騎兵隊は機方虎嶺子附近に前進せり

迂回兵團の右翼隊は午前八時尙在門を占領し八時三十分頃加良子附近にありし敵の騎兵を撃退し北進を繼續せり其中央隊は鄭家屯北方に於て僅少なる敵兵を撃退し午前九時三十分其先頭を以て虎窩棚に達し其左翼隊は敵に遭遇することなく北進し同兵團は本日遂に三通溝より榛子溝に亘る線を占領せり

三月一日 右翼兵團方面に在つては其右翼隊は王富嶺北方高地及び高臺嶺を占領し中央隊は東勾山に向ひ攻撃せしも前樓子勾及車頭嶺方向より縦撃を受け攻撃の進捗程の如くならず而して左翼隊は松木堡子及姚千戸屯を占領せり

中央兵團方面に在りては砲撃を續行し敵も亦野砲約十五中隊、重砲約四中隊を現し應戦せり左翼兵團方向に在りては其攻撃漸次進捗し逐次敵の陣地に近迫するに至りしも敵は野砲約二十四中隊、重砲約四十門を現し漸次兵力を増加して頑強に抵抗せるを以て突撃を實行するに至らず夜に入り王家窩棚及長家窩棚に對し夜襲を試みたるも是れ亦目的を達する能はず却て敵の大逆襲を蒙くるに至れり然れども我勇敢なる抵抗は終に此大逆襲を撃退し得たり又其左翼隊は午前十一時より長灘南方の月堡子を攻撃せり

迂回兵團は今朝其右翼隊をして一時三家溝より長家窩棚に亘る線を占領せしめ中央隊をして大黃旗堡及中心地の線より蘇家安、金海堡間の地區を経て四方臺に在る敵の右側背に迂回し蘇家安附近に達したるとき右翼隊と協力して四方臺の敵を攻撃せしめ又左翼隊をして中央隊の左翼隊に連繫し丁家堡子、大橋に亘る線に向ひ敵の背後にて運動せしめたり午後十時頃右翼隊は全く四方臺を占領せり

我騎兵は此口大民屯を其一部は新民廳を占領せり

二日 右翼兵團の右翼隊は今朝高臺嶺東方高地を占領し其中央隊は未明長勾附近に於ける敵の第一陣地を攻撃せしも其西北に在る敵の第二陣地との中間に深き谷地あるため此方面の攻撃意の如く進捗せず又左翼隊は夜來敵の企圖せし小夜襲を撃退し本日馬圈子山及狄々山の北麓に沿ふて守備せる敵を撃退することに著手せり

中央兵團は砲撃の結果を待ち萬寶山の攻撃に著手し漸次良好の状況に進捗せしも未だ其成果を見るに至らず

本夜中央隊は其前面に敵の逆襲を受けしも之を撃退せり

左翼兵團は午後八時頃其左翼隊の一部を以て長灘に進入し右翼及中央隊を以て北堡子、李家窩棚及王家窩棚を占領せり尋て田水保、孟達堡の線に向ひて運動を開始し金山臺、孤家子、阿官堡及王

秀臺の線に於て再び敵の抵抗を受けしも猛烈に之を攻撃して潰亂せしめ遂に周官堡及王秀臺を占領し攻撃前進を繼續せり此方面の敵は東北方に潰走せり

迂回兵團は其右翼隊を以て張站附近に達し此夜敵の歩兵約五大隊の來襲を受けしも之を擊退せり中央及左翼隊は其左翼に連繫し敵を東北方に壓迫せり

三日 右翼兵團方面に在りては其左翼隊昨夜二日夜半より運動を起し今拂曉後松木堡子北方の高地及唐家屯北方の高地を占領し尋て敵の本防禦線に向ひ攻撃前進せしも其後の進捗意の如くならず其中央及右翼隊も亦今朝來攻撃を續行せしか遂に其効果を收むるに至らず此夜敵の大部隊我左翼隊の正面に眞面目の夜襲を四回試みしも皆之を擊退し多大の損害を與へたり又約一大隊の敵歩兵軍集堡より土瓦房に進入せんとせしも直に之を擊退せり

中央兵團は現状維持の姿勢に在り本夜敵回の小夜襲を受けしも皆悉く之を擊退せり左翼兵團は逐次敵を東北方に擊退し其右翼隊は三家子、小房身、孟達堡の諸部落を中央隊は銀附堡新開河の線を左翼隊は渾河右岸に沿ひ蘇胡堡の背後唐家屯附近を占領せり今夕刻に至り武鎮營附近の敵も亦動搖を始めたり

迂回兵團の右翼隊は今朝彰輝店附近に於て激烈なる戰鬪の後敵を林家臺方向に追撃し其他の諸隊は敵を東北方に擊退し德勝營子、達子堡、拉木河の線に達せり

四日 右翼兵團方面に在りては曩に馬群丹方面に派遣せし支隊は本日午後四時頃五家堡子(高臺嶺北方約二吉)に於て僅少の敵に遭遇し之を北方に擊退しつゝ前進せり又其中央隊は本夜其右翼隊を連貝溝北方高地に退け主力を其左翼に集結し邊牛梁堡北方の高地を攻撃して敵の第一陣地を略取せり

中央兵團の左翼隊は左翼兵團の右翼隊と連繫して攻撃前進に移り敵を東北方に壓迫しつゝ午後一時頃來神堡及武鎮營の線を占領せり其他の諸隊は昨日の姿勢に於て敵と相激闘しつゝあり

左翼兵團の中央隊は既に蘇胡堡を占領し其左翼隊は前崔家堡附近の敵を擊退し今夕沙陀子と舊橋遺橋の線に亘る敵を攻撃するため魚鱗堡附近より其右側背に迫り中央隊も漸次此戰鬪に参加せり本日師團以上の敵の大縱隊官林堡より邊城子を経て蘇家屯停車場に退却するを見る

迂回兵團は其一部を以て本夕刻西部李官堡に於ける敵の堡壘を占領し又其一部は大石橋及前心子附近に達せり而して其右翼隊は左翼兵團の左翼に連繫し敵を攻撃せり

五日 右翼兵團より馬群丹方面に派遣せし支隊は午後三時三十分東孫嶺(馬群丹西方約三里)を占領し尋て其北方にある敵の角面堡を奪取せり北大嶺(小堡の東南約一里)には尙ほ若干の敵兵を見る又左翼隊の一部は今朝後松木堡子東北高地にある角面堡を占領す此夜右翼隊の正面及佟家坎の北端に向ひ敵兵逆襲し來りしも皆之を擊退せり

中央兵團の右翼隊は午前八時半頃柳匠屯を占領し敵の一部を該部落の中央複郭内に包圍せり又左翼隊は午前八時四十分までに四方臺、英禹の線を正午頃西部漢城堡を占領し高力屯に向ひ攻撃を續行せり此日蘇家屯停車場は敵の燒棄する所と爲る

左翼兵團は朝來達連屯より小蘇家堡の線を占領し又莫家堡より揚士屯に亘る敵を攻撃せり此際其一部は敵の右翼側を脅威せり本日蘇胡堡に於て鹵獲せし武器、彈藥等極て多し

迂回兵團は其右翼隊を以て朝來左翼兵團の左翼に連繫して揚士屯附近の敵を攻撃し中央隊を以て西部李官堡の敵堡壘を奪取し該村附近の敵を攻撃せり而して其左翼隊は昨四日夜其主力を以て大石橋に、其第一線を以て轉灣橋より五臺子に亘る線に達せり又其騎兵隊は昨四日夜を以て前心臺子に達し其一部をして揚馬廠を占領せしめたり

奉天西北方面の敵は目下北陵より李官堡を経て揚士屯附近に亘る堅固の防禦陣地に據りて頑強に抵抗しつゝあり

六日 右翼兵團より馬群丹方面に派遣せし支隊は稗子勾南方一帶の高地を占領し三家子方向に敵を追撃して頭道溝に達せり此他當兵團の前面情狀變化なし

中央兵團方面に在りては奉天街道附近の前面は依然相對峙して交戦し其左翼方面は砂河堡、東部漢城堡、蘇家屯、北達子營、二臺子の線に停止せる敵と相對し東部漢城堡奪略の目的を以て猛烈な

る攻撃を實施せしも敵は頗る頑強に抵抗し且つ逐次兵力を増加し來るを以て容易に發展の時機を失はす

左翼兵團は蘇胡堡より李官堡に亘る線に正面を擴張し沙沱子揚士屯チコンシチエンの線に在る敵を攻撃せり

迂回兵團は奉天を其西北方より攻撃する目的を以て大石橋より平羅堡に亘る線を占領せり此日約一師團砲約七十門を有する敵兵高力屯より岔臺の間に向ひ攻撃し來りしも之を擊退せり然るに敵は再び前進し來り彼我近く相對峙して日没に至れり

七日 右翼兵團方面に在りては午前三時頃敵の歩兵唐家屯北方高地に攻撃し來りしも我頑強なる抵抗に依り屍體約三十を遺棄して退却せり又馬群丹方面に派遣せられたる支隊は今朝ターファンザ附近の敵を攻撃して午前九時三十分同地を占領し尙ほ續て敵を追撃せり其他當兵團方面の情狀變化なし

中央兵團方面に在りては午前二時頃より敵は我右翼の全面に砲火を集中し尋て歩兵約二大隊以上其正面に來襲せしも午前四時半頃に至り悉く之を擊退せり又左翼方面に在りては昨六日夜以來更に東部漢城堡の攻撃を續行し遂に頑強なる敵の抵抗を排除して本日午前十一時全く之を占領し尋て高力屯附近の敵を擊潰せんことを企圖せしも敵の猛烈なる回復攻撃を受けしを以て激戦の後之

を撃退したるも遂に其占領區域を擴張するに至らず

左翼兵團方面に在りては昨六日夜諸般の手段を盡し揚土屯の奪取を企圖せしも敵は莫家堡より揚土屯を経て李官堡に亘り堅固に編成せられたる陣地に據りて頑強に抵抗し且つ其兵力漸次増加し来るを以て遂に其目的を達する能はず依て本朝來更に攻撃を開始し其攻路を務めたるも敵の兵力は甚しく我より優勢なるを以て我兵團は極力敵を當方面に牽制し以て迂回兵團の運動を容易且つ完全ならしめんことを努めたり此日李官堡の約三分の二は我兵の占領する所と爲れり敵は午後に至り約一師團の兵を以て逆襲し來りしも苦戦の後之を維持するを得たり

迂回兵團は今拂曉より其左翼を平羅堡北方地區に擴張しつゝ北陵及張家子の線に向ひて繞回運動を開始し夕刻に至り轉灣橋より張家子に亘る線を占領せり又其騎兵隊は大新屯青堆子方面に在りて左側を警戒せり

八日 右翼兵團の前面の敵は昨夜來全線退却を始めたり依て右翼兵團は夜半より直に追撃に移り白深寨附近に於て敵に追及し尙は興隆甸に向ひ追撃を續行せり

中央兵團は午前二時頃より敵を追撃し其右翼隊は娘々寨より班子塞間の地區を潰亂しつゝ北方に退却しつゝある敵に追及し荒山附近より之を砲撃し多大の損害を興へたり

左翼兵團は七日朝以來優勢なる敵を牽制し屢々敵の逆襲に對して頗る苦戦せしも多大の損害を敵

に與へて悉く之を撃退せり此際某旅團の如きは李官堡に於て約一軍團の敵より包圍せられたるも頑強に抵抗し遂に其位置を確保するを得たり此際に於ける敵の死傷八千内外に達せりと云ふ午前十一時頃に至り敵兵動搖を始めたるを以て直に追撃に移り敵を奉天に壓迫せり

迂回兵團は敵の頑強なる抵抗を排し小集屯、八家子(小集屯東北約二吉)三臺子を占領し尙ほ追撃を續行し太平庄より北陵を経て柳候屯に亘る堅固なる工事に據れる敵と對戦し其一部は奉天以北の鐵道を破壊して其運轉を全く停止せしむるに至る

此日正午約一師團の敵數縱隊と爲り奉天の東北鐵道線路東側を北方に退却中にして其一部はツァンチユンソン附近鐵道西側に陣地を占領し其退却を掩護しつゝあり

日 右翼兵團は敵を驅逐しつゝ拂曉渾河左岸に達し其右岸を守備せし敵を襲撃して夕刻其一部は護山保及彭家樓附近に達せり

中央兵團は朝來渾河左岸に於て防禦工事に據れる敵竝に渾河堡附近に在りし敗殘の敵を驅逐し奉天東北方に向ひ攻撃前進に移りしも渾河左岸に於て抵抗せし敵は比較的多數なりし爲に我兵渾河右岸に進出する能はず左翼兵團前面の敵は依然頑強の抵抗を持續し其一部は尙ほ鐵道橋附近を固守せり要するに此方面の敵は尙ほ我兵團の緊留する所と爲り未だ退却し能はざるに似たり

迂回兵團は其攻撃逐次進捗しつゝあるも敵の防禦物に妨げられ其進捗豫期の如くならず然れども

益々其戦線を左翼に擴張し以て敵の脱出を阻止せんことを勉めたり又其左翼は敵の逆襲に遇ひ若干後退したる部隊あるも依然攻撃を續行せり

十日 右翼兵團の右翼隊は馬群丹方面より北進せる兵團の撫順北方高地の攻撃を援助し本日午前順より地塔(撫順西方約二里)北方高地に亘る敵を攻撃し正午頃之を撃退して追撃に移り亂泥窪、喇麻溝の線を占領せり又中央隊は興隆甸北方の高地を占領せる敵を攻撃し午前十時頃全く之を撃退し薩山堡を占領せり而して左翼隊は本日朝舊站西北高地の角面堡及其附近の敵を撃退して追撃に移り次て彰家樓北方高地より達連堡子北方高地に亘る敵を攻撃し接戦の後之を撃退し其砲兵は鐵嶺街道及鐵道線路を退却する敵の大縱隊に對し日没まで之を砲撃し多大の損害を與へたり中央兵團の右翼隊は朝來七間房附近の敵を撃退し續て敵を撃退しつゝ午前十時半王家勾東方より道家溝に亘る線に進したるとき約二大隊の敵の逆襲を受けたるも之を撃退し同十一時頃王家勾より以南の高地脈を占領し奉天街道を退却中なる敵を攻撃せり其一部は昨九日夜半楊官屯東北方に於て渾河を渡り王家子及毛家屯附近に在りし諸兵連合の敵を撃退し益々追撃を續行し本日午前十一時魯麟堡東北方より二臺子に亘る線を占領し敵の退却を遮断しつゝあり左翼隊は其一部を渾河堡の正面に残置し主力を以て昨九日夜半楊官屯西南方に於て渾河を渡り其右岸に在りし敵を撃退したる後追撃を續行せり

左翼兵團方面に於ては今朝まで敵を前面に牽制しありしか機熟するを待ち大堡及新堡を攻撃して午前十時之を占領し續て奉天の西方十里馬頭西塔、大平庄、後塔の線に亘り全軍の追撃前進に移れり迂回兵團は昨九日以來其左翼に屢々敵の逆襲を受けしも之を撃退し其左翼を擴張し殆ど北方より南方に向ひて敵を攻撃せり
今午前十時頃敵の退路を遮断する目的を以て胡土臺方向に前進せし我一部隊に對し約二師團の敵兵攻撃し來り其戦線を擴張して我左翼を壓迫せんをせしも翌十一日朝之を撃退せり
此日中央兵團の一部及左縦兵團の一部は午前十時奉天を占領せり
沙河方面に於ける捕虜敵の死傷及戦利品等は既報の如し

三、皇軍正大

(一) 奉天城内の宿營禁止 九月六本營警報

大清帝國皇室發祥の靈地を尊重し竝に在奉天支那人民の安寧を保持せしむるため滿洲軍總司令長官侯爵大山巖は昨三月九日總追撃の命令中に於て團隊の奉天城内に宿營することを嚴禁せり

(二) 敵方從軍外國武官の保護 十四日午後大本營警報

奉天附近に於て我軍に收容せられたる敵の從軍武官英國海軍大佐エニヤス、米國軍醫正ハアベ

同大尉シャドソンの三名従僕二名(一は露國一は印度人)を昨十五日遼陽出發神戸迄送附す

(三)捕虜非戦闘員の放還 二十五日午後大本營電

奉天附近の會戰に於て我軍の捕虜を爲りし露國非戦闘員中奉天に殘留しある者今般左の通放還せり
我前哨線外に放還の者將校相當者四十七人、下士相當者三百五十九人、看護婦九人、從軍僧侶二人、從軍商人四人、希望に依り芝罘若くは上海の放還の者將校相當者二十三人、看護婦二十三人、下士相當者二百九十八人

四、我軍の死傷

三月十二日大本營電

各軍軍醫部長の報告に係る我軍の死傷總數左の如し
二月二十六日より今朝までに得たる各軍軍醫部長の報告を綜合するに我死傷總數四萬二千二百二十
二名なり

五、敵の損失

(一)俘虜

十一日夜大本營電

昨日までに知り得たる俘虜の概數二萬にして尙ほ續々増加し三萬以上に達する見込なり輸送其他
醫藥備を顧慮し取敢ず電申す

(二)沙河方面の戦利品並に死傷

十二日午後大本營電

沙河方面の各兵團に於ける捕虜戦利品及敵の死傷者の概數左の如し

但し捕虜、各種火砲及其他の戦利品等は尙ほ續々増加しつつあり

捕虜 少將ナヒモフ以下四萬以上

敵の遺棄せし屍體 二萬六千五百人 其他の死傷 約九萬人

戦利品

- ▲軍旗二旒 ▲火砲約六十門 ▲小銃約六萬挺 ▲彈藥車約百五十輛 ▲輜重車約一千輛 ▲砲彈約二十萬發 ▲小銃彈約二千五百萬發 ▲雜穀約一萬五千石 ▲馬糧約五萬五千石 ▲輕便鐵道材料約十八輛里分 ▲同運轉車輛約三百輛 ▲馬匹約二千頭 ▲地圖 ▲支那車輛二十三輛分 ▲被服裝具 ▲支那車邦一千餘輛分 ▲「パン」約百萬食 ▲燃料約一千八百萬貫 ▲干草約一萬五千貫

此外土工具、天幕、牛、電線、電柱、角材、鐵廢棄、煖爐等枚舉に遑あらず

與京方面に在りては未だ報告に接せず

十三日大本營電

盧漢軍旗の内一箇は第十六軍團第四十一師團第百六十二聯隊のものにして千八百七十四年、千八百七十八年及千八百八十三年の三戦役に參與し千八百七十八年には拔群の功ありし聯隊なり其衛戍地

は「ウキリナ」軍管区内「モキリヨン」にして聯隊長は大佐ガフソロフなり

五七八

三月十三日午後大本營電

九里澤子東南方にて鹵獲せし車輛昨日報告の分は其數一千餘輛にして其種類概ね左の如し

- ▲八瑠米野砲彈藥車百五十輛▲十五瑠重砲彈藥車三百輛▲小銃彈藥車二百輛▲土工具車五十輛
 - ▲電信材料車三十輛▲電話材料車三十輛▲架橋材料車五十輛▲輜重車四百輛▲湯沸車七十輛▲
 - 八瑠野砲彈一萬四千發▲十五瑠重砲彈千四百發▲小銃彈百二十萬發▲土工具五千個▲被覆線百
 - 把▲氣球繫留索車共二輛▲電柱八百個▲燕麥一千石
- 此他被服、寢臺、麵包、燒車及諸車輛等なり

十四日午後大本營電

露都公報として歐洲よりの來電に依れば露將ツエルビツキー(第十軍團長)は負傷せり

(三) 興京方面の遺棄及戰利品 十三日午前大本營電

敵の損害は未詳なるも戰場に遺棄せる屍體八百以上を算す捕虜の首に依れば第七十一師團の如きは殆ど全滅せりと云ふ

戰利品は未だ調査に迫らざるも石炭坑、輕便鐵道、貨車四百輛以上、小銃約二千挺あり尙ほ敵は馬群丹牛糸保等の倉庫を燒棄せしも棉稜數千石其他彈藥、諸材料等甚だ多し

十三日午後大本營電

興京方面に於ける二月二十四日清河城占領當日以來の戰利品概ね左の如し

- ▲小銃二千二百挺▲機關砲六門▲小銃彈約三十二萬發▲砲彈及藥莖一萬五千五百發▲土工具六千
 - 箇▲蹄鐵三百▲鐵線千二百把▲輕便鐵道材料約十三邦里分▲同貨車四百五十輛▲被服を搭載せ
 - る支那車十輛▲石炭坑機械八坑分▲角材四千本
- 其他馬、馬糧、多數にして未だ計算に遑あらず尙ほ牛、馬、天幕、寢具、煖爐、地圖、電話器等多數な

敵の戰場に遺棄せる屍體約一千二百捕虜八十敵の損害は二萬を下らざるへし

十三日大本營電

其後増加したる戰利品左の如し

- ▲小銃彈藥十二萬發▲砲彈八百發▲土工具三千個

(四) 撫順附近の戰利品

十四日午後大本營電

十一日撫順附近にて左の戰利品あり

- ▲粟一千八百八十石▲高粱一千七百石▲豆精六萬箇▲大豆七百石▲粟殼四千貫▲粗製鹽六十五
- 漬物一千貫▲薪五千貫

六、勅語

滿洲軍總司令官に賜りたる勅語左の如し

我滿洲軍ハ客冬沙河會戰以來敵ヲ逐ヘ敢テ忘レテ勅カス以テ戰機ノ熟スルヲ待テ一タロモ決シテ起リテ全線活動敵軍ヲ逐退シテ
已ニ龍々包圍ノ形ヲ占ム 朕ハ捷報ノ至ル毎ニ我戰勢ノ益々佳境ニ進ムヲ俾ヒ又爾將卒ノ餘寒尙酷烈ノ時ニ於テ數晝夜ニ亘リ
艱苦ヲ察シ餘念太々切ナリ其レ各々自愛シテ耐久ノ勇ヲ養ヒ光輝アル功績ヲ發シ以テ 朕及ヒカ億兆ノ信賴ニ答ヘヨ

奉 答

敵に一大打撃を加へんことを期したる臣等は日夜地力を探し堅固の陣地に頑強の敵を攻撃し多大の死傷を顧みず遂に之を其陣地
より驅逐し退次之を奉天附近に壓迫し得たるも未だ全く我目的を達成するに至らず然るに今や春運なる 勅語を賜ふ臣等恐懼爲
す所を知らず只益々奮勵し誓て 聖旨に答へ奉り併せて國民の希望を充たさんことを期す

明治三十八年三月九日

滿洲軍總司令官 侯爵大山 啓

(二)

奉天附近の會戰に關し滿洲軍總司令官に賜りたる勅語左の如し

奉天ハ客秋以來敵軍此ニ堅固ナル防禦工事ヲ設ケ優勢ノ兵ヲ備ヘ必勝ヲ期シ奮テ爭ハントセシ所ナリ我滿洲軍ハ機先ヲ制シ遂ニ
攻進阻礙氷雪中力戰健闘十餘晝夜ヲ連テ遂ニ頑強死守ノ敵ヲ擊破シ數萬ノ將卒ヲ虜ニシ多大ノ損害ヲ與ヘ之ヲ嚴植方向ニ驅逐シ
曠古ノ大捷ヲ博シ帝國ノ威武ヲ中外ニ發揚セリ 朕深ク爾將卒ノ能ク堅忍持久緒大ノ勳功ヲ發シタルヲ嘉ス尙ホ益々奮勵セヨ

奉 答

奉天附近に頑強の抵抗を試みし敵を潰亂に陥らしめ唯かに彼に一大打撃を加へ此會戰に於ける我軍の目的を達したるは二に、國
下の御稜威に依る今茲に優渥なる 勅語を拜し臣等感激の至りに堪へず爾後益々奮勵し誓て 聖旨に關んことを期す
右隨て奉答す

明治三十八年三月十四日

滿洲軍總司令官 侯爵大山

(三)

三月三十日鴨綠江軍に賜りたる勅語左の如し

鴨綠江軍ハ城麻地方各所ノ敵ヲ驅逐シ清河城ヲ占領シ馬群丹及地塔ニ於テ優勢ノ兵ニ對シ阻礙氷雪中力戰健闘シ多敵ノ敵
軍ヲ此方面ニ牽制シ以テ滿洲軍ノ運動ニ便シ遂ニ之ヲ堅退シ急進撫順ヲ後キ其道路ニ逼リ多大ノ損害ヲ與ヘタリ 朕深ク爾將卒
ノ堅忍持久偉大ノ戰捷ヲ獎シタルヲ嘉ス尙ホ益々奮勵セヨ

奉 答

城麻撫順各地の戰況に對し特に優渥なる 勅語を賜はり臣等感激の至りに堪へず爾來益々奮勵以て 聖旨に關はんことを
期す右隨て奉答す

明治三十八年三月十四日

鴨綠江軍司令官 男爵川村 景明

追撃狀況 (三月十一日)

(一) 全線

十一日午後大本營發電

各方面より敵を急追して渾河右岸に進出せし我兵團は到る處敵に大損害を與へつ、昨十日午後には
●線殆ど渾河を距る北方約五里の線を占領し今十一日は依然追撃中なり
●十一日朝蒲河附近を出發して北進せる我部隊は出發後間もなく敵の大縱隊北方に退却するに遭遇
し接取格闘遂に之を包圍して降伏せしめたり

奉天附近は猶ほ敗殘兵の抵抗し又は投降し來るものあり目下専ら其清掃に勉めつゝあり

敵の遺棄せし屍體は各戰場到る處に累々として未だ之を處置するに遑あらず敵の各所に於て受けたる損害は未だ精確に調査する能はずと雖も其死傷者、捕虜、鹵獲品は非常に多大にして被服、糧秣等は積て山の如く容易に計算すること能はず

(二) 興京方面

十四日午前大本營電

我一部隊は去る十一日餘盤(撫順東方約七里)の敵を北方に擊退し之を占領せり

(三) 沙河方面

各方面とも依然敵の敗殘兵を擊攘しつつあり鐵嶺街道以東の山地に在ては我輜重監視兵等に向ひ降伏せる敵の將校下士卒多數あり

宣誓の違反將校

十二日午後大本營電

旋順降伏の將校にして宣誓に負き上海より新民廳に來りたる者一名を守備隊に於て逮捕し露軍用の物資若干を押收せり

追撃状況

(三月十三日)

十三日午前大本營電

各方面より敵を追撃して北進せる各兵團は處々に抵抗を試みんとする敵の敗兵に多大の損害を與へ

し、昨十二日には敵を全く奉天を距る北方約十里の地區より其以北に驅逐し尙追撃中なり

九里溝子(奉天北方約六里にして鐵道線の西側)の南方高力屯附近より長さ約五里に亘る地區内に彈藥其他軍需品を積載しある無數の車輛遺棄しあり未だ其數を調査するに遑あらず

興京占領

(三月十三日)

三月十六日午後大本營電

興京方面の我部隊は十三日興京を占領せり

第三十二章 鐵嶺以北の前進占領

鐵嶺の占領

(三月十六日)

十六日午前大本營電

我先進部隊は到る處敵を急追し今十六日午前零時二十分鐵嶺を占領せり

同 續 報

十七日午前大本營電

鐵嶺停車場は其規模極めて宏大にして其設備遼陽に譲らす敵の糧秣は停車場附近に堆積しありて其三分の二は既に燒棄せられたり此他鹵獲品頗る多數なるも未だ調査に遑あらず

捕虜

右翼兵團方面に於て多數の捕虜ありと云ふも未だ精確の報告に接せず

追撃状況 (三月十六日)

十七日午後大本營電

鐵嶺以北

我一部隊は昨十六日遼河右岸に於て砲兵を有する敵の騎兵約八中隊を驅逐して鐵嶺北方遼河右岸の高地を占領し日没前孤家子(鐵嶺北方三里弱)及老邊(孤家子西方約一里)方向より退却せる敵の歩兵一師團騎兵約十中隊に對し砲撃せり
捕虜の言に依れば十五日鐵嶺南方に於て我に抵抗せし敵の兵力は約三師團にしてクロバトキンは十四日鐵嶺附近に在りて職團を指揮せりと

開原の占領、埋没敵砲發見 (三月十九日)

二十日午前大本營電

我一部隊は十九日午前四時開原に進入し之を占領せり午前十時三十分敵騎五、六十騎等と歩兵約三
中隊逆襲し來りしも悉く之を東北方に擊退せり

開原以南本道上の橋梁は敵兵之を燒棄し鐵道橋も亦其一部を破壊せり

奉天附近に於て函發せし砲數は後途中に埋没しあるもの等を發見し漸次増加の模様なり

昌圖の占領 (三月二十一日)

二十二日午後大本營電

我一部隊は敵を追逼して昨二十一日午後二時半昌圖に進入せり敵の大部隊は鐵道線路に沿ひ東北方に潰走中其騎兵の一部は昌圖の北方約二、三吉米の地に停止しあり

各方面敵狀

二十五日午後大本營電

興京方面

興京占領兵團の報告

同地に在りし敵は海龍縣(興京東北約三十五里)に向ひ退却せり

二十四日午後八時威遠堡門發報告に依れば吉林街道上綿花街(開城東北約九里)附近には敵騎約一中隊停止しあり威遠堡門、昌圖間の地區及ツイセイニイ(王媽寨東方約八里)東方約一里(並にカンコウ(王媽寨東南約一里)には少數の敵騎出沒するのみ土人の言に依れば艾身溝(王媽寨北方約三里半)に敵騎約二百拘鹿(王媽寨東方約六里)には歩騎合して約五六百ありと

昌圖方面

同日午後一時中昌圖占領兵團報告

雙廟(昌圖東北約八里)興隆嶺(雙廟西方約三里)四面城(昌圖北方約七里)の線以內南には少數の敵影あるのみ

法庫門方面

二十三日午後五時四十分發金家屯(法庫門東北約九里)占領兵團の報告に依れば廉兵(法庫門西北約五里)方面には敵兵なし遼陽窩棚(康平北方約十里)には若干の敵兵現在するものゝ如し

各方面敵狀

三十一日午後大本營發電

興京方面

興京占領兵團報告

海龍方向より來れる土人の言に依れば同地附近に集合しありしマドリトフ大佐の率ゆる露兵及馬賊は數日前總て馬煙山を経て北方に退却し吉林は目下敵の集屯地なるか如し
威保門よりの報告に依れば綿花街道附近の敵狀變化なく又艾身溝(開原の東北約十三里)及其附近の高地には敵の歩騎兵若干あり

昌圖方面

昌圖占領兵團報告

敵の騎幕は北部三道河子(昌圖の北方約十里)及コゼウシ(雙苗子北方約一里半)附近に後退せり雙苗子の停車場は敵之を燒棄せり

法庫門方面

法庫門占領兵團報告

敵の騎幕は寶立屯(法庫門の東北約十二里)及東大溝(寶立屯の東方約二里半)の線に在り八面化附近には尙ほ諸兵連合の敵兵現在す

海龍方面の敵狀 (三月二十八日)

四月一日午後大本營發電

海龍方面に前進せし我斥候は三月二十八日午前二時山城子(海龍の西南約十二里)に於て敵騎約三百に衝突せり

海龍方向に退却せし敵は步騎約四千にして目下同地には敵騎約二千あり又英額城(興京の北方約十五里)山城子間には處々雜穀等の蓄積多し吉林及長春方面の敵狀大なる變化なし

綿花街の占領 (三月三十一日)

四月二日大本營發電

開原占領兵團は一昨三十一日其一部を以て綿花街の敵を驅逐し同地及其北方高地を占領せり此他各方面の情況大なる變化なし

艾身溝附近の敵狀敵衛生員の引渡 (四月二日)

三日午後大本營發電

敵以北の前進占領

十三日午後大本營電

撫順海龍街道を東進せし我兵團は昨十二日午前二火羅(營盤東方約三里)附近に於て歩兵約一聯隊、騎兵約六中隊、砲約四門より成る敵に衝突し之を撃攘しつゝ本日蒼什(營盤東方約八里)を占領せり。敵は歩々防戦しつゝ海龍方向に退却せり。吉林街道上の敵は十一日來漸次退却し其一部孤榆樹附近に停止しあり。昌圖及法庫門方面に在りては彼我騎兵の時々衝突しあるの外大なる變化なし。

黒石木附近の敵撃攘 (四月十四日)

十四日午後大本營電

海龍街道を東進せし我兵團は本日午前黒石木(蒼什東方約四里)附近の敵を撃攘し八家子(蒼什東方約十里)方向に急退せり。興京附近より北進せし我兵團は今朝八家子南方約二里の地方に於て障地を占領せる敵に遭遇し之を攻撃せり此他各方面共大なる變化なし。

英額城及八家子の占領 (四月十四日)

十五日午後大本營電

興京方面より北進せし我兵團は逐次敵を撃攘し昨十四日午後一時英額城(興京の北約十四里)を占領

し其一部は海龍街道を東進中なる我兵團の騎兵と共に午後六時全く八家子を占領せり八家子附近に在りし敵は歩兵約一聯隊、騎兵六、七中隊及砲兵一中隊にして一旦英額城方面に退路を取りしを再び八家子に引返し非常なる狼狽を以て(北嶺八家子の北一里弱)を越り退却せり。此他各方面共大なる變化なし。

二眼井附近の敵撃退 (四月十五日)

十六日午後大本營電

昨十五日夜敵騎約五中隊三眼井(法庫門より奉化に連する街道上)附近に進入し來りしを以て我兵之を夜襲し遠く北方に擊退せり敵は非常の狼狽を以て退却し死屍八、驟馬一を遺棄せり我死傷は兵卒二なり。

此他處々騎兵の衝突ありしも大なる變化なし

通化の占領 (四月十五日)

十九日大本營電

通化(興京の東方二十餘里)方向に前進せし我兵團は去る十五日全く同地を占領せり當方面方に向ひ逐次退却しつゝあり。

此他各方面の情況大なる變化なし

通化方面の敵状 (四月二十日)

二十日午後大本營電

通化占領兵團の報に依れば老嶺、馬鹿勾(通化北方約八里)附近には尙ほ敵の一小部隊駐屯あり、一昨二十日敵兵約百騎英額城に來襲せしも我兵之を撃退せり、拘鹿方面の敵の監視幕は數日前に比し稍々濃密と爲りしも活動の模様なし、此他所々騎兵の衝突ある外大なる變化なし

開原附近の戦況 (四月二十四日)

二十日午後大本營電

開原占領兵團は昨二十四日我先進騎兵を壓迫しつゝ、開原附近に攻撃し來りたる歩兵五大隊、騎兵十六中隊、砲兵一中隊より成る敵を掩蔽し尋て之を追撃して綿花街以北に撃退せり此戦闘に於て我損害は將校以下三十八名にして敵の戦場に遺棄せし死體は約二百に達せり、歩兵六大隊、騎兵十六中隊より成る敵は昌圖方向に又騎兵十二中隊、砲兵一中隊より成る敵は小塔子方向に來襲せしも開原方面の敗退と共に北に退却せり

通化昌圖方面の敵撃退及八寶屯の占領 (自五月一日至同四日)

五月六日午後大本營電

通化方向より北進せし我兵團は逐次敵の騎兵を撃退し去る一日釣魚臺(通化の北方約十一里)に通せり、昌圖方面に在りては一昨四日午前敵騎約二中隊馬賊を伴ひ四方臺及二十里堡(昌圖北方約三里)附近に來襲せしも我兵の撃退する所と爲り死者二、負傷者二、乘馬四を遺棄し北方に潰走せり、法庫門方面より奉化方向に北進せし我兵團は一昨四日二小屯及六小屯(法庫門東北約十二里)附近の敵を撃退し午後七時八寶屯を占領せり

英額城附近の戦況 (五月九日)

十一日午後大本營電

一昨九日午前十時頃より歩兵約二聯隊、騎兵約五中隊、砲兵約一中隊より成る敵兵南山城子(英額城東方約六里)方向より英額城附近に來襲し午後二時頃より猛烈なる砲火の掩護に依り漸次我陣地に肉薄し約百米突前に近接するに至れり是に於て我英額城占領兵團は之を逆撃して多大の損害を敵に與へ午後四時全く之を南山城子方向に撃退せり此戦闘に於て敵は死者約六十、傷者約六十を戦場に遺棄せり此他支那服著用の敵兵擔架に依り後送せられたる死傷者多數あり蓋し其全損害は四百を下らざるならん我損害は戦死卒一、負傷約五十なり、此他各方面情況變化なし

昌圖方面及遼河右岸の戦況 (五月二十日)

二十一日午後大本營報告

昌圖方面に在りては昨二十日歩兵約一大隊半(騎兵一聯隊及砲二門より成る敵兵炭坑)昌圖東方約四里(附近より三道溝(昌圖東方約三里)東方高地に迂回し來り午前十一時半彼より砲撃を開始せり。砲四門青楊堡(炭坑東南約二吉米)北方高地に現出し午後四時過に墜り約二大隊の歩兵同村東方地區より前進し來りしも我兵之を撃退せり又歩兵約三百騎兵約四中隊、砲約三門を有する敵は同日午前十時興隆泉方向より二十里堡に進入し同村に放火して退却せり

遼河右岸に在りては昨二十日午前十時頃敵の騎兵大房身(法庫門西南約五里)附近に向ひ徒歩攻撃し來りしも交戦約二時間の後我兵之を撃退せり敵は三百有餘の死傷者を委棄して遼く西南方に潰走せり
此他各方面共小部隊の衝突ある外情況變化なし

法庫門方面の敵敗退 (五月二十一日)

二十一日午後大本營報告

遼河右岸より遼く法庫門方面に迂回し屢々我後方部隊のため撃退せられつゝある敵の騎兵は一昨二十日大房身附近の敗戦後其主力は小塔子(法庫門新民廳街道上にして法庫門より約十一里に在り)附

近に宿營し昨二十一日馬連河(法庫門新民廳街道の西方を南流する河川)右岸に退却せり此間其左岸に殘留せる敵中隊の數騎は我兵の撃破する所と爲り北方に潰走せり
此他各方面共大なる變化なし

威遠堡門附近敵の逆襲 (五月廿一日、廿二日)

二十三日午後大本營報告

一昨二十一日午後二時歩兵約一大隊、騎兵約六中隊より成る敵兵青楊堡(威遠堡門北方約四里)北方高地に向ひ攻撃し來りしも午後五時四十分頃之れを撃退せり
昨二十二日午前七時半頃敵の歩兵約一大隊、騎兵二、三中隊吉林街道及拘鹿(威遠堡門東方約十五里)街道より前城子に向ひ來進し又歩騎約一中隊の敵は同村の西方高地に進入し來りしも共に之を撃退せり

遼河右岸の地道より遼く南下し來りたる敵の騎兵は昨二十二日早朝より退却を始め午後五時頃に於ては大屯(法庫門西方約七里)以南に敵を見ず
此他各方面共に小部隊の衝突ある外情況變化なし

威遠堡門昌圖附近の戦況 (五月二十三日)

二十四日午後大本營報告

第三十三章 敵以先の前進白旗

昨二十三日午前七時頃敵の歩騎兵西葛勾(威遠堡門北方約二里)の北方高地に防禦工事をおしつゝあるを發見し我兵直に之を擊退せり
同日正午頃敵騎四中隊大奥屯昌圖西北約一里附近に來襲せしも亦之を擊退せり
數日來遼河右岸に運動せし敵の騎兵は北方蒙古地境に退却せり
此他各方面共情況變化なし

各方面の戰況 (五月廿五日より同卅一日まで)

(一) 二十五日午後大本營電

各方面共彼我斥候の衝突を見るの外情況變化なし

(二) 四面城の占領 二十六日午後大本營電

昨二十五日午後二時半我騎兵の一部は四面城(昌圖北方約七里)に在りし敵の騎兵を東北方及北方に擊退し該地を占領せり
此他各方面共我斥候衝突の外情況變化なし

(三) 二十七日午後大本營電

各方面とも彼我斥候衝突の外情況變化なし

(四) 二十八日午後大本營電

各方面共彼我斥候の衝突を見るの外情況變化なし

(五) 二十九日午後大本營電

各方面共彼我斥候の衝突ある外情況變化なし

(六) 三十日午後大本營電

各方面共情況變化なし

(七) 三十一日午後大本營電

各方面共彼我斥候の衝突を見るの外情況變化なし

第卅三章 日本海の海戰

波羅的艦隊の殲滅

浦鹽艦隊の蠻行 (三十八年五月五日)

大本營海軍部公報

札幌支應長より左の電報あり

五日午前十一時半頃持田にて國籍不明の水雷艇四隻帆船一隻を圍み砲聲二發を聞けり帆船は火災を恐し水雷艇は沖合に向け北進し救助し出でたるも風潮の爲め救ふこと能はずして引返したる旨通知

ありたり

北海道長官より左の電報あり

露に申報せしは露水雷艇にして四隻中三隻は長さ約百尺、一隻は約百三十尺各煙突二本を有し沖合より持田岬に來り帆船を包圍し乗組員に退去を命じて後甲板に石油を撒布し大砲二發を放ちて火災を起さしめ船長を拘留して北に去れり乗組中十名は無事小谷石に歸着せり
(露國水雷艇の爲めに撃沈せられしは第三八輪九なり)

日本海海戦 (五月二十七、二十八日)

一、第一報

二十七日以來續報中なる日本海海戦に關する聯合艦隊司令長官東郷平八郎報告

(一)

二十七日午前報告

敵艦見ゆとの警報に接し聯合艦隊は直に出動之を撃滅せんとす本日天候晴朗なれども波高し

(二)

同日夜報告

聯合艦隊は本日沖の島附近に於て敵艦隊を遊撃し大に之を破り敵艦少くも四隻を撃沈し其他は多大の損害を興へたり我艦隊には損害少し驅逐隊水雷艇隊は日没より襲撃を執行せり

(三)

二十九日午前報告

聯合艦隊の主力は二十七日以來殘敵に對して追撃を續行し二十八日竹島附近に於て敵艦「ニコライ」第一世(戦艦)、「アソヨール」(戦艦)、「セニャーウイン」(装甲海防艦)、「アブラキシン」(装甲海防艦)及「イツムルード」(巡洋艦)より成る一群に會して之を攻撃せしに「イツムルード」は分離して逃去せしか他の四艦は須臾にして降伏せり我艦隊には損害なし
捕虜の言に依れば二十七日の戦闘に於て沈没したる敵艦は「ボロヂノ」(戦艦)、「アレキサンダー」第三世(戦艦)、「ゼムチエーグ」(巡洋艦)外三隻なりと云ふ
捕虜海軍少將ネボゴトフ以下二千

備考 右の外本戦開始以來聯合艦隊司令長官直轄以外の指揮官又は軍艦の報告に係る敵の損害左の如し

「アドミラル」ナローロフ(巡洋艦)八五二四噸 撃沈 ▲「ドモトヴィ」ドンスコイ(巡洋艦)六二〇〇噸 撃沈 ▲「ウラジミール」モノ
「マフ」(巡洋艦)五五九三噸(捕獲後沈没) ▲「スウエトラナ」(巡洋艦)三七二七噸 撃沈 ▲「アドミラル」ウシヤーク(装甲海防艦)
四二二六噸 撃沈 ▲「カムチャツカ」(特務船)七〇七噸 撃沈 ▲「イルナツミニ」(特務船)七五〇七噸 撃沈 ▲大形特務船(船名未
た不詳)一隻捕獲 ▲驅逐艦三隻撃沈 ▲驅逐艦一隻捕獲

撃沈	捕獲	計	撃沈	捕獲	計
戰艦	二隻	二隻	装甲海防艦	一隻	一隻
巡洋艦	五隻	五隻	特務船	二隻	二隻
驅逐艦	三隻	四隻		七隻	三隻

尚ほ捕虜の陳述に在る沈没艦三隻は以上の中なるや又は以外なるや未だ詳ならず
捕虜は聯合艦隊主力部隊に於て收容せる二千の外尚ほ一千以上あり

一、第二報

(四)

三十日午後特電聯合艦隊司令長官東郷平八郎報告

五月二十七日午後より翌二十八日に亘り沖の島附近より鬱陵島附近までの海戦を「日本海海戦」と呼稱す

(五)

同上

聯合艦隊の大部は前に電報したる如く一昨二十八日午後竹島附近に於て敗殘敵艦隊の主力を包圍攻撃して其降伏を受け追撃を中止し之か處分に從事中午後三時頃更に南西方面に敵艦「アドミラル、ウシヤーク」の北走するを發見し撃手、八雲は直に之を追撃し先づ降伏を勸告せしも敵之に應答せりし故午後六時過巴むを得ず之を撃沈し其生存者三百餘名救助收容せり又午後五時北西に敵艦「ドミトリー、ドンスコイ」を發見し第四戰隊及第二驅逐隊之に及追し日没後に至るまで猛烈に砲撃せしも撃沈するに至らず夜に入り第二驅逐隊も之を襲撃し其結果不明なりしか昨朝に至り第二驅逐隊は「ドミトリー、ドンスコイ」の鬱陵島の東南岸に擱坐せるを發見し目下春日と共に其處分中なり又澁は一昨二十八日夕刻鬱陵島の南方に於て敵の驅逐艦「ビエドローウイ」を捕獲せり同艦には二十七日の戰國中沈没したる敵の旗艦「クニヤージ、スワロフ」より敵艦隊司令長官ロゼストウエンスキー中將、エンクイスト(?)少將及幕僚以下八十餘名乗し居りしを以て悉く之を捕虜とせり

右兩將官は共に重傷なり又千歳は一昨二十八日朝北航の途上敵の驅逐艦一隻を發見して之を撃沈し新高及叢雲は同日正午頃竹邊海附近にて敵の驅逐艦一隻を撃破して擱岸せしめたるの報告に接せり今までに待たる諸報告及捕虜の言を綜合するに二十七日より二十八日に亘れる戰闘に於て撃沈し得たる敵艦は「クニヤージ、スワロフ」「アレキサンダー三世」「ボロヂノ」「ドミトリー、ドンスコイ」「アドミラル、ナヒーモフ」「ウラシミール、モノマフ」「ゼムチエーグ」「アドミラル、ウシヤーク」「假裝巡洋艦一隻、驅逐艦二隻にして、捕獲艦は「ニコライ一世」「アリヨール」「アドミラル、アブラキシン」「アドミラル、セニヤークウイン」「ビエドローウイ」の五隻なり尙ほ捕虜の言に依れば敵の戰艦「オスラービヤ」は二十七日午後三時、四時の交大破の後沈没し又「ナワリン」も沈没せりと云ふ其外第三戰隊は同日日没頃敵艦「アルマーズ」か進退自由を失ひ將に沈没せんとするを目撃せしと云ふも暫く疑を存し未だ報告に接せざる二十七日日没後より決行したる我驅逐隊、水雷艇隊襲撃の成果と共に之を後に調査報告せんとす

我艦隊諸艦艇の損害に就きては未だ詳細の報告に接せざるも本職の視界内に在りしものには一も大破したるものなく孰も尙ほ作戰任務に従事しつゝあり死傷も未だ調査に暇なきも第一戰隊に於て將校以下四百餘名あり

依仁親王殿下は御無事に在せられ三須司令官は廿七日の海戦に輕傷せり

「オスラービヤ」(戦艦)、「ナワツン」(戦艦)の沈没は確實なりを認む

備考 戦艦「シソイウエリキ」も亦二十八日午前沈没せるの確報に接せり故に敵の損害を計算すること左の如し

戦艦「クニヤーツ、スプロフ」三五一六噸、撃沈▲同「イムヘフトル、アレキサンダー三世」三五一六噸、撃沈▲同「ボロチ
 ノ」三五一六噸、撃沈▲同「オスラービヤ」二二六七四噸、撃沈▲同「シソイウエリキ」一〇四〇〇噸、撃沈▲同「ナワツン」二〇
 二〇六噸、撃沈▲巡洋艦「アドモラル、ナヒーモフ」八五二四噸、撃沈▲同「ドモトリ、ドムスヨイ」六二〇〇噸、撃沈▲同「ウラツ
 ヨール、モノマフ」五五九三噸、撃沈▲同「スウエトラナ」三七二七噸、撃沈▲同「セムチエーク」三二〇三噸、撃沈▲海防艦「アド
 ヨラル、ウシヤニコフ」四二二六噸、撃沈▲特務船「カムチャットカ」七二〇七噸、撃沈▲同「イムチツシエ」七五〇七噸、撃沈▲同
 駆逐艦三隻、撃沈▲戦艦「アソヨール」三三五一六噸、捕獲▲同「イムヘフトル、ニコライ一世」九五九四噸、捕獲▲海防艦「ゲチ
 ル、アドモラル、アブラキメン」四二二六噸、捕獲▲同「アドモラル、セニヤウイム」四九六〇噸、捕獲▲驅逐艦「ビエードウイ」三
 五〇噸、捕獲

即ち損害を総額に區別すれば左の如し

	撃沈	捕獲	計
戦艦	六隻	二隻	八隻
巡洋艦	五隻	五隻	一〇隻
海防艦	一隻	二隻	三隻
特務船	二隻	二隻	四隻
駆逐艦	三隻	一隻	四隻
總計	十七隻	十五隻	三十二隻

右の外巡洋艦「アルマーズ」(三二八五噸)は沈没の疑あり
 捕獲中將ロセストウエンスキ、少将チボガトフ、少将エムクイスト(以下三千餘名)

三、第二報

三十一日聯合艦隊司令長官東郷平八郎報告

佐世保軍艦に送りし各戦利艦は昨三十日夕刻までに其乗員の陸送を了り全く我有に歸せりロセスト
 エンスキー中將は海軍病院に收容せられたり前報告に戦利艦「ビエードウイ」の捕虜中にエンスク
 スト少將あるを電報したれども後右は全く無線電信の謬なるを知れり取消せられたし

露國病院船「アソヨール」、「カストロマ」の二隻抑留に関する聯合艦隊司令長官報告の要領

五月二十七日敵艦隊に従ひ朝鮮海峡に来れる露國病院船二隻は海牙條約違反の嫌疑あり且つ作戦上
 重大の必要ありたるに依り一時之を抑留して翌二十八日佐世保軍港に引致せしめたり

四、第四報

三十一日聯合艦隊司令長官東郷平八郎報告

其後續々到達せる麾下各部隊よりの報告を綜合するに敵の戦艦「オスラービヤ」は二十七日海戦の初
 期に大破して隊列を脱し午後三時過第一に沈没したること確實なり又戦艦「シソイウエリキ」巡洋
 艦「アドミラル、ナヒーモフ」及「ウラジミール、モノマン」は己に二十七日の夜戦に撃破せられたる後
 同夜我驅逐隊水雷艇隊の水雷攻撃に大破し全く戦闘航海力を失ひ對馬附近に漂流し翌朝に至り我假
 裝巡洋艦信濃丸、八幡丸、臺南丸、佐渡丸等之を發見して將に捕獲せんとせしも幾何もなく皆沈没せ
 り其生存者約九十五名は右假裝巡洋艦及沿岸農家に收容せられたり又戦艦「ナワツン」は二十七日

没後我水雷艇隊攻撃の結果水雷四發命中し沈没せること其生存捕虜の言に依り確實なり又敵の巡洋艦「スウェトラーナ」は二十八日午前九時頃竹邊灣沖に於て新高、音羽の一隊に追撃せられ遂に撃沈せられたりとの新高艦長の報告に接す其他敵艦「アウローラ」「アルマーズ」も二十七日夜の我水雷攻撃のため撃沈せられたるの疑あり又前報告撃沈敵艦中に「ゼムチニグ」を算したれども稍々疑あるを以て正確の調査を了るまで暫らく之を消取す

茲に報告する所と前電報告せる所を綜合すれば敵艦隊の主力たりし戦艦八隻、裝甲巡洋艦三隻及裝甲海防艦三隻は悉く撃沈又は捕獲せられ其手足たりし二等巡洋艦以下も大部分撃滅されたるを以て此一戦に於て敵艦隊は事實上已に全滅に歸せり我艦隊の損失に付ては其後の報告に依り二十七日の夜襲に際して三十四號艇三十五號艇及六十九號艇の三隻か敵の防禦砲火に撃沈せられ其乗員の大部分は僚艇に救助收容せられたるの外損失と認むべきものなく驅逐艦以上は其損害の程度豫想外に少く一として今後の戦闘航海に支障あるものなし若し夫れ麾下將卒の死傷に至りては對戦の後初めより其多數を豫期したるに其後の死傷報告比較的僅少にして今日の所之を八百内に算す是等死傷報告は到達次第着々電報し成べく速に家族の慰安に努めんとす

今回の海戦は彼我海軍共に殆ど其全力を捧げて對抗し戦場の局面頗る宏大なりしのみならず當日の天候凶暴深くして砲煙煤煙を混せざるも尙ほ展望五里内外に及はす爲に遠戦に於ても麾下各部隊戰狀を本戦の眼界に置くこと能はず加之戦闘二晝夜に亙り麾下各部隊は各方面に離散せる敵を追撃し今尙ほ戦後の任務に従事せるものさへあれば全軍の戦闘詳報に至りては尙ほ數日の後にあらざれば運送すること難し

五、第五報

三十一日對聯合艦隊司令長官東鄉平八郎報告

敵艦「ドミトリー・ドンスコイ」の生存者を收容して本日午後歸合したる春日艦長の報告に據れば「ドンスコイ」は一昨二十九日朝排水を中止し「キングストン」を開き自ら沈没し其乗員は盡く鬱陵島に上陸したるものにして同艦の生存者中には沈没敵艦「オスラビーヤ」及驅逐艦「ブレイヌイ」よりの收容者あり右「ブレイヌイ」は二十七日午後敵の旗艦沈没の前司令長官ロゼストウエンスキー以下幕僚を收容し此際一彈を受け尋て「オスラービーヤ」の乗員二百餘名を收容したるも航海困難なるを以て司令長官以下幕僚を僚艦「ビエードゥイ」に移し北方に逃走中二十八日朝「ドンスコイ」に邂逅し其乗員を悉く該艦に移し「ブレイヌイ」は自ら沈没せりと云ふ又「オスラービーヤ」生存者の言に依れば同艦は二十七日戦闘の初期第一の命中彈を司令塔に被り司令官フェルケルザム直に戦死し次で連續慘烈なる集彈を被り午後三時過僚艦の間に沈没せりと云ふ又「ドンスコイ」生存者の言に據れば二十七日晝戰中驅逐艦二隻か亂軍の中に沈没せるを自報せりと之を事實とすれば敵驅逐艦の沈没したるもの前

獲六隻と爲れり

(備考)ブライメイはロゼストワニキヤル船の上浦浦に到着せる時露國に於て公使セリとの噂あるものなり

六、第六報

六月一日青聯合艦隊司令長官東郷平八郎報告

一昨三十日北方の追撃より歸り直に南方の搜索に赴きたる艦手、八雲の一隊は只今(六月一日午後)歸着せり同隊は烏島附近より上海航路の兩側を隈なく搜索せしも遂に敵影を見る能はざりしと云ふ又烏村第二艦隊司令官(艦手坐乗)の報告に依れば二十七日の海戦中午後三時七分敵艦「ゼムチエーグ」が艦手の前面約三千米突に於て同艦の猛射に遭ひ約十分にして沈没せしこと確實なりと當時該艦火災に罹り其騰煙海面を掩ひ我他の諸艦よりは「ゼムチエーグ」の沈没を目撃する能はざりしを以て先に暫く疑を存し置きしものなり

七、第七報

六月二日青聯合艦隊司令長官東郷平八郎報告

敵の特務艦船中去る二十七日の海戦に撃沈されたるは假裝巡洋艦「ウラル」運送船「イルチツシュ」工作船「オムチツトカ」外一隻なり右一隻は敵艦隊が給炭用として随伴したる曳船二隻中の一にして捕虜の言に據り其沈没したるを知れり

海戦當時戰場に現存せし敵の艦船中今日までに其行方不明なる者は二等巡洋艦「オレング」「アッローラ」「三等巡洋艦」「イズムルード」「アルマーズ」特務艦三隻、驅逐艦二隻、曳船一隻にして其他は悉く撃滅又は捕獲せられたり右殘艦中「オレング」「アッローラ」は二十七日の海戦中我第三艦隊、第四艦隊の射界内に入り時々火災を起せしを目撃したるを以て假令殘存せりとするも其の戰鬥力の回復には多數の日子を要すへしと信す

八、確定詳報

聯合艦隊司令長官東郷平八郎報告詳報

天佑と神助に因り我聯合艦隊は五月二十七八日敵の第二、第三艦隊と日本海に戦ふて遂に殆ど之を撃滅することを得たり始め敵艦隊の南洋に出現するや上命に基き當隊は豫め之を近海に迎撃するの計畫を定め朝鮮海峡に全力を集中して徐に敵の北上を待ちしか敵は一時安南沿岸に寄泊したるの後漸次北行し來りしを以て其我近海に到達すへき數日前より豫定の如く數隻の哨艦を南方警戒線に配備し各戦列部隊は一切の戦備を整へ直に出動し得る姿勢を持して各々其根據地に泊在せり果然二十七日午前五時に至り南方哨艦の一隻信濃丸の無線電信は敵艦隊二〇三地點に見ゆ敵は東水道に向ふもの、如しと警報し全軍勇躍直に發動し各部隊は豫定の部署に準して對敵行動を開始せり午前七時内方警戒線の左翼哨艦たりし和泉亦敵艦隊を發見して敵既に宇久島の北西二十五海里の地點に達し

北東に航進するを報し巡洋艦隊(片岡中將直率)東郷(正路)戦隊續て出羽戦隊も午前十時、十一時の
 交會時、對馬の間に於て敵と觸接し爾後沖の島附近に至るまで此等の諸隊は時々敵の砲撃を受けし
 も終始能く之と觸接を保持し詳に時々刻々の敵情を電報せしかは此日海上濃氣深く展望五海里以外
 に及ばざりしも數十海里を隔つる敵影恰も眼界に映するか如く未だ敵を見ざる前既に敵の戦列部隊
 は其第二、第三艦隊の全力にして特務艦船約七隻を伴ふこと敵の陣形に二列縦陣にして其主力は右
 翼列の先頭に占位し特務艦船は後尾に續行せること又敵の速力は約十二節にして尙ほ北東に航進せ
 ること等を知り本職は之に依り我主力を以て午後二時頃沖の島附近に敵を迎へ先づ其左翼列先頭よ
 り撃破せんとする心算を立つるを得たり主力隊(主戦艦隊)東郷大將直率「装甲巡洋艦隊」上村中將直
 率「瓜生戦隊」及各驅逐隊は正午頃既に沖の島北方約十海里に達し敵の左側に出んかため更に西方に
 針路を執りしか午後一時三十分頃出羽艦隊巡洋艦隊及東郷(正路)戦隊等も敵と觸接を保ちつゝ相
 續して漸次に來り合し同時四十五分に至り正に我左舷南方敵海里に於て敵影を發見せり敵は豫期の
 如く其右翼列の先頭に「ボロヂノ」型戦艦四隻の主力戦隊を置き「オスラビヤ」「シソイベリヤー」「ナ
 フリン」「ナヒモフ」より成る一隊左翼列の先頭に占位し「ニコライ」二世海外防艦三隻より成る一隊
 之に次ぎ「ゼヤチニーク」「イズムルード」の二艦は兩列の間に介立して前方を警戒せる者の如く尙ほ
 其後方濃氣の中に「オレンジ」「アウララ」以下二三等巡洋艦の一隊「ドミトリ、ドンスコイ」「ウラジミル

モフマフ」此等諸艦等敵陣に及びて連綿航進するを仄に認むるを得たり是に於て全軍に戰闘開
 始を令し同時五十分頃界内に在る我全艦隊に對し皇國の興廢此の一戦に在り各員一層奮闘努力せ
 よの旨を傳へしり而して主戦艦隊は少時南西に向首し敵と反航通過すると見せしか午後一時五分
 急に東に折れ其正面を變して斜に敵の先頭を壓迫し装甲巡洋艦隊も續航して其後に連り出羽戦隊、
 瓜生戦隊、巡洋艦隊及東郷(正路)戦隊は豫定戦策に準し孰も南下して敵の後尾を衝けり之れを當日
 戰闘開始の際に於ける彼我の對勢とす

主力隊の戦況

敵の先頭部隊は主戦艦隊の壓迫を受けて稍々其右舷に轉舵し午後二時八分彼より砲火を開始せしか
 我は暫く之に耐へて射距離六千米突に入るに及び猛烈に敵の兩先頭艦に砲火を集中せり敵は之がた
 め益々東南に擊壓せらるゝものゝ如く其左右兩列共に漸次東方に變針し自然に不規則なる單縱陣を
 形成して我と並航の姿勢を執り其左翼列の先頭艦たりし「オスラビヤ」の如きは須臾にして撃破せら
 れ大火災を起して戦列より脱せり此時に當り装甲巡洋艦隊も既に盡く主戦艦隊の後方に列し我全隊
 の掩撃砲火は射距離の短縮と共に益々顯著なる効果を呈し敵の旗艦「クニャーシスワロン」三番艦皇
 帝「アレキサンドル」三世も大火災に罹り戦列を離れ敵の陣形愈々亂れ後續の諸隊亦火災に罹れるも
 の多く其騰煙西風に緩きて忽ち海上二面を覆ひ濃氣と共に全く敵影を包み主戦艦隊の如きは爲に一

時射撃を中止せるの状況なり又我軍に於ても各艦多少の損害を蒙り淺間の如きは後部水線に近く三
 弾を受けて舵機を損し且つ浸水甚しく一時止むを得ず列外に落伍せしか幾もなく應急修理して再び
 戦列に入れり之れ午後二時四十五分前後に於ける彼我主力の戦況にして勝敗は既に此間に決せり我
 主力隊は如此敵を南方に壓し煙霧の中敵影を發見する毎に緩徐に之を砲撃しつゝ午後三時頃には
 既に敵の前路に出で約南東に向針ありしか敵は俄に北方に向首し我後尾を回りて北走せんとする
 か如きを以て主戦艦隊は急に左十六點に一齊回頭し日進を嚮導として北西に向ひ裝甲巡洋艦隊も其
 通路を過ぎたる後正面を變して之に續き再び敵を南方に壓し之を猛射し午後三時七分敵艦「セム
 チューク」は裝甲巡洋艦隊の後方に突進し來りしも遂に我砲火に因り多大の損害を蒙り既に戦力
 を失ひたる「オスラビヤ」も同時十分に沈没し孤立せし「クニャーシ、スワロフ」は益々大破して其
 艦二煙突を失ひ全艦煙焰に包まれて操縦する能はず混亂せる爾餘の諸敵艦も更に多大の損害を受け
 つゝ又其針路を東方に採れり是に於て主戦艦隊も亦一齊に右十六點に回頭し裝甲巡洋艦隊之に次ぎ
 近るを追て益々敵を掩撃し時々機を見て水雷發射をも試み午後四時四十五分頃に至るまの主队の
 戦闘に就ては別に著しき現象なく始終敵を南方に壓して砲撃を繼續したるに過ぎず此間壯烈の事績
 として特記すへきは千早及廣瀬(順太郎)驅逐隊か午後三時四十分頃鈴木(貫太郎)驅逐隊か午後四
 時四十五分頃敵の廣艦「スワロフ」に對し勇敢なる水雷攻撃を決行したることにて前者の奏効は確

實ならざりしも後者より發せし一水雷は敵艦の左舷後部に命中し須臾にして艦體十度許傾斜するを
 見たり此兩回の襲撃中廣瀬驅逐隊の不知火及鈴木驅逐隊の朝潮は附近敵艦より猛射せられ共に一彈
 を受けて一時危殆に陥りしも幸にして遂に無事なることを得たり午後四時四十分の頃に至り敵は北
 方に血路を開くを斷念せしにや漸次南方に向ひ遁走するものゝ如く依て我主队は裝甲巡洋艦隊を先
 頭とし之を追撃せしか少時にして遂に敵影を煙霧の中に失し南下すること約八海里行く行く我右方
 に離散彷彿せる敵の二等巡洋艦以下特務艦船等を緩射し午後五時三十分主力艦隊は再び針路を北方
 に執りて敵の主力を索め裝甲巡洋艦隊は南西方に折れて敵の巡洋艦に迫り爾後日没に至るまで此兩
 戦隊は分離して各別の行動を執り又相見る能はざりし

主戦艦隊は午後五時四十分頃其左方近距離に在りし敵の特務艦「ウラル」に一砲を加へて直に之を撃
 沈し尙ほ北方に索敵し進航せる際左舷艦首に當り敵主力の殘艦約六隻の一群か北東に向ひ遁走しつ
 ゝあるを發見し直に近きて之と竝航戦を再始し漸次敵の前方に出で、其先頭を壓ししかは敵は初
 め北東の針路を採りしも次第に西方に屈折し遂には北西に向針するに至れり此竝航戦は午後六時よ
 り日没まで連續し敵は大破の餘其砲力減少せるに反し我沈着なる射撃は益々其威力を逞ふし「アレ
 キサンドル」三世と見わたる敵艦は早く列外に出て、後方に落伍し先頭に占位せし「ポロデノ」型戦
 艦は午後六時四十分頃より大火災を起し七時二十三分に至り俄然煙に包まれて瞬時に沈没せり蓋

し火災の彈藥庫に及びしならんか又當時南方に在りて敵の巡洋艦隊を北方に追撃しつゝありし時、
巡洋艦隊の諸艦は己に傾斜して進退自由ならざる「ボロヂノ」型戦艦一隻が午後七時七分敵艦「ナヒ
モン」の側に來り遂に轉覆沈没せるを目撃せり後日捕虜の言に依り之れ即ち「アレキサンダー」三世
にして主戦艦隊の見たるものは「ボロヂノ」なりしを得たり

此時夕陽已に暮き我が驅逐隊、水雷艇隊は東南北の三面より漸次に敵に迫り已に襲撃準備の姿勢を
執れるを以つて主戦艦隊は次第に敵に對する壓迫を弛めて日没(午後七時二十八分)と共に東方に變
針し同時に本戦は龍田をして全軍北航して明朝鬱陵島に集合すべしと傳令せしめ並に當日の夜戦を
終了せり

出羽、瓜生戦隊、巡洋艦隊及東郷(正路)戦隊の戦況

午後二時、戰鬥開始の令下に出羽、瓜生戦隊、巡洋艦隊及東郷戦隊は孰も我主力艦隊と分離し敵を左舷
に見て反航南下し豫定戦策に準じて敵の後尾に占位せる特務部隊及「オレンジ」「アウロラ」「スウイー
ド」ナ「アルマース」「ドミトリ」「ドンスコイ」「ウラツミル、モノマン」等の巡洋艦等を脅威迫撃せり出
羽、瓜生戦隊は終始共同進撃して午後二時四十五分より先づ敵の巡洋艦隊に對して反航戦を開始し
漸次敵の後尾を旋撃して其右方に出て更に並航戦を試み爾後優速力を利用して機宜我正面を變じて敵
は敵の左に傾れ又は其右に廻り攻撃を持続すること約三十分にして敵の後方部隊は漸次に動搖潰亂

し其特務艦船の如きは遂に左往右往して爲す所を知らざるの情態に陥れり此間午後三時過ぐるの頃
「アウロラ」と見たる敵艦單獨敵中より突進し來りしも我が猛射に多大の損害を負ふて撃退せられ
又午後三時四十分頃突撃し來りたる敵の驅逐艦三隻も爲す所なくして毀壞せられたり
出羽、瓜生戦隊協力攻撃の効果は午後四時の交に及んで著しく發展し敵の後方部隊は全く潰亂して
筒々分裂し其諸艦船皆多少の損害を受けたるもの、如く特務艦船中には既に操縦の自在を缺くるも
のあるを見るに至れり

瓜生戦隊は午後四時二十分頃三橋二煙突を有する敵の特務艦船一隻(或は「アナシール」ならん)が一
方に孤立するを認め直に近きて之を撃沈し尋て四橋一煙突の特務艦船、或は「イルチツシユ」ならん)を
を猛射して殆ど之を撃破せり此頃より巡洋艦隊、東郷戦隊も來り加り出羽、瓜生戦隊と協同して共
に潰亂せる敵の巡洋艦及特務艦船を掩撃しつゝありしか午後四時四十分の比北方より我が主隊に襲
撃せられたる敵の戦艦(或は海防艦四隻)南下し來りて其巡洋艦に合力せしかは瓜生戦隊巡洋艦隊の
如きは少時近距離に於て之と對戦するの苦戦に陥り孰も多少の損害を受けしも幸に大ならざること
を得たり

是より先き出羽戦隊の旗艦笠置の其左舷炭庫水線下に一彈を蒙りしか爾來浸水漸く増加し其應急修
理のため波靜なる所に行くの止むを得ざるに至り出羽司令官は自ら笠置、千歳を率ひ艦下の他艦は

瓜生司令官の指揮下に属せしめ午後六時油谷灣に赴き其將艦を千蔵に移し夜に入りて出港北行せし
も笠置は修理に時間を要し遂に翌日の追撃に参加する能はざりし
又瓜生戦隊の旗艦に敵弾を浪速も水線後部に蒙りし爲午後五時十分頃同戦隊は一時避戦して其損所
の應急修理を爲せり

是時に當り敵は南北兩方面共に既に全軍潰亂滅裂の悲境に在りしを以て午後五時三十分の比裝甲巡
洋艦隊が我主隊と分離して此方面に來り南方より敵の巡洋艦を追撃すると同時に敵は群を爲して悉
く北方に遁走し瓜生戦隊、巡洋艦隊及東郷戦隊も共に之を追撃せしか其途上に於て既に進退の自由
を失せる敵の廢艦「クニヤージ」、スワロフ」及工作船「カムチャトカ」を發見し巡洋艦隊東郷戦隊は
に其廢艦に轉して午後七時十分「カムチャトカ」を撃沈し尋て巡洋艦隊に隨伴せる富士本水雷艇隊は
突進して「クニヤージ」、スワロフ」を襲撃し同艦は尙ほ艦尾の小砲一門を以て最終の抵抗を試みし
遂に我が水雷二發の下に沈没せり時に午後七時二十分なり幾もなく此等の諸戦隊は豐後島集合の電
令に接し孰も戦を止めて北東に向針せり

各驅逐隊及水雷艇隊の戦況

二十七日の夜戦は晝戰の終結後直に各驅逐隊及水雷艇隊に依り猛烈果敢に開始せられたり
是日朝來南西の強風浪を揚ぐるこ高く小艇の操縦大に困難なるを認め本職か直率せし水雷艇隊の

如きは晝戰開始に先ち盡く三浦灣に避泊せし程にて夕刻に至りて風較々和さしも浪尙ほ靜らず洋中
の水雷攻撃は我に不利尠からざるの状況なりしも然も各驅逐隊及艦隊は此一週の時機を失するを恐
れ皆風濤を冒して日没前に來り會し各々先を争ふて敵に當り藤本驅逐隊は北方より矢島驅逐及河瀬
艇隊は北東方向より敵主力の先頭を歴し吉島驅逐隊は東方より廣瀬(順太郎)驅逐隊は南東より其後
尾に迫り福田(昌輝)大瀧、近藤(常松)青山、河田の艇隊等は南方より敵の主力部隊及其左後に併行せ
る巡洋艦の一群に追尾し日没の頃次第に三面包圍の形勢を爲せり敵は此勢威に屈したるにや日没後
倉皇南西に避け更に東方に轉針したるもの、如く午後八時十五分矢島驅逐隊が第一撃を敵主力艦隊
の先頭に加へたるを始として各驅逐隊水雷艇隊一時に突進して敵の周圍に蟬集し午後十一時頃に至
るまで連續激烈なる肉薄襲撃を決行したり敵は日没より探照砲火を以て極力妨戦せしも遂に此攻撃
に耐へず其僚艦相失して四分五裂の情態と爲り各々血路を求めて任意に運動せしかは我襲撃隊の追
撃と共に茲に一場の大混戦を現出し少くも敵の戦艦「シソイベッキ」裝甲巡洋艦「アドミラル、ナヒモ
フ」及「モノマフ」の三隻は此間我水雷に罹りて全く其戦闘航海力を失ひ又我軍に於ても福田艇隊の
第六十九號艇(司令艇)青山艇隊の第三十四號艇(司令艇)及河田艇隊の第三十五號艇の三隻は襲撃の
際敵弾のため撃沈せられ驅逐艦春雨、曉、雷、夕霧並に水雷艇第六十八號第三十三號艇等は敵弾又
は衝觸等のために多少の損害を蒙り爾後一時戦闘に参加し難く死傷も又比較的尠しとせず就中福田

青山及河田艇隊の死傷最も多し但し沈没水雷艇三隻の乗員は友艇雁、第三十一號及第六十一號艇に依り救助收容せられたり

後日捕虜の言を聞くに當夜水雷攻撃の猛烈なりしは殆んど言語に絶し我艦艇連續肉薄し來りしを以て其應接に暇なく且其距離餘り近き爲め備砲俯角の度を過ぎ照準する能はざりしと云ふ

前記のもの、外鈴木(貫太郎)驅逐隊及自餘の水雷艇隊は當夜他方面に索敵せしか鈴木驅逐隊は二十八日午前二時の頃韓崎の北東微東約二十七海里の地點には敵艦二隻の北走するを發見して直に之を襲撃し其一隻を轟沈せり後日生存捕虜の言に依れば轟沈されたる此敵艦は戰艦「ナワリン」にして同艦は兩舷に連續二發宛の水雷命中し少時にして沈没せりと云ふ自餘の諸艇隊は終夜各方面を搜索せしも遂に獲る所なかりし

二十八日の一般戦況

二十八日黎明前日來の濃氣拭ふか如く主戰艦隊、裝甲巡洋艦隊は既に釜慶島の南方約二十海里に總し爾餘の戰隊並に前夜の襲撃を果したる各驅逐隊等も各航路を異にし順次後方より集合の途上に在り午前五時二十分本職は敵の退路を遮断する爲め麾下巡洋艦隊を以て東西に搜索列を張らしめんとする際後方約六十海里に占位して北進しつゝありし巡洋艦隊は早くも敵影を發見して東方に當り敵の煤煙數條あるを警報す幾何もなく同戰隊は敵に近づき復た報して曰く敵は戰艦四隻(後に至

二隻は海防艦たるを知る)巡洋艦二隻より成り今北東に向針すと是れ間はずして強敵の主力なるや變なり此に於て主戰艦隊、裝甲巡洋艦隊は其針路を反轉し漸次東方に向ひて敵の前路を扼し東郷、瓜生戰隊も亦巡洋艦隊に合して敵の後方を抑へ午前十時三十分の頃南方約十八海里の地點に於て全く此敵を包圍せり敵は即ち戰艦「ニコライ」一世「アリヨール」海防艦「ゲネラル、アドミラル、アブラキレン」アドミラル、セニャーピン」及巡洋艦「イズムルード」の五隻にして他の一隻の巡洋艦は遙に南方に後れて當時其影を失す固より敗餘の敵艦已に多大の損傷を負へるのみならず我優勢に抵抗し得へきにあらされは主戰艦隊、裝甲巡洋艦隊が先づ砲火を聞くや須臾にして敵艦隊司令官ネボカトフ少將は其部下と共に降意を表し本職は特に其將校以上に帶劍を許して之を受けたり然るに敵艦「イズムルード」のみは降伐に先ち其快速力を以て南方に遁れ我東郷戰隊に遮られて復東方に走れり此時油谷灣より歸港したる千歳も其朝途上に於て敵の驅逐艦一隻を擊沈したる後此地に來り會し直に轉して「イズムルード」に追尾せしか遂に及ばずして之を北方に逸せり

是より先き瓜生戰隊が北航の途上に在るとき午前七時の頃西方に一隻の敵影を發見し音羽、新高の一小隊を有馬音羽艦長の指揮下に之が擊滅のため分派せしか同隊は午前九時に至りて漸く敵に近接し其敵艦「スウエトラーナ」が一驅逐艦を伴へるものなるを知り益々之を追窮し戰闘約一時間の後午前十一時六分竹邊灣沖に於て全く「スウエトラーナ」を擊沈し尙は新高は其時來會したる驅逐艦數隻

と共に残れる敵の驅逐艦「ブイストリー」を追撃し午前十一時五十分遂に之を竹邊灣の北方約五海里の無名灣に擱岸破滅せしめたり而して右二敵艦の生存乗員は我特務艦亞米刺加丸及春日丸に依り悉く救助收容せられたり

敵の降伐を受けたる聯合艦隊の大部は爾後尙ほ其地附近に漂泊して敵艦四隻の捕獲處分に從事しつゝありしか午後三時頃南方より敵艦「アドミラル、ウシヤークン」の來るを發見し撃手八雲の一隊は直に之に向ひ午後五時過其南走するを追及して先づ降伏を勸告せしも之に應せず反て彼より砲火を開きしかは止むを得ず砲撃して遂に之を擊沈し其生存者約三百餘名を救助收容せり又驅逐艦連、陽炎は午後三時三十分の頃鬱陵島の南西約四十海里に於て東方より遁走し來る敵の驅逐艦二隻を發見し極力之を北西に追躡し午後四時四十五分追及して戦闘を開始せしに敵の後驅驅逐艦は白旗を掲げて降意を表せり依て連は直に之を捕獲せしに此驅逐艦は「ビエードウイ」にして敵艦隊司令長官ロゼストウエンスキー中將及其幕僚の移乘し居るを知り其乗員と共に之を捕虜と爲せり尙ほ陽炎は他の驅逐艦を追撃して午後六時三十分及びひじも遂に之を北方に逸せり又敵艦「ドミトリ、ドンスコイ」の北走するを發見し之を追尾して午後七時鬱陵島の南約三十海里に至りし頃恰も好し竹邊灣方向より來會しつゝありし音羽、新高の一隊並に驅逐艦朝霧、白雲、吹雪等が既に西方より敵に迫りて砲撃を開始し其生戰隊と共に之を挾撃するの好位を制し左右相持て日没後まで之を猛撃し殆ど敵を擊破

し得たるも未だ擊沈するに至らずして遂に夜に入り其影を失せり此攻撃中止と共に雪吹及矢島驅逐艦等連續之を襲撃し其効果不明なりしも翌朝に至り「ドミトリ、ドンスコイ」は鬱陵島の東南岸に漂ひ遂に沈没したるを發見せり而して同島に上陸したる其の生存者は春、日吹雪等にて救助收容せられたり

聯合艦隊の大部が北方追撃の戦果を收むるに及々たる際南方前日の戰場に於ても亦相應の殘獲ありたり此日早朝戰場掃除の任務を持って出發したる特務艦信濃丸及八幡丸は韓島の北東約三十海里の地點に於て敵艦「シンイ、ベリキー」が前夜の水雷攻撃に傷き將に沈没せんとするを發見し之を捕獲の手續を了して其乗員を救助收容せり而して該艦は午前十一時零五分終に沈没せり又驅逐艦不知火、特務艦佐渡丸も午前五時三十分頃對馬琴崎の東方約五海里に於て敵艦「アドミラル、ナヒモフ」が沈没に垂んとせるに會し續て又た敵艦「ウラジミル、モノマフ」が著しく傾斜して其附近に來るを發見し孰も佐渡丸にて捕獲處分を爲せしか二艦共に大破して浸水甚しく遂に其乗員を救助し得たる後午前十時の交相前後して沈没せり其時又敵の驅逐艦「ゲコムキー」も此附近に來りしか遂に北方に遁逃せしを以て不知火は直に之を追撃して蔚山沖に至り午後十一時三十分頃水雷艇六十三號と協力攻撃し敵砲の沈黙するに及んで之を捕獲し其生存乗員を捕虜とせり

該艦も亦大破して遂に午後零時四十三分に沈没したり其ゆゑ下砲艦特務艦等にて戦後戰場附近の沿

原等を捜索して救助收容し得たる撃沈敵艦の乗員約から。戦利艦五隻の捕虜を合して其の數殆ど六千に達す。

以上は五月二十七日午後より二十八日午後に亘れる海戦の經過にして其後當隊の一部は尚ほ遠く前方に敵を捜索せしも遂に又其隻影を見ず日本海を通過せんとせし敵艦隊約三十八隻にして我撃滅又は捕獲に洩れたりと認むるものは巡洋艦、驅逐艦及特務艦各數隻に過ぎず而して此二日間の戦闘に於て我艦隊の失ひたる所は水雷艇三隻のみにして其他多少の損害を蒙りたるものもあるも一として今後の役務に支障あるものなし又死傷は全軍を通し將校以下戦死百十六名負傷五百三十八名にして其細別は別に報告せるか如し

此對戦に於ける敵の兵力我と大差あるにあらず敵の將卒も亦其祖國のために極力奮闘したるを認む然も我聯合艦隊が克く勝を制して前記の如き奇績を收め得たるものは一に天皇陛下の御稜威の致す所にして固より人爲の能くすへきにあらず殊に我軍の損失死傷の僅少なりしは歴代神靈の加護に依るものと信仰するの外なく嚮に對し勇進敢戦したる麾下將卒も皆此威果を見たるに及んで唯々感激の極言ふ所を知らざるものゝ如し

- (一) 巡洋艦(九隻) ▲西條艦沈アトミヲル、ナヒロフ、ドモトリー、ドンスコイ、ウラガヤメル、ヨノマフ、オスワエトフ、トミ
- ▲東島尾端へ逃れ捕獲アウロフ、オレク、セムチエ、ク、一隻油壓駆逐艦へ逃入ブルマイズ、一隻ウラガヤメル海へ逃
- ▲駆逐艦(三隻) ▲二隻捕獲アブキレン、○セニヤ、ウイン、一隻撃沈ウシヤ、コフ
- ▲駆逐艦(九隻) ▲一隻ビエドワイ、▲四隻撃沈アイヌイ、○アイストル、イ、○ケロムスキー、外一隻、一隻上海へ逃入武蔵解隊
- ▲キードレイ、▲二隻上海へ逃通の損傷等の結果沈没アレスチヤ、スチー、▲一隻不明、▲一隻油壓艦へ逃入ブライワイ
- ▲駆逐艦(二隻) ▲撃沈ウラール
- ▲特務艦(六隻) ▲四隻撃沈カムチヤットカ、○イルチツマ、○アナスイ、○ルツシ、▲二隻上海へ逃入武蔵解隊コレヤ、○スワ
- ▲病院船(二隻) ▲押留アヨール、○カスツロ、▲一内カスツロ、マ、一は解放
- ▲合計(三十八隻内) ▲二十隻撃沈 ▲五隻捕獲 ▲二隻逃走後破損若くは沈没 ▲六隻逃走後抑留若くは武蔵解隊 ▲一隻不明 ▲二隻抑留一隻解放 ▲二隻逃走

九、露帝とロ提督との電報往復並に子ボカトフ少將の電奏

ロヂエストウエンスキー提督は我軍に收容後左の電報を露國皇帝陛下に電奏方東郷聯合艦隊司令長官に依頼し來りたるを以て許可せられたり
ツァールスコエ邑に於て
皇帝陛下

五月十四日(五月二十七日)午後一時三十分對馬南端と日本との間に於て十二隻より成る日本艦隊主力及十二隻より少からざる其巡洋艦隊と戦闘を開始せり

二時三十分スワロンは中央位を去るの止むを得ざるに至れり

三時三十分幕僚の一部及小臣は知覺を失ひたるまづ、ブイヌイに移されしか同艦には已に沈没せる
オスラビヤ乗員一部を收容しありたり

艦隊の指揮權はネボカトフに委せりブイヌイは夜間艦隊と相失せしか翌朝二隻の驅逐艦を伴へる
ドンスコイに遭遇してオスラビヤの兵員を同艦に移し又小臣はベドウイに移されグロムキヤと共に
前進せり

十五日(二十八日)の夕刻ベドウイは二隻の日本驅逐隊に降伏せるを知れり

十七日(三十日)ベドウイは佐世保に引致せらる

十八日(三十一日)ネボカトフ佐世保に在りと聞く

侍從待官 ロヂエヌトウエンスキヤ

露國皇帝陛下は在本邦俄國公使館を経て左の勅電をロヂエヌトウエンスキヤ提督に賜はりたり

六月九日午後發電

ロヂエヌトウエンスキヤ提督宛

俄國公使 ツルニヤ

唯今左の勅電は接候に付傳達致候

ロヂエヌトウエンスキヤ提督、朕は卿及艦隊の全員が露國及朕の爲に戰國に臨み身命を抛ち敵軍
に其任務を盡したるを深く嘉みす上帝は卿に名譽の戰勝を冠するに至らざりしも卿等不朽の武勇

は向後祖國の恒に誇とする所となるへし朕は卿が速かに全快せんことを望む神は卿等を慰籍せら
るへし

ニコラス

ネボカトフ少將は我國に收容後間もなく左の電報を露國皇帝陛下に電奏方東郷聯合艦隊司令長官に
依頼し來りたるを以て許可せられたり

聖彼得堡

皇帝陛下

謹んで奏す前夜の激戦の後五月十五日(二十八日)戰艦ニコライ一世、セニヤウイン、アブラシキ
ン、アリヨール及巡洋艦イツムルトは浦潮斯德に向け進航の途次二十七隻の日本軍艦(水雷艇を
算入せず)の爲に包圍せられたり彈丸の缺乏大砲の破損及アリヨールの戰鬥力喪失の爲に敵艦隊
に抵抗を試むるは絶對に不可能なる状態に在り且此上二千四百の人命を失ふは無益なるのみなら
ず亦避くへからざりしを以て高速力を利用して逃走したるイズムルトを除くの外他の四隻は士
官以上の帶劔を許し且士官以上は宣誓の上本國に歸還するを得る様日本政府に對し盡力すへしと
の條件を以て降服するの已むを得ざるに至れり右條件は日本皇帝陛下の寛大なる聖意に依り御承
賜を得たり小臣は右に付て陛下の御聖鑒を仰ぐ

▲戦死者 海軍大尉男爵ミルバフ△海軍少尉シユーピンスキー△下士卒六名

▲負傷者 艦長ユング(アリヨール艦長)

▲負傷者 艦長スミルノフ(ニコライ一世艦長)△陸軍中佐テオドチエフ△陸軍大尉クローシユ△
二軍少尉スイコフスキ△下士卒二十名△軍艦アリヨールの死傷者を除く

ネボカトフ

向六月十二日に至り更にロヂェストウインスキー提督よりもネボカトフ少將以下 降伏に關して左
の電報を露國皇帝陛下に電奏方依頼し來りたるを以て許可せられたり

皇帝陛下

陛下の御親電を拜受したる數時間前に至り小臣は戦艦アリヨール、ニコライ、セニヤウイン、ア
ブラキシンか五月十五日(二十八日)敵に降伏したる報道に接せり小臣は此災害を聞き茫然爲す所
を知らずこれ全く小臣一人の責任に對するものと思惟す小臣は茲に悲惨の状況に在る者に對し
陛下の御聖鑒を切願す

ロヂェストウインスキー

右二將官の奏電に對しては其後何等の勅答なし而してネボカトフ少將以下降服士官は露國皇帝陛下
の允許なき以上は宣誓歸國を欲せざるに付又此上永く海軍の手に於て右將校等を留置くことは双方
に取て不便なるを以て將來露國皇帝陛下の勅許來りたるときは宣誓歸國を許すとの條件を附して

ネボカトフ少將以下投降士官を陸軍俘虜收容所に移すこととせり

明治三十八年六月二十五日

大本營海軍幕僚

十、支那海に於ける敵艦隊

(一)敵艦隊の所在

四月十七日大本營海軍幕僚公示

露國太平洋第二艦隊は佛領安南カムラン灣に碇泊し居れりとの確報に接せり

カムラン灣は西貢の北東約百六十海里にあり安南中最良港の一にして内外二港に分れ外港は長さ

三海里餘幅二海里餘内港は長さ約八海里幅二乃至三海里の大灣にして深度又碇泊に適す

(二)敵艦隊の所在

四月廿二日大本營海軍幕僚公示

カムラン灣に於ける露國太平洋第二艦隊の碇泊位置に關する確實なる目撃者の報告左の如し

三橋二煙突の一艦(ドミトリー、ドンヌコイ型)及び二橋三煙突の一假裝巡洋艦の二隻は港外を巡邏
し居り四橋一煙突の商船二隻は北港口に近く港外に碇泊せり又北港口より望めは戦艦と思はるゝも
の五隻の港内に碇泊せるありて内二橋三煙突なる二艦の前橋頭部には各將旗を掲げ居れり又南港口
の外側には陸岸に近く六隻の軍艦單列にて碇泊し更に港内よりは煤煙燻に昇登し居れり

十一、我皇の仁徳

三十日海軍軍令部長子爵伊東祐亨は叙旨を奉し左の通聯合艦隊司令官東郷平八郎へ傳達せり

天皇陛下は聯合艦隊司令長官東郷平八郎をして戦艦「イノセント」、「ニコラス」第二世、「向」アリ
「ヨール」装甲海防艦「ゲ」ラッ、アドミラル、アブラキシン「同」アドミラル、セニャーウキン」を率い
て投降せし敵將ネボカトフ以下に對し特に左の通牒行せしむることを得せしめらる

許すこと

一、ネボカトフ少將に戦況報告書並に死傷者及捕虜と爲りたる者の名簿を露國皇帝に送呈するを

勅語下る

二、前記四艦より收容せる捕虜士官以上に宣誓の上其故國に歸還することを許すことを

三十日聯合艦隊司令長官東郷平八郎へ左の勅語を賜りたり
聯合艦隊へ敵艦隊を朝鮮海峽に遊撃し當敵日艦ニ之ヲ殲滅シテ空前ノ偉功ヲ奏シタリ
朕ハ汝等ノ忠烈ニ甚シク感佩シテ朕ノ精神ニ對フルヲ惟フニ前途ハ尙遠シキニ汝等愈々奮勵シテ以テ戰果ヲ奏フセヨ

奉 答

日本海の戦場に對し特に要溺なる勅語を賜はり臣等感激の至りに堪へず此海戦期以上の成果を見るに至りたるは一に陛下
海戦成の普及及び歴代一神靈の加護に依るものにして固より人爲の能くすべし所にあらす臣等唯々益々奮勵して天皇の勢を盡し
以て皇威を震せんことを期す

明治三十八年五月二十二日

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

同日海軍へ左の勅語を賜りたり

我海軍ハ露軍軍勢共ニ宜シキヲ得中外相從テ敵ノ環攻ヲ固守シ以テ 臣等ニ對シテ
朕深ク其偉功ヲ嘉尚ス汝等益々努力シテ大威ヲ期セヨ

奉 答

陛下の勅諭に依り臣等海軍の威名を盡したるに對し更に要溺なる勅語を賜はり臣等感激の至りに堪へず此海戦期以上の成果を見るに至りたるは一に陛下
海戦成の普及及び歴代一神靈の加護に依るものにして固より人爲の能くすべし所にあらす臣等唯々益々奮勵して天皇の勢を盡し
以て皇威を震せんことを期す

明治三十八年五月三十一日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

臣 祐 孝

陛下の勅諭に依り我海軍が敵艦隊を殲滅したるに對し要溺なる勅語を賜はり臣等感激の至りに堪へず此海戦期以上の成果を見るに至りたるは一に陛下
海戦成の普及及び歴代一神靈の加護に依るものにして固より人爲の能くすべし所にあらす臣等唯々益々奮勵して天皇の勢を盡し
以て皇威を震せんことを期す

明治三十八年五月二十二日

海軍軍令部長 子爵伊東 祐 孝

補 遺

開戦以來發表せしもの、外帝國軍艦の沈没せしもの左の如し

一、戦艦八島

右明治三十七年五月十五日旅順口封鎖に従軍中敵の機械水雷に觸れ終に沈没す

二、驅逐艦勝

右明治三十七年五月二十一日夜旅順口封鎖に従軍中敵の水雷に觸れ沈没す

三、砲艦大島

右明治三十七年五月十八日夜陸軍と共同作戦の目的を以て遼東灣に遊弋中僚艦と衝突し沈没す

四、驅逐艦運島

右明治三十七年九月三日夜旅順口封鎖に従事中敵の機械水雷に觸れ沈没す

五、砲艦受宥

右明治三十七年十一月六日旅順口封鎖に従事中直隸海峽に於て暗礁に觸れ沈没す

六、巡洋艦高砂

右明治三十七年十二月十二日夜旅順口封鎖に従事中敵の機械水雷に觸れ沈没す

第卅四章 滿洲及北韓方面の戦況

昌圖及威遠堡門附近の戦況 (六月二日)

三日午後大本營著電

昨日午前六時四十分頃敵騎約三十西沙河子(昌圖東方約三里半)に又午後零時三十分約同敵の敵騎南坡子(威遠堡門東北約二里半)に侵入せしも共に之を撃退せり

同日午後三時半頃我斥候は昌圖停車場北方約二里の地點に於て敵騎を襲ひ卒一、乘馬二を踏し乘馬一を捕獲せり

此他各方面共情況變化なし

昌圖及十子峪附近の戦況 (六月三日)

四日午後大本營著電

昨日早朝敵の歩騎兵約三百、二十里堡(昌圖北方約三里)に向ひ襲來せしも午前十時我兵之を撃退せり

同日午前九時半頃敵騎約二十中隊康平、鄭家屯(奉化の西北約廿里)街道上太平街(康平北方約八里)附近より南下し其一部を以て十子峪(康平東方約四里)附近に襲來せしも同地附近に在りし我砲兵のため多大の損害を受け西方及西北方に敗走せり此戦闘に於て我損害は輕傷卒四に止まり敵の損害は死傷百以上に達せり

此他各方面共情況大なる變化なし

威遠堡門及昌圖附近の戦況 (六月五日)

六日午後大本營著電

昨日午前四時半より五時の間に於て敵の歩兵馬家屯(威遠堡門北方一里強)附近に來襲せしも我兵之を撃退せり

同日沙可子(昌圖東方約四里)方向に前進せし我部隊は同地附近の敵を驅逐して同停車場及其附近の高地を占領せり又我騎兵の一部は七家子(康平北方約七里)及馬家屯(七家子東方約三里)附近に在り

し敵の騎兵を北方に驅逐して同地を占領せり
此他各方面共情況變化なし

英額邊門附近の戰況 (六月六日)

七日午後大本營電

昨六日午前十一時半頃敵兵約百五、六十、四廟子(英額邊門東方約二里)方向に前進し來りしも同地北方高地に於て我兵の擊攘する所を爲り午後三時半頃年魚嶺(英額邊門東北約三里)方向に潰走せり此戰鬪に於て卒一、乘馬二を捕獲せり

此他各方面共彼我斥候の衝突ある外情況變化なし

前城子及昌圖附近の戰況 (六月七日)

八日午後大本營電

凉水泉(前城子東方約一里)方向に前進せし我部隊は昨七日午前三時半同地北方附近に在りし歩兵約一中隊、騎兵約五十より成る敵を驅逐し同六時半頃茶棚廐(前城子東北約一里半)東方高地を占領せり
昨七日午前六時半敵騎約一中隊四方臺(昌圖北方約四里)附近に又午前七時半頃約五十の敵騎は大奥屯(昌圖西北約二里半)方向の同時約百五十の敵騎は十天地(大奥屯北方約一里)附近に來襲せしも我兵悉く之を擊退せり

凉水泉及昌圖附近敵陣地の占領 (六月九日)

十日午前大本營電

昨九日午前四時我兵凉水泉北方高地より南城子北方高地に亘る敵を驅逐して之を占領せり
同日二十里堡(昌圖東北約四里)、四方臺、東家子(昌圖北方約四里)及興隆山(昌圖西北約五里)附近は我兵之を占領せり
此他各方面共大なる變化なし

西營子及西平房等の占領 (六月十日)

十一日午後大本營電

昨十日我騎兵は西營子(遼陽窩棚南方約二里半)西平房(西營子西南約一里)附近に在りし敵の騎兵を驅逐して之を占領し又其一部は小城子(康平北方約七里)及高家窩棚(小城子東北約一里)附近の敵を擊攘して小葦塘(高家窩棚東方約一里)にして遼陽窩棚を距る西約四里(北方高地を占領せり)
此他各方面共斥候の衝突ある外情況變化なし

四疇子及四方臺の敵襲擊退 (六月十一日)

十二日大本營電

昨十一日諸兵連合の敵の一縱隊小白銀河(英額城東北約六里)より年魚嶺を経て英額城方向に來進せり

しも四磨子(英頼城東北約一里半)附近に於て我兵の擊退する所と爲り東北方に敗走せり
同日午前六時半歩兵約一大隊騎兵約二中隊砲四門より成る敵は東北方より二十里堡に又同日午前四時半砲四門を有する敵の騎兵約六百四方臺附近に向ひ來襲せしも我兵悉く之を擊退せり
此他各方面共情況大なる變化なし

昌圖附近の戰況 (六月十四日)

十五日午後大本營電

昨日午前四時、八百大地(昌圖北方約四里)及海城窩棚(昌圖西北約五里)附近に向ひ來進せし敵兵を擊退せし外處々斥候の衝突を見るのみ

各方面の戰況 (六月十六日)

二十日午後大本營電

威遠堡門方面

昨日午前九時敵騎約三百餘騎より孤榆樹方向に前進し來りしも我兵之を擊退せり

昌圖方面

我前部隊は四面城に在りし敵の一部隊を驅逐し同地を占領せり

大小屯方面

我一部隊は雙岔子(四面城西方二里)に在る敵の騎兵部隊を擊退し同地を占領せり

康平方面

我中央部隊は午前一時四十分田家窩棚(康平東北六里半)に於て敵の騎兵を空破し之を急迫して午前四時より同八時三十分に至る間に於て陽遼窩棚南端及其東方に亘る敵の陣地を攻撃し同九時全く遼陽窩棚を占領せり又右翼部隊は途中敵騎を逐驅しつゝ午前八時羅船口(遼陽窩棚東方約三里半)及湯家堡(遼陽窩棚東方二里)を占領し更に遼陽窩棚北方に退却する敵騎を砲撃し之に多大の損害を與へ遂に全く潰亂に陥らしめたり又左翼部隊は遼陽窩棚より西北に敗走する敵騎約千に對し猛烈なる追撃を爲し之に多大の損害の「へたり
捕虜の言に依れば遼陽窩棚に在りたるものはミスチエンコの指揮する騎兵五千、砲二十門にして其主力は北方に一部は東北方及西北方に遺走せり此戰闘に於て敵は非常の狼狽を極め混亂して敗走したるの形跡歴然たり其遺棄したる糧秣及被服に依り察するに敵の給養は頗る困難の情態に在るものゝ如し此戰闘に於て雜殺敵百石を鹵獲せり
敵は退却に當り遼陽窩棚南端の二戸に放火せり其目的は彼の死屍を燒棄するに在りしこと形跡に依り之を推斷することを得たり

我損害は將校以下戰死三十、負傷百八十五、敵の損害は不明なるも中央部隊の正面に於て戰場に遺棄

七又は捕獲したるものゝみにても八十以上に達し騎馬十數頭を算す故に各方面より受けたる敵の損害を合算すれば頗る大なるものならん

威遠堡門及昌圖方面の戦況 (六月十九日)

二十日午後大本營報告

威遠堡門方面

昨日午前一時半頃敵に遭遇することなく蓮花街を占領したる我部隊は爾後吉林街道附近の敵を逐次撃退しつゝ楊木林子(威遠堡門東北約八里)を占領せり又他の一部は同日午後三時二十分様子嶺(威遠堡門北方約四里半)附近の敵を驅逐して同九時四十分石灰窩子(様子嶺北方約三里)西北高地を占領し尋て同地北方及東北方高地に據れる敵を撃退し之を北方に潰走せしめたり

昌圖方面

鐵嶺線路附近を前進せし我部隊は沙河子停車場北方約一里の高地に在りし敵の歩騎兵を撃退し昨午六時半雙廟子(昌圖東北約七里)南方高地を占領せり
該停車場は全く破壊せられたり此戦闘に於ける我損害は負傷卒四に止り敵の損害は屍體十(内將校一)、斃馬三を遺棄せしより察せば比較的多大なりしならん又機關砲一門、乘馬一頭を鹵獲し卒一を捕獲せり

奉化街附近を前進せし我部隊は昨十九日午前三時半北房盛甸(興隆泉東南約一里)附近の敵を驅逐し猛烈なる我砲火を以て敵を壓迫しつゝ同八時四十分柳條甸(昌圖北方約七里半)にして北房盛甸の北約二里半()を占領せり此他各方面共大なる變化なし

鏡城占領 (六月二十日)

二十一日午後大本營報告

北韓方面の我一部隊は二十日午前十一時全く鏡城を占領せり同地附近に在りし砲兵を有する數千の敵兵は鏡城(鏡城の北方約四里)方向に退却中なり

英額城及威遠堡門方面の戦況 (六月廿一日)

二十一日午後大本營報告

英額城方面

昨二十一日千餘の敵兵灣口子溝方面より紅草甸(灣口子溝西方約二里)附近に在りし我偵察隊を壓迫しつゝ前進し午後四時半向陽鎮(灣口子溝西南約四里)附近に達せし時我兵之を迎撃し多大の損害を與へて撃退し直に追撃に移れり

威遠堡門方面

昨十九日楊木林子附近を占領せし我部隊の某任務を遂行して歸來せし後敵の歩兵約三大隊、騎兵

約四中队、野山砲十門及機關砲二門より成る敵の主力は吉林街道東方の地區を、又其一部は西方の地區を前進し昨二十一日午前十一時半頃より其歩兵は漸次茶棚巷より李家屯(南城子東北約二里)附近に亘る高地に現れ其砲兵は逆花街東南高地に陣地を占領し午後一時十五分南城子北方高地に向ひ砲撃を開始せり此の附近の我兵は交戦數時間の後攻撃前進に移り午後七時四十五分全く敵を撃退して歡喜嶺附近の高地を占領し尙ほ追撃を續行せり此他各方面共情況變化なし

南山城子附近の占領 (六月廿二日)

二十四日午後大本營電

去る二十一日來南山城子(英領城東方約七里)附近に南下しつゝありし敵を擊退する目的を以て派遣せられたる我一部隊は一昨二十二日午後四時半頃より南山城子西北高地を占領する敵を西北方より攻撃せり敵は午後五時四十分頃より多少動搖を起し其一部退却を始めたるも南山城子西方高地の敵は依然頑強の抵抗を試みしを以て午後六時十分猛烈なる突撃を以て同高地を占領し尋て南山城子北方高地の敵と激戦を交へ一部を太平店子(南山城子西北約三吉)東北方に迂回せしめ退却せる敵に對し追撃射撃を行はしめたり敵は此迂回に依り非常の狼狽を極め其歩騎兵は退却に際し赤十字旗を樹て、我射撃を免れんことを計りしも我猛烈なる追撃に依り隊伍を亂して北方に潰走せり敵の主力は歩騎約三千にして砲數門を有し五十以上の屍體を戰場に遺棄せり其死傷は蓋し少くも二、三に達せしならん我損害は戦死卒二、馬一、負傷將校一(輕傷)下士卒十六及馬一なり此他各方面共大なる變化なし

滿洲及北韓方面の戰況 (六月二十六日)

二十七日午後大本營電

(一) 滿洲方面

昨二十六日午前六時三十分頃より砲六門を有する敵兵約五中队張家店(康平西北約五里)附近に潰出し來りしも我兵の撃退する所と爲り北方に退却せし外處々斥候の出沒するを見るのみ

(二) 北韓方面

昨二十六日我兵輪城(鏡城北方約四里半)を占領せり

灣口子溝及南山城子附近の占領 (六月二十八、二十九日)

三十日午後大本營電

興京方面より海龍方向に派遣せられたる我支隊は昨二十九日午前九時大沙灘灣口子溝西北約一里に於て敵の歩騎兵約三百を驅逐し同地北方高地を占領せり又其一部は一昨二十八日午後三間房(英領城東方約七里南山城子北方約二里)を占領し昨二十九日尙ほ北進せり
此他各方面共大なる變化なし

北韓及滿洲方面の戰況 (七月二、三日)

七月三日午後六時發報

(一)北韓方面

昨日拂曉砲兵を有する敵の騎兵約四百富寧街道上樟項(韓地北方約二里半)附近に現出せしを以て同地附近に在りし我兵之と交戦し午前七時三十分頃多大の損害を與へて之を北方に撃退せり又敵の退路を遮断する目的を以て遠く北方に迂回せる我支隊は同日正午頃盧通溝(韓地北方約五里半)にして富寧街道上に在りし敵の歩兵を攻撃中樟項附近より敗走し來れる敵の騎兵を掩撃し之を潰亂せしめたり本日(二)の戦闘に於て鹵獲せしもの乘馬一、鎗二十八、外套六十六其他天幕、土工具及彈藥等數多あり

(二)滿洲方面

敵騎約六百一昨日午前八時頃より牝牛河(遼河右岸の地區にして康平の東北約五里)方向に前進し來りしも同地附近に在りし我兵のため撃退せられたり又午前九時過より獅々谷(牝牛河西北約三里)附近に向ひ砲約十八門を有する約一千五百の敵の騎兵(内乘馬歩兵若干あり)來襲し交戦夜に入り翌二日拂曉に至り我兵之を撃退せり此戦闘に於て敵に與へたる損害は死傷四百以上に達せり我死傷約九十名なり

他他所々に斥候の衝突あり

斥候の衝突 (七月六日)

七日午後六時發報

昨日各方面に於ける重なる斥候の衝突左の如し
午前十時海龍池(開原より英額城に通ずる道路上にして英額城の西北約九里)附近に於て敵騎二小隊と衝突し之を東方に撃退せり

午前五時過三十里堡(昌圖の北方約四里にして奉化街道上に在り)附近に於て敵騎約五十を北方に撃退し兵五及馬四を斃せり又同時頃順山堡(三十里堡の東北約二里)附近に敵の手馬(徒歩鞍の)戰友の乘馬を保持し後方に在るものを發見し之を射撃せしに敵は屍體一、馬三を残して退却せり
午後八時頃敵騎約四中隊龍王廟子(康平の西北約二里)附近に現出せしも我歩兵の前進するを見て即ち北方に退却せり

富寧及富居附近の占領 (七月二十四日)

二十五日午後六時發報

北韓軍は富寧及富居附近の敵を撃退し昨二十四日素濱(富居東北三里強)より白沙峯(富寧東北三里強)英山嶺(富寧北方四里強)にして會寧街道上に在りしを経て新嶺山(英山嶺の西北約五里)に亘る線

又他の一部隊は白峴(五峰嶺西方三里)に在りし敵百の敵を驅逐し追撃中
輸洞方面に於ては行々敵を驅逐し前進中に在り
此戦隊に於て我損害は即死石澤大尉、負傷吉元大尉以下將校三名、下士以下約六十、敵の損害は詳
ならずとも頗る多大なるもの、如く戦場に遺棄せし屍體四十餘其他兩獲品多数なり

第二十五章 北遣艦隊の活動

北遣艦隊の行動

北遣艦隊に関する片岡司令官報告

其一

七月七日午後電

北遣艦隊は豫定の如く行動し陸戦隊は本日午後一時敵の抵抗を受けずして豫定上陸點を占領し陸軍
の一部も亦既に上陸せり天氣晴朗風なし

其二

同八日午前電

七日午後三時四十五分一驅逐艦の報告に依れば哥爾薩港全市火に罹り初め同艦に向ひ發砲せし砲臺
も今全く沈黙せり我陸軍兵は午後四時對馬崎(元エンツマ岬)に達せり

其三

同九日午前電

北遣艦隊は豫定の如く七月四日午前九時陸軍輸送船隊を護衛し樺太に向ひて出發す朝來淡霧あり時
々細雨を伴ふ
五日濃霧威々氷襲し時々展望を缺くに至りしも一も永續するものに會せず船隊は常に良好の序列を
保持せり

七日午前六時既に豫定集合地點に達したるを以て先づ漂泊し掃海事業の進捗に伴ひ一隊をして輸送
船隊を順次掃海面に嚮道させしめ他の一隊は掃海面入口に達し汽艇端舟を卸して陸軍の揚陸に助力
せしむ又哨艦を豫定の地點に派遣して警戒を爲さしめたり

是より先出羽中將の率ゆる艦隊は掃海及上陸掩護等の任務を遂行せしか其報告大要左の如し

午前六時豫定上陸點に達し直に掃海を決定せしむると同時に驅逐隊を派して上陸地點を偵察せし
めたるに附近沿岸一の防備を見ず僅に監視兵らしきもの三名あり又端舟の著岸良好なるか如しと
報し又廣瀬中佐の率ゆる掃海隊は強潮ありて動作困難を感せしに拘らず其進行極て迅速に午前八
時四十分には既に上陸點を距る五海里の處に達せり此に於て艦隊の一部及輸送船隊を掃海面に入
らしめ直に聯合陸戦隊を上陸せしめたるに何等の抵抗に會せずして目的地點を占領し續て陸軍の
一部も上陸を遂げ陸戦隊は其守地を之に譲りて無事任務を了へ歸艦せり然るに突然哥爾薩港の南
方高地の砲臺より我掃海隊に向ひて砲撃を加へ掃海隊は之れがため一時掩護の任に當れる亦城を

共に敵砲火の下に掃海を強行するの難境に陥りしも愈々海面を掃掃し目的區域の掃海を了るを得たり

聯隊は一も損傷なし八日早朝接受せる無線電信に依れば陸軍は既に哥爾薩港を占領し各所に日章旗翻々たりと云ふ

今回の作戦に當り本職は最も天候を顧慮せしに拘らず以上の如く無事任務の一部を遂行し得たるは本職の光榮とする所なり

其四

同日午後特電

八日海馬島を偵察せし中尾司令官の報告に依れば同島異状なし

其五

同日午前特電

八日午前二時陸軍の哥爾薩港占領に策應するため軍艦三隻及驅逐艦二隻を對馬崎(元エンゾウ岬)附近に派遣したるに砲火を開くに至らずして哥爾薩港は我陸軍の手中に陥れり全日午後三時過驅逐隊は深く千歲灣(元ロッセイ灣)内に入りソロウイヨフカ村沖合に至りし時敵の砲兵陣地より野砲を以て猛烈なる砲撃を開始せしに依り直に應戦遂に之を沈黙せしめたり

其六

七月十一日午前特電

近藤岬(元ノト岬)占領の目的を以て十日陸軍兵を搭載せる巡洋艦二隻及水雷艦四隻を率ゐる哥爾薩

灣を出發して同方面に向ひし東郷司令官(正路)の報告に依れば同支隊は着後敵砲の威嚇砲撃を試み續て陸軍隊を上陸せしめ無事同岬を占領して日章旗を樹立せり燈臺建築物等皆完全にして燈臺は點火を試みし結果良好なり又捕虜四名を得たり

北韓方面に於ける驅逐隊及軍艦千早の行動 (七月十七日)

十八日上村艦隊司令長官報告

北韓方面に作動せる上村艦隊司令長官の報告に依れば十七日我驅逐隊は雄基灣に於て敵兵二百より射撃を受け直に之を砲撃沈黙せしめ續て其附近諸處に敵の騎兵の遁逃するを認めたるを以て之をも威嚇砲撃せり素清に於ても敵の騎兵五六騎街道を進行しつゝありしか我驅逐隊の海岸に接近するを見て是れ亦倉皇逃走せり又千早は羅津浦の西端ゲカ角北方高地に在る敵の通信及監視兵に砲撃を試みたり

北遣艦隊の行動 (七月廿三日、廿四日)

(一)

廿六日著片岡北遣艦隊司令長官報告

北遣艦隊は豫定の如く陸軍輸送船隊を護衛し豫定地點を出發して化征の途に上れり連日の際霧散して一天拭ふか如く海上平靜にして微波をも揚げず

二十三日黎明南南東の軟風起り終日濃霧あり細雨之に伴ひ時々展望を缺くことありしも船隊は常に

毅然たる序列を保持せり是より先出羽中將の率ゆる先發隊は沿岸を偵察シアレキサンドロフスク附近なる露足上陸地點の掃海を厲行し本職は其進捗に伴ひ二十四日各教導艦をして順次輸送船を掃海面に誘導せしめ陸戰隊を上陸せしめたるに何等の抵抗を見ずして揚陸上必要な地區の占領を遂げ續て陸軍兵の揚陸を開始し我陸戰隊は其守地を之に譲りて歸艦せり

アレキサンドロフスク、ニヨミ及ムガケ等の棧橋は完全にして我艦隊に於て之を保護しあり敵は朝來ヌミナを燒拂ひアルゴフに放火し今尙ほ火災中に在りと雖もアレキサンドロフスキーは兵燹に罹るに至らず

次て同日午後七時三十分接手せし報告に依ればアレキサンドロフスキー島廳及市中家屋には我日章旗の翻々たるを見ると我艦艇並に人員に一の損傷なし

(二)

廿七日幕片岡北道艦隊司令長官報告

七月二十四日カストリ灣(樺太アレキサンドロフスキーの對岸にして北東方約六十海里に在り)に派遣せる支隊指揮官の報告左の如し

二十四日午後クレストーキャンプ附近に上陸せしに燈臺監守員は皆逃走し士官帽一、水兵帽七遺留しあり又燈臺の他端ツポイには電話を裝置したる建物ありて燈臺と連絡し燈臺二十一を備へられたる人形無し燈臺の構造宏大にして糧食倉庫に滿積す

其後港内深く進入しバナルト島附近に至りしときアレキサンドロフスキー(カストリ灣内に在り)本ものと同名なり)電信局の位置に當り砲四門を認めしか突然二門の砲より我を砲撃せしを以て直に應戦せしに敵終に沈黙す次て市街は大火災を起し火藥庫らしきもの爆發せり

勅語下る

七月二十九日北道艦隊司令長官片岡七郎へ左の勅語を賜りたり

北道艦隊ハ天候ノ障礙ヲ冒シテ陸軍ヲ輸送シ其上陸ヲ完フセシメテ樺太占領ノ基礎ヲ成セリ
 朕深ク之ヲ嘉尚ス

奉 答

北道艦隊ハ天候の障礙を排し樺太に對する作戰の目的を達成せるを得たるは一に 陛下の御嘉獎と天祐とに賴るものなり然るに特に優遇なる 勅語を賜はる臣等感激の至りに堪へず尙ほ益々奮勵戰果を全ふせんことを期す臣等誠恐誠慚謹て奉答す

明治三十八年八月五日

北道艦隊司令長官 片岡 七郎

敵艦隊慣用の蠻行 (八月三日)

八月三日午後大本營

今朝四時四十八分敵の驅逐艦二隻鏡城沖に現れ航海中の本那汽船慶尚號を砲撃せり同船は右舷機關部及船橋に七發の命中彈を被り遠山船長及「ボーイ」一名即死し船長重傷水夫(韓人)二名負傷せり敵艦は約六十發發砲の後午前五時六分砲撃を止め浦潮方向に航走せり慶尚號は船體傾斜せしも航海に支支なしと云ふ

北道艦隊支隊の作動 (八月十日)

十日大本營報告

片岡北道艦隊司令長官の報告に據れば同長官は一支隊を東察加方面に他の一支隊をオコック海沿岸に派遣し右兩支隊は現に各々其目的の方面に於て作動中なり

グナイチャ湖南東岸に於ける敵掃蕩 (八月十日)

十一日片岡北道艦隊司令長官報告

陸海軍協同してグナイチャ湖(樺太の東岸に在り九春古丹を東に距る約二十海里)南東岸に據れる敵掃蕩の目的を以て去る七日出發せし軍艦よりの十日午後十時三十分發の報告に依れば同日午前六時三十分より裝砲艇隊は湖上より、陸軍兵は東岸湖畔より協同して攻撃を開始し砲戰約二時間の後敵は白旗を掲げて降服せり其人員百二十三、我陸軍は直に陣地を占領せり

樺太東岸に於ける驅逐隊の行動 (八月十三日)

十四日片岡北道艦隊司令長官報告

樺太東岸に作動せしめたる驅逐艦長海軍大尉原田正作の報告に依れば同艦は十三日朝ナイヲロ電傳局に合營せる敵の殘兵を攻撃し其全員十八名を捕虜と爲し武器通信機等を鹵獲せり

間宮海峽附近に於る陸戰隊の行動 (八月十三日)

十五日片岡北道艦隊司令長官報告

艦隊の一部は十三日間宮海島ラザンバ角に敵の守備兵あるを認め砲撃を爲せし後陸戰隊を上陸せしむるの際海岸の森林中より突然猛烈なる敵の射撃を受け一名の戦死者、四名の負傷者を生せしも遂に擊退して其通信所を破壊せり

オコック海方面及東察加方面分遣艦隊の行動 (八月十三日より十七日まで)

東察加分遣艦隊司令官報告十九日大本營報告

東察加方面分遣艦隊は十三日同半島パトロバプロフスク港内に於て露國輸送船ラーストラリヤ號を拿捕せり

(一)

二十五日片岡北道艦隊司令長官報告

曩にオコック海方面に出動せる分遣艦隊司令官の報告に據れば同隊は本月十四日亞楊港に於ては舊式砲一門小銃三挺及彈藥若干を、同十七日オコック港に於ては小銃五十八挺、彈藥若干を鹵獲したり

又同隊は十三日サガレン海灣に於てニコラエフスク港へ航行の途に在る英國帆船アンチオーブ號(二四八六噸)を拿捕せり

(三)

東察加方面分遣艦隊司令官報告廿五日午後大本營報告

東察加方面分遣艦隊は十六日コマンドルスキー列島ニコリスク港に於て露國運送船汽船モンタラ號(二五六二噸)を指捕したり

黒龍江及方面の哨所砲撃 (八月二十七日)

廿七日片岡北道艦隊司令長官報告

黒龍江方面分遣艦隊は敵か新に黒龍江口の南方ツハマヲレ、ラザレバの二哨所に増兵せるを登見して之を砲撃破壊せり

第二十六章 樺太降伏占領

哥爾薩の占領 (七月八日)

十日午前大本營電

樺太上陸は大なる敵の抵抗を受くることなく七月八日早朝哥爾薩港を占領せり
敵は同市を焼きソロイフカ(哥爾薩港北方約三里)附近の陣地を退き再び抵抗を試みしも同日午前十一時我追撃隊の撃攘する所となりウラジミロフカ(哥爾薩港北方約九里)方向に退却せり
此日の戦闘にて十二珊米加農二門、十二斤砲二門及彈藥を鹵獲せり我に損害なし
ウラジミロフカ及ブリヂ子エの占領 (七月十日より十二日まで)

十四日午後大本營電

樺太上陸軍は敵を追撃して十日ウラジミロフカ、ブリヂ子エ(ウラジミロフカ西方約二里)附近に據れる敵を驅逐し兩地を占領せり
敵の主力はダリネエ(ウラジミロフカ西方約二里)西北方密林に退き豫て構成せる陣地に據り野砲及機關砲數門を備へ頑強なる抵抗を試みたり我軍は十一日より猛烈に之を攻撃し十二日拂曉遂に之をマウカ方向に撃退して潰亂せしめたり敵の損害は未詳なるも死傷將校以下百五、六十を下らざるか如し

樺太全島軍政 (七月三十日)

大本營公示

大本營

樺太軍司令官陸軍中將原口兼濟は七月三十日樺太全島に軍政を布く旨を達示せり

勅語下る

樺太軍に賜りたる勅語左の如し

我樺太軍ハ俄ニコルソコフ及其附近ノ敵ヲ掃蕩シテ南島ノ占領ヲ完クシ今又首府アレキサンドロフ及レイコフ地方ノ敵ヲ擊滅シテ其占領ヲ確實ニセリ
朕深ク汝等將卒ノ行動敏捷ニシテ偉大ノ効果ヲ收メタルヲ嘉尚ス

奉 答

第三十六章 樺太降伏占領

樺太島南北要地の占領に對し優越なる 勳勳を以て日露戦争の際の面に堪へず益々奮闘して 砲台に報告し率ちむ巨艦陣頭感懐は
て矣す

明治三十八年八月十一日

樺太軍司令官 山口 兼輝

樺太敵軍の降伏 (七月廿八日より八月一日まで)

(一)

八月三日夜大本營電

樺太軍の獨立騎兵は七月二十八日午後パレオ南方の敵を攻撃し之を其以南に逃走せしめ野砲二門彈藥車五輛其他多數の小銃及彈藥を鹵獲せり
二十九日獨立騎兵は其支援隊と共に敵をタウラン(レイコン南方約十里)南方に急追す此日敵はオノル(タウラン南方約十里)附近に停止せり
三十日午前五時敵の軍使タウランに來り軍務知事リャブノン中將の書翰を齎す其要旨左の如し
綑帶料及醫藥の缺乏に負傷者に對する治療の不可は人道上的感覺に依り手をして閣下に向ひ
戦闘の中止を申込みの已むを得ざるに至れり
軍司令官之に對し左の要旨の回答を與へたり
總ての軍需品及軍に對する動産不動産を現在の價引渡すこと、行政及軍事に關する總ての圖書類を引渡すこと、以上の回答を七月三十一日午前一時までに第一ハムダ(サオノル北方約二里)に提出すへきこと若し此時刻に回答を得られぬは直に攻撃を實施すること

三十一日敵の全權大佐タラセンコ第一ハムダに來り我全權小泉參謀長と會見の結果我提出條件に
一も異議なく軍務知事リャブノン以下將校約七十、兵士卒約三千二百悉く投降す依て之を捕虜とせり
兵器、被服、糧秣其他鹵獲品頗る多く目下取調中

(二)樺太軍方面

七日午後大本營電

八月一日午後五時リャブノン中將以下幕僚五名レイコンに護送せられ寺院に於て軍司令官と會見す
リャブノン中將の言に據ればナイオロ附近に將校二、兵百名を派遣しあり此支隊にはオノルに來り日本軍に投降すへき旨を電報し置きたりと
其後投降人尙は増加せり、當地方の監獄囚徒は我軍占領以前多く脱檻(開放の疑あり)せるもの、如く地方の安寧に關し大に憂慮し居れり

樺太敵軍殲滅 (八月三十日)

九月二日午前大本營電

大多和大尉の率ゆる部隊は連日險惡なる深山を超ね密林を通過して敵を西海岸よりナイブテ河口に
壓迫し八月三十日正午より五時間に亘る劇戰を以て遂に之を殲滅したり我戰死歩兵中尉川井清照下
士以下死傷七、敵は死者約百二十、戰利品若干あり是にて樺太南部全く平定するに至れり

樺太島北部露軍投降顛末

六五五

原口樺太軍司令官大木啓示

七月二十七日我軍ルイコフを占領するや敵の兵力は南方オノール方向に退却せり依て安東騎兵中佐の指揮する支隊を以て之を急迫せしめたり本願は人道上の正義に依り速に作戦動作を終了するを願ふなりと認めルイコフに残留せる露國薩哈噠島部都以謀夫洲長官セルギー、ソーギフを引見し左の要旨の内談を爲せり

我軍隊の本島に上陸せし以來本島にある露國守備は到る處連戦連敗し本島の要地は悉く己に我軍の占領する所となり今や薩哈噠島長官リャブノフ中將は敗餘の軍隊を率ゐるホルン方向に退却し僅かに餘喘を保ちつゝあるは卿等の己に知得する所の如し蓋し其目的とする處は遠くゾルペーニヤ灣沿岸に到り海路大陸に通れんとの僥倖を胸算しつゝあるならんか然れども目下制海權を有する我海軍は決して本島と大陸間に於ける露軍の交通を許さざるべく己に我軍艦の一部は此の目的の爲めゾルペーニヤ灣方向に行動しつゝあり海上に於ける露軍の退路全く絶望なる已に此の如し又陸上に於ては我軍隊は益々露軍を急迫して其先頭已にバンネオ以南に達す今後益々狂悖急驟露軍を窮地に陥らしむるは必要の勢なり故に假令リャブノフ將軍にして大陸に逃れんとするの目的を有すと雖も實あるに非ざれば能はざるなり

大勢の定まる所已に此の如し故に予を以て之を見れば今日以後に於ける露軍の作戦は單に戦争の慘禍を増大ならしむる無益の行動に過ぎざるなり

卿は露國薩哈噠島軍務知事たるリャブノフ中將に對し部下たる關係に於て若は個人的知己たる關係に於て此無益なる作戦の繼續を停止するの勸告を彼に與ふるの意思を有するに於ては予は之を傳達せしむるに適當なる便利を卿に與ふるに吝ならざるへし但し予は強て彼に降服の勸告を爲さんとするの意思を有するものに非ざるなり

終りに臨み予は卿に一言せんと言す我日本軍は苟も敵國軍人にして力盡き武器を投して軍門に降り抵抗の意思なきことを表明する者は俘虜とし戦時法に依り公明の取扱を爲すは勿論眞軍人たるの名譽を保護する點に於て慎重なる處置を取りつゝあり

右の談話は大にセルギー、ソーギフの心を動かしたるものゝ如く彼は即日情を具して戦争を停止するの申告をリャブノフ將軍に送附せり

七月三十日午前五時三十分敵の軍使中尉アクチナノフは我追擊隊の所在地ノウラシに來り二通の封書

を安東中佐に致せり其一通は我前哨司令官宛にして其譯文左の如し

日本軍前哨司令官貴下

今後空しき流血を避け軍事行動を中止せむか爲め予は茲に軍司令官宛の書簡を送附し薩哈噠島

日本軍司令官の處置を仰かんとす貴下の回答は予か軍使アノソフに致されむことを願ふ
千九百五年七月十八日オソフに於て

薩哈噠島軍長官陸軍中將 リヤフソフ

依て安東中佐は右司令官宛の封書と共に軍使の一行をアノソフに護送せしむ
午後三時十五分軍使の一行アノソフに到着す參謀長小泉歩兵大佐之をアノソフ市の中央なるアノソフ
フ寺に引見す軍司令官宛封書の譯文左の如し

薩哈噠島日本司令官閣下

綑帶材料及び藥品の缺乏と負傷者治療の不可能とは人道の爲め予をして閣下か郵以謀夫州長官を
經て予に致されたる地方住民の生命財産を確保する條件の下に今後の流血的戦闘の中止に關し閣
下の勸告を容るゝの已むを得ざるに至らしめたる

千九百五年七月十八日オソフに於て

薩哈噠島軍長官 リヤフソフ

本官は左の書面を認め之に回答せり

薩哈噠島長官閣下

閣下か差遣せられたる軍使の携帶したる閣下の書面を通讀し茲に當方より左の條件を提出す
一 兵馬、馬匹、糧食、其他の軍用物件及官に属する金銀有價證券其他の動産不動産は現状の儘引
渡すこと

二 薩哈噠島行政に必要な凡下の書類を引渡すこと

三 薩哈噠島守備軍編成表及防備計畫に關する地圖及書類を引渡すこと

右條件を承諾するに於ては全權を有する將校と共に其回答を明治三十八年七月三十一日(千九百
五年舊曆七月十八日)午前十時迄に第一ハムダサに送らるへし其時刻に到り回答を得されば我軍
は直に攻撃を續行すべし

大日本海軍司令官 原口陸軍中將

之と同時に追援隊を第一ハムダサ附近に進め攻撃準備の姿勢に在らしめたり本領は參謀長歩兵大佐
小泉策郎を全權委員に任し談判に關する訓令を與へ同夜半アノソフ出發ハムダサに急行せしむ
七月三十一日午前八時二十分敵軍の軍使として少尉ソコフ第一ハムダサに到り一通の封書を小泉
參謀長に致す其譯文左の如し

薩哈噠島日本軍司令官閣下

予か信賴する軍隊の降伏條件に付閣下より予に勸告せられたる條項に關し茲に承諾を表す其條件
左の如し

一 總ての兵器、彈藥、馬匹、糧食其他軍用の物件及官に属する金銀有價證券其他の動産、不動産は
現状の儘日本軍に引渡すこと

- 二 薩哈噠島の行政上必要な書類圖書を日本軍に引渡すこと
 - 三 薩哈噠島守備軍の編制に関する現存の書類を引渡すこと但し同島の防禦計畫に関する書類は軍機に属するものとして現行法律に照し軍事行動の開始と同時に皆之を破毀せり
- 予は閣下か予の信頼する軍隊の將校に帶劍を許さるゝことに關し予が願意容るゝに吝ならざらんことを希望す

千九百五年七月十八日(三十一日)オール村 薩哈噠島軍務知事兼薩哈噠島軍長官 陸軍中將 ヲヤブソフ

然るに軍使ソコロフ少尉は談判の全權を委任せられ居らざりしを以て小泉參謀長は談判を結了する能はざるを宣告し更に三時間以内を限り全權委員をハムダサに派遣すへきを要求せり

午後零時四十分敵の大佐タラセンコ以下將校二名、一書を齎して第一ハムダサに到る其書面の譯文左の如し

薩哈噠島日本軍司令官閣下

予は予の信頼する軍隊の降伏條件に關し談判を結了するか爲め此の書翰の携帶者アレキサンドロフスキー隊備大隊長陸軍大佐タラセンコを全權委員として茲に出發せしめたることを閣下に通報し併せてタラセンコ大佐の隨行員として參謀部二等大尉參謀長心得ブーレンウキツナ及特務尉官少尉ソコロフを派遣することを通報す

千九百五年七月十八日(三十一日)オール村 薩哈噠島軍務知事兼薩哈噠島長官 陸軍中將 ヲヤブソフ

此に於て我全權小泉參謀長は左の納降條件を示して關印を要求す

納降條件

- 一 露軍の軍人軍属は武装を解除し總て日本軍の俘虜とす
- 二 露軍の兵器、馬匹、糧秣其他軍用の物件及官に属する金錢、有價證券其他の動産、不動産は現狀の儘日本軍に交付するものとす
- 三 露軍は薩哈噠島行政上必要な書類圖書を日本軍に交付するものとす
- 四 露軍は薩哈噠島守備軍の編制及び軍事に關する一切の圖書を日本軍に交付するものとす
- 五 露軍は日本軍に交付すへき人員馬匹其他一切の物件を整理交付する爲め適當なる人員を以て委員を編成し日本軍委員と授受の方法を協議せしむへし
- 六 右諸項に規定する事項を實施すへき細條に關しては日本軍委員より露軍委員に指示するものとす
- 七 本條件關印の後は露軍司令官及其幕僚は明治三十八年八月一日(千九百五年露曆七月十九日)午後七時ルイコフに來るへし
- 八 本條件は日露兩軍に於て各一通を認め關印の時より直に効力を生ず

明治三十八年七月三十一日千九百五年閏七月十八日於第一ハムダサ

日本軍全權委員樺太軍參謀長 小島 浪耶
露軍全權委員アレキサンドロフ豫備大隊長 タラセニコ

露軍全權一も右條件に異議なく直に關印を終る

此に於てオノール附近に在りし薩哈噠島軍長官リャブノフ以下將校七十名下士卒四千三百十九名悉く武装を解き我軍の捕虜となる

第卅七章 日露兩軍休戦の協定

陸軍休戦に關する命令 (九月十三日)

九月十四日大本營發電

滿洲軍總司令官は滿洲方面に於ける日露兩軍の休戦に關し本日大要左の命令を下せり

命令

- 一、日露兩軍の休戦條件協定委員は昨十三日午前十時より沙河子(昌圖停車場北方約二里)に於て會見し同日午前七時廿分關印を了せり此協定せられたる休戦條件協定書は左の五箇條より成る

第一條 滿洲全部に於て戰鬪を中止す

第二條 本議定書と共に交換する圖面に示す日露兩軍第一線の間を以て離隔地帯とす

第三條 兩軍に一切の關係を有するものは如何なる口實を以てするに拘らず離隔地帯に入るを許さず

第四條 席雙子より沙河子に至る道路を以て兩軍の共用道路とす

第五條 本議定書は明治三十八年(千九百〇五年)九月十六日(露曆九月三日)正午時より効力を生ず

二、各軍は遅くも來十六日の正午迄に此議定書に従ひ休戦條件を實施すへし

海軍の休戦協定 (九月十八日)

島村海軍少將とエツセン海軍少將との間に協約したる休戦協定書の如し

休戦に關する日露議定書第五條に基き休戦の條件を決定するため東郷聯合艦隊司令長官の代軍表たる島村海軍少將は艦隊の一部を率ゐ九月十八日(露國の代表者エツセン海軍少將の率ゐる艦隊と羅津浦港外に會し左の通海上休戦地域を協定せり

海上休戦地域劃定に關する契約書

各艦隊總指揮官より代表者として相當の委員を受け下に署名したる島村海軍少將及エツセン少將は左の如く協約せり

交戰國の海岸に沿ひ左の如く海上を區劃す即ち界線はコヂヲノツ角より起り東南に三十海里を

走り北緯四十二度東經百三十六度の地點、北緯四十六度東經百四十度の地點、北緯四十八度東經百四十一度の地點、北緯五十度東經百四十一度二九三分の地點、北緯五十一度四十八分東經百四十一度二十三三分の地點を連接するものにして是より北緯五十三度東經百四十一度二十七分半の地點に至る間宮海峡の最狭部は中立地帯とし境界は再び北緯五十三度二十七分東經百四十一度二十七分半の地點に起り北緯五十六度東經四百十二度の地點北緯五十六度東經百四十八度の地點を経て占守海峡の中央地點を過ぎ北經五十度五十分の距等圏に合す

間宮海峡の最狭部は中立地帯とす

兩交戰國の海軍は互に前記の界線を越ゆるを許さず

此決議は署名の當日より實施し休戰期間其効力を生ずるものとす

各代表者は此議定書に署名し之を證す

西曆千九百五年九月十八日

島村海軍少將
エッセン海軍少將(白雲)

又協定以外に於て堪察加半島の住民糧食窮乏し今後二週間の後は海上の交通杜絶し餓死すべきを以て之を救濟する爲め人道に基き至急糧食及び日用品を搭載する輸送船一隻を浦羅斯德よりベトロハヴロフスク港に送るを許されたしとのエッセン少將の切願に對し時日切迫のため島村海軍少將は特に通行免狀を與へて之を承諾せり

第二編 講和

第一章 米國大統領の講和勸告

在本邦米國公使は六月九日附を以て帝國外務大臣に對し左の照會を爲せり

本使は國務長官の電訓に従ひ閣下に對し左の通牒をなすの光榮を有す

大統領の所感を以てすれば今や人類一般の利益の爲め目下の慘憺たる且痛歎すべき戰爭を終局せしむること能はざるかを見んか爲め大統領に於て努力せざるべからざる秋方に至れり

合衆國か日露兩國と友好親善の關係を保つや久し合衆國は此兩國の繁榮福祉を祈ると共に此二大國民間の戰爭に依り世界の進捗阻礙せらるゝを感す

故に大統領は日露兩國政府に於て兩國自己の爲めのみならず文明世界全體の利益の爲め相互間に直接の講和談判を開始せんことを切望す

右講和談判は全然兩交戰國間に於て直接に之を行ふべく換言すれば即ち日露兩國の全權委員は何等仲介者を設けずして會見し以て此等兩國の代表者に於て講和條件を協定すること能はざるかを見るに至らんことは大統領の勸告する所なり

大統領は熱心に日本政府に請ふに同政府か此際如上の會見に同意せんことを以てし又露國政府にも

等しく同意を求めつゝあり

大統領は講和談判其ものに關しては何等の仲介者を要するを見ずと雖も若し兩國關係にして會合の日時及場所に關し豫議を整ふるに付大統領の力を假るを利ありとするに於ては大統領は正當に爲し得る限り何等にても欣然其任に當らんとす然れども右の豫議とても若し兩國間直接に又は其他の方法を以て之を整ふることを得ば是大統領に於て固より擇ぶ所なり何となれば大統領の目的とする所は唯文明世界全體が依て以て平和を來さんことを齎るべき會合の成立に外ならざればなり
本使は此機に附し云々

右に對し帝國外務大臣は六月十日附を以て左の回答を爲せり

本大臣は國務長官閣下の電訓を通牒せられたる本月九日附貴輪を受領するの光榮を有す尙ほ帝國政府の復答として左の趣を貴國政府へ電致せられんことを請ふ

帝國政府は貴輪に記述せられたる合衆國大統領の勸告に對し極めて慎重なる考量を加へたり是其發言者と其内容とに顧み素より當然に屬す

露國との平和は其確實を充分に保障するに足るべき條件の下に之を復立せんことは世界の利益の爲め將又帝國の利益の爲め帝國政府の希望する所なるを以て帝國政府は大統領の勸告に應じ全然兩交戰國間に於て直接に講和條件を商議決定するの目的を以て相互の意に適し且つ便宜を認めらるべき

日時場所に於て露國全權委員と會合せんか爲め帝國全權委員を任命すへし

本大臣は此機に附し云々

七月十三日外務大臣男爵小村壽太郎、特命全權公使高平小五郎は本日講和全權委員仰付られたり

第一節 勸語小村全權委員に下る

七月六日午前十一時講和全權委員男爵小村壽太郎を御前に召され左の通勸語あらせられたり

米國大統領ハ日露兩國ノ交戰年ヲ累ネテ未タ解ケサルヲ憂ヘ人道及平和ノ爲ニ爭ヲ輟ムルノ急ナルヲ思ヒ兩國政府ニ對シテ互ニ全權ヲ簡派シ會合議商セシメンコトヲ勸告シタリ

朕ノ常ニ平和ニ眷々タルヲ以テシテ戰フノ已ムヲ得ザルニ至リタルハ固ヨリ朕カ素志ニ非ス苟モ對手ノ融悟ニヨリ干戈ヲ戩ムルヲ得ハ何ノ塵カ焉ニ若カン朕速ニ大統領ノ忠言ヲ納レ卿等ニ命レテ和議ヲ訂結スルノ任ニ膺ラシム卿等其ノ専心平和ヲ永遠ニ恢復スルノ目的ヲ達センコトヲ努メ

第二節 休戰に關する日露議定書

九月一日日露兩國の全權は左記の議定書に關印したり同議定書は九月五日より實施せらる

下名の日露兩國全權委員は各本國政府より相當の委任を受け講和の條約の實施に至る迄を有效期限として兩交戰露國に左の休戰條款を協定せり

- 第一條 滿洲並に豆滿江方面に於ける兩國軍隊の間に一定の距離(區劃地域)を定むへし
- 第二條 兩交戦國の一方の海軍は他の一方の領土若は占領地を砲撃することを得ず
- 第三條 海上の捕獲は休戦の爲め停止せらるることなし
- 第四條 休戦期限中援兵を戦地に派遣することを得ず其の派遣の途に在る者は日本國に在りては之を奉天以北に露西亞國に在りては之を哈爾濱以南に送ることを得ず
- 第五條 兩國陸海軍司令官は前數條の規定に遵ひ雙方合意の上休戦の條件を決定すへし
- 第六條 兩國政府は本議定書を實施せんか爲講和條約調印後直に其の命令を發すへし

千九百零五年九月一日ポーツマスに於て

小村 海軍大臣

高平 小 五郎

セリジ、ウキツテ

ロ、リ、セ、ン

第二章 東京府内の戒嚴令

勅令

朕茲に緊急の必要ありと認め樞密顧問の諮詢を経て帝國憲法第八條に依り東京府内一定の地域に戒嚴令中必要の規定を適用するの件を公布せしむ

御名 御璽

明治三十八年九月六日

(各大臣署名)

勅令第二百五號

東京府内一定の地域を限り別に勅令の定むる所に依り戒嚴令中必要の規定を適用することを得
本令は發布の日より之を施行す
朕茲に緊急の必要ありと認め樞密顧問の諮詢を経て帝國憲法第八條に依り新聞紙雜誌の取締に關する件を裁可し之を公布せしむ

御名 御璽

明治三十八年九月六日

(各大臣署名)

勅令第二百六號

第一條 新聞紙又は新聞紙條例に依る雜誌にして皇室の尊嚴を冒瀆し政體を變壞し若は朝憲を紊亂せんとせる事項又は暴動を教唆し犯罪を煽動するの虞ある事項を記載したるときは内務大臣は其の發賣頒布を禁止し之を差押へ且以後の發行を停止することを得

第二條 前條に依り新聞紙又は雜誌の發行を停止したる場合に於て内務大臣は必要と認むるときは其の停止中に限り同一人又は同一社の發行に係るものと認むる他の新聞紙又は雜誌の發行を停止することを得

第三條 發行停止を犯して新聞紙又は雑誌を發行したる者又は第一條の禁止を犯して新聞紙又は雜誌を發賣頒布したる者は一月以上六月以下の輕禁錮又は二十圓以上二百圓以下の罰金に處す

第四條 新聞紙條例第三十五條及第三十六條の規定は本令の犯罪にも亦之を適用す

第五條 本令は發布の日より之を施行す

朕明治三十八年勅令第二百五號の施行に關する件を裁可し茲に之を公布せしむ

御名 御璽

明治三十八年九月六日

内閣總理大臣 伯爵桂 太郎
陸軍大臣 寺内 正毅

勅令第二百七號

明治三十八年勅令第二百五號に依り左の區域に戒嚴令第九條及第十四條の規定を適用す但し同條中司令官の職務は東京衛戍總督之を行ふ

東京市 荏原郡 豊多摩郡 北豊島郡 南足立郡 南葛飾郡

附則

本令は發布の日より之を施行す

朕乘馬兵科者をして憲兵の勤務を補助せしむるの件を裁可し茲に之を公布せしむ

御名 御璽

明治三十八年九月六日

海軍大臣 男爵山本權兵衛
内務大臣 子爵芳川 四正
陸軍大臣 寺内 正毅
司法大臣 波多野敬直

勅令第二百八號

第一條 衛戍總督又は衛戍司令官は乘馬兵科の者を憲兵司令官 憲兵隊長若は憲兵分隊長の指揮に屬し憲兵の勤務を補助せしむることを得

第二條 憲兵の勤務を補助する者に付ては憲兵條例を準用す

第三條 憲兵の勤務を補助する者の服装は當該兵科の者に異なることなし但し左腕に赤布を纏ふ

第二章 講和條約の批准

第一節 講和條約全文

朕明治三十八年九月五日亞米利加合衆國「ボーツマス」(「ニユー・ハンプシャー」州)に於て朕が全權委員と露亞西全權委員の記名關印したる講和條約を批准し茲に之を公布せし

御名 御璽

明治三十八年十月十六日

内閣總理大臣兼外務大臣 伯爵桂 太郎

日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下は兩國及其の人民に平和の幸福を回復せむことを欲し講和條約を締結することに決定し之が爲に日本國皇帝陛下は外務大臣從三位勳一等男爵小村壽太郎閣下及亞米利加合衆國駐劄特命全權公使從三位勳一等高平小五郎閣下を全露西亞國皇帝陛下は「ブレシデント、オヴ、ゼ、コムミツチー、オヴ、ミニスターズ、オヴ、ゼ、エムバイズ、オヴ、ロシア」「セクレタリー、オヴ、ステート」「セルヂ、ウキツチ閣下及亞米利加合衆國駐劄特命全權大使「マスター、オヴ、ゼ、イムピリアル、コールト、オヴ、ロシア」男爵ローマン、ローゼン閣下を各其の全權委員に任命せり因て各全權委員は互に其の委任狀を示し其の良好妥當なるを認め以て左の諸條款を協議決定せり

第一條

日本國皇帝陛下と全露西亞國皇帝陛下との間及兩國並兩國臣民の間に將來平和及親睦あるへし

第二條

露西亞帝國政府は日本國が韓國に於て政事上軍事上及經濟上の卓絶なる利益の有することを承認し日本帝國政府が韓國に於て必要と認むる指導、保護及監理の措置を執るに方り阻礙し又は之に干渉せざることを約す

韓國に於ける露西亞國臣民は他の外國の臣民又は人民と全然同様に待遇せらるへく之を購買すれば最惠國の臣民又は人民と同等の地位に置かるへきものと知るへし

南滿約國は一切誤解の原因を避けむか爲露韓間の國境に於て露西亞國又は韓國の領土の安全を侵蝕することあるへき何等の軍事上措置を執らざることに同意す

第三條

日本及露西亞國は互に左の事を約す

- 一 本條約に附屬する追加約款第一の規定に従ひ遼東半島租借權が其の効力を及ぼす地域以外の滿洲より全然且同時に撤兵すること
- 二 前記區域を除くの外現に日本國又は露西亞國の軍隊に於て占領し又は其の監理の下に在る滿洲全部を擧げて全然清國專屬の行政に還附すること

露西亞帝國政府は清國の主權を侵害し又は機會均等主義と相容れざる何等の領土上利益又は優先的若は專屬的讓與を滿洲に於て有せざることを聲明す

第四條

日本國及露西亞國は清國が滿洲の商工業を發達せしめむか爲列國に共通する一般の措置を執るに方り之を阻礙せざることを互に約す

第五條

露西亞帝國政府は清國政府の承諾を以て旅順口、大連及其の附近の領土及領水の租借權及該租借權

に關聯し又は其の一部を組成する一切の權利、特權及讓與を日本帝國政府に移轉讓渡す露西亞帝國政府は又前記租借權か其の効力を及ぼす地域に於ける一切の公共營造物及財産を日本帝國政府に移轉讓渡す

兩締約國は前記規定に係る清國政府の承諾を得べきことを互に約す

日本帝國政府に於ては前記地域に於ける露西亞國臣民の財産權か完全に尊重せらるべきことを約す

第六條

露西亞帝國政府は長春(寬城子)旅順口間の鐵道及其の一切の支線並同地方に於て之に附屬する一切の權利、特權及同地方に於て該鐵道に屬し又は其の利益の爲に經營せらるる一切の炭坑を補償を受くることなく且清國政府の承諾を以て日本帝國政府に移轉讓渡すべきことを約す
兩締約國は前記規定に係る清國政府の承諾を得べきことを互に約す

第七條

日本國及露西亞國は滿洲に於ける各自の鐵道を全く商工業の目的に限り經營し決して軍略の目的を以て之を經營せらるることを約す

該制限は遼東半島租借權か其の効力を及ぼす地域に於ける鐵道に適用せらるるものと知るべし

第八條

日本帝國政府及露西亞帝國政府は交通及運送を増進し且之を便易ならしむるの目的を以て滿洲に於ける其の接續鐵道業務を規定せむか爲成るべく速に別約を締結すべし

第九條

露西亞帝國政府は薩哈連島南部及其の附近に於ける一切の島嶼並該地方に於ける一切の公共營造物及財産を完全なる主權と共に永遠日本帝國政府に讓與す其の讓與地域の北方境界は北緯五十度と定む該地域の正確なる經界線は本條約に附屬する追加約第二款の規定に従ひ之を決定すべし
日本國及露西亞國は薩哈連島又は其の附近の島嶼に於ける各自の領地内は儘舊其の他之に類する軍事上工作物を築造せらるることに互に同意す又兩國は各宗谷海峽及韃靼海峽の自由を防礙するべきものへき何等の軍事上措置せ執らるることを約す

第十條

日本國に讓與せられたる地域の住民たる露西亞國臣民に付ては其の不動産を賣却して本國に退去するの自由を留保す但し該露西亞國臣民に於て讓與地域に在留せんと欲するときは日本國の法律及管轄權に服従することを條件として完全に其の職業に従事し且其財産權を行使するに於て支持保護せらるべし日本國は軍事上又は行政上の權能を失ひたる住民に對し前記地域に於ける居住權を撤回し又は之を該地域より放逐すべき充分の自由を有す但し日本國は前記住民の財産權か完全に尊重せら

るべきことを約す

第十一條

露西亞國は日本海、「オニョーツク」海及「ペーリング」海に瀕する露西亞國領地の沿岸に於ける漁業權を日本國民に許與せむが爲日本國と協定をなすべきことを約す

前項の約束は前記方面に於て既に露西亞國又は外國の臣民に屬する所の權利に影響を及ぼさざることに雙方同意す

第十二條

日露通商航海條約は戦争の爲廢止せられたるを以て日本帝國政府及露西亞帝國政府は現下の戦争以前に効力を有したる條約を基礎として新に通商航海條約を締結するに至るまでの間兩國通商關係の基礎として相互に最惠國の地位に於ける待遇を與ふるの方法を採用すべきことを約す而して輸入税及輸出税、税關手續、通過税及噸税並一方の代辦者、臣民及船舶に對する他の一方の領土に於ける入國の許可待遇何れも前記の方法に依る

第十三條

本條約實施の後成るべく速に一切の俘虜は互に之を還附すへし日本帝國政府及露西亞國政府は各俘虜を引受へべき一名の特別委員を任命すへし一方の政府の收容に係る一切の俘虜は他の一方の政府

の特別委員又は正當に其の委員を受けたる代表者に引渡し同委員又は其の代表者に於て之を受領すへし而して其の引渡及受領は引渡國より豫め受領國の特別委員に通知便宜の人員及引渡國に於ける便宜の出入地に於て之を行ふへし

日本國政府及露西亞國政府は捕虜引渡完了の後成るべく速に捕虜の捕獲又は投降の日より死亡又は引渡の時に至るまで之が保護給養の爲に各負擔したる直接費用の計算書を互に提出すへし同計算書交換の後露西亞國は成るべく速に日本國が前記の用途に支出したる實際の金額と露西亞國が同様に支出したる實際の金額との差額を日本國に拂戻すべきことを約す

第十四條

本條約は日本國皇帝陛下及全露西亞皇帝陛下に於て批准せらるへし該批准は成るべく速に且如何なる場合に於ても本條約調印の日より五十日以内に東京駐劄佛蘭西國公使及聖彼得堡駐劄亞米利加合衆國大使を経て日本帝國政府及露西亞帝國政府に各之を通告すへし而して其の終の通告の日より本條約は全部を通して完全の効力を生ずへし正式の批准交換は成るべく速に華盛頓に於て之を行ふへし

第十五條

本條約は英吉利文及佛蘭西文を以て各二種を作り之に調印すへし其の各本文は全然符合すと雖も其の解釋に差異ある場合には佛蘭西文に據るへし

右證據として兩帝國全權委員は茲に本講和條約に記名關印するものなり

明治三十八年九月五日即一千九百五年八月二十三日(九月五日)ゴボロツニス(ゴニュームフシヤ)州に於て之作る

小村 陸軍大臣(記名)印

高橋 小五郎(記名)印

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

明治三十八年九月五日即一千九百零五年八月二十三日(九月五日)「ボーツマス」に於て

小村壽太郎(記名)

高木小五郎(記名)

セムジ、ツキヲ(記名)

コーゼン(記名)

第二節 講和條約の批准

(一) 批准

天佑を保有し萬世一系の帝祚を踐みたる日本國皇帝(御名)此書を見る有榮に宣示す

朕明治三十八年九月五日亞米利加合衆國「ボーツマス」「ニュー・ハムプシヤ」州に於て帝國全權委員及露國全權委員記名關印したる講和條約の各條目を親しく閱覽點檢したるに善く朕の意に適し關照する所なきを以て右條約を嘉納批准す

神武天皇即位紀元二千五百六十五年明治三十八年十月十四日東京宮城に於て親ら名を署し璽を鈐せしむ

御一名 御璽

外務大臣 伯爵 桂 太郞

外務省告示第五號

明治三十八年九月五日日露國全權委員の記名關印したる講和條約第十四條に依り帝國政府は本月十五日露國駐劄亞米利加合衆國臨時代理公使を経て同條約御批准の旨を露西亞國政府に通告し露西亞國政府も亦同日東京駐劄佛蘭西國公使を経て露西亞國皇帝陛下に於て同條約を批准せられたる旨を帝國政府に通告したり

明治三十八年十月十六日

外務大臣 伯爵 桂 太郞

第三節 講和の詔勅

朕東洋ノ治平ヲ維持シ帝國ノ安全ヲ保障スルヲ以テ國交ノ要義ト爲シ夙夜懈ラス以テ皇猷ヲ光顯スル所以ヲ念フ不幸客歲露國ト覺悟ヲ啓クニ至ル亦寔ニ國家自衛ノ必要已ムヲ得サルニ出テタリ開戦以來朕カ陸海ノ將士ハ内籌畫防備ニ勤メ外進攻出戦ニ勞シ萬艱ヲ冒シテ殊功ヲ奏ス在廷ノ有司帝國議會ト亦善ク其ノ職ヲ盡シテ以テ朕カ事ヲ獎メ軍國ノ經營内外ノ施設其ノ緩急ヲ愆ラス億兆克ク儉ニ克ク勤メ以テ國費ノ負荷ニ任シ以テ費用ノ供給ヲ豊ニシ舉國一致大業ヲ贊襄シテ帝國ノ威武ト光榮トヲ四表ニ發揚シタリ是固ヨリ我カ皇祖皇宗ノ威靈ニ頼ルト雖抑亦文武臣僚ノ職務ニ忠ニ億兆民庶ノ奉公ニ勇ナルノ致ス所ナラスムハアラス交戦二十閱月帝國ノ進歩既ニ固ク帝國ノ國利既ニ伸ブ朕ノ恒ニ平和ノ治ニ汲々タル豈徒ニ武ヲ窮メ生民ヲシテ永ク餘燼ニ困マシムルヲ欲セシヤ

朕爾ニ米國大統領ノ忠言ヲ容レ乃チ卿等ニ授クガニ全權ヲ以テシ命シテ米國ニ越キ深國他臣ト會同シ和議訂結ノ任ニ膺ラシメタリ卿等慎重事ニ從ヒ善ク大局ニ顧ミ其ノ安定セル所朕カ官ニ副テ用テ克ク帝國ノ位地ヲ確保シ交戦ノ目的ヲ貫徹スルニ足レリ朕切ニ朕ノ勞勩ヲ念ヒ深く之ヲ嘉賞ス

第四章 海軍の凱旋

東郷大將の參内、海軍經過報告

十月二十二日東郷聯合艦隊司令官は參内の上御前に於て左の如く海軍の經過を報告せり右に對し置に左の勅語を賜はりたり
寺内陸軍大臣は東郷大將の偉勳に對し陸軍禮式第三條に依り當日は特別勲位として旅團長の指揮する歩兵三大隊（一大隊は六百乃至八百）中隊長の指揮する騎兵一小隊、砲兵一中隊を附する事とし之れを東京海軍演習場へ向テ同艦隊は直ちに命令を遵守近衛、岡第一師團長に懸したり

奉告

客歲二月上旬聯合艦隊が大命を奉して征出したる以來茲に一年有半其間海陸の交戦皇軍勝利を獲るることなく今日復たひ平和の秋に遇ひ臣等犬馬の勞を了へて大霧の下に凱旋するを得たり是れ一つに大元帥陛下御威徳の然らしむるものにして臣等の終始感激措く能はざる所なり
初め聯合艦隊の海上に第一期作戦を開始するや臣は大命に基き海陸の形勢と陸戦の方向を考察し敵艦隊の主力を旅順方面に拘束し之をして浦鹽を要地に據らしめざるを以て戰略の主旨とし先づ旅順仁川に敵を迅捷し更に敵次の攻撃を重ね以て漸次に其勢力を減殺し又屢々冒險なる敵港の閉塞及び

敵船の水雷沈没等を試み以て敵の出動範圍を縮小するに力の尚麾下艦隊の一部を常に朝鮮海峡に駐めて海上の要害を扼し以て浦鹽の敵を監視すると同時に旅順の敵に對する第二戰線たらしめたり此作戦の前期中敵は終始地利に據りて退嬰を事とし我軍連續の攻撃も容易に其成果を收むる能はざりしか八月中旬敵艦隊主力の旅順より浦鹽に逃れんとするに及びて黄海及蔚山沖の海戦を見るに至り期せずして全く敵の戰略的企圖を摧破し我作戦目的の過半を達成するを得たり
其後陸戰漸く歩武を進め旅順の背面に對する我攻圍軍不撓の追撃は海上に於ける耐久の封鎖と相須て遂に敵艦隊の主力要塞の下に殲滅するに到れり惟ふに此期の作戦は戰勢の自然に伴ひて漸進微功を積み攻戰約十ヶ月に亘り我將卒の心力を傾注し智勇を發授したること本戰役中に冠絶し忠死の士殉難の艦亦少からざりしと雖戰局の大勢は茲に初て定り爾後日本海に於ける決勝の機運も此間に萌芽したるを覺ふ

今年改まると共に第二期の作戦に移り我艦隊は更に兵力を整頓して敵の第二艦隊に備へ傍ら露國沿海州を包鎖して敵國軍資の輸入を遮断し時に支隊を南洋に分遣して敵の航通を威嚇するに努め其間對馬津輕宗谷國後等の諸水道附近に於て捕獲したる船舶三十餘隻を算す初夏五月に入り敵の第二艦隊近海に出現するに及びて豫め我全力を朝鮮海峡に集中し逸を以て勢に乗するの策を取りしか我將卒の勇敢なる動作は神明の加護に由り著々其効を奏し日本海々戰の一舉敵影を海上より掃蕩し以

工此期の作戦を終結するを得たり

爾來海洋は名實共に我艦隊の制壓に歸し作戦第三期に入りしも負擔の任務は大に輕減し或は陸軍と
與に樺太の攻略に従事し殆んど一兵を損せずして協同の任務を果し或は時々北緯方面に動作して敵
を脅威し且つ依然の包圍を續行して休戦復和の終局に至る迄確實に之を維持せり
之を要するに聯合艦隊の作戦は其第一期に於て戰勢を定め第二期に移りて戰勝を決し第三期に入り
て戰果を收めんとしたるものにして其間緩急難易の差異ありしと雖も全局に亘る一貫の攻勢は其の
始めより順當に經過し終に今日あるを見るに到れり今や凱旋して東京灣に集合せる帝國艦船大小百
七十餘隻、固より戰役に亡失したるものありと雖も更に戰利として獲得したるものを加へ尙ほ能く
戰前に劣らざる武力を保有するを得たるは臣等の誠に光榮とする所なり終に臨み臣は聯合艦隊は滿
韓に於ける陸戰の效果に依り其餘利を蒙りたること少からず又海軍大小諸機關の整備活動其他諸官
衛の支助協力に依り海上の作戦遺憾無く進捗したることを感喜す茲に謹んで海上作戦の經過を奉告
し大命に對する責務の終了を奉聞す

明治三十八年十月二十二日

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

優詔を賜ふ

者に對し直に左の勅語を賜りたり

卿カ統督スル聯合艦隊ノ能ク萬難ヲ排シテ空前ノ偉功ヲ奏シタルハ中外ノ齊シク瞻望スル所ナリ
今卿ヨリ親シク其戰況ヲ聽キ將卒ノ忠烈ヲ懷フコト更ニ深シク卿等其レ自重セヨ

第五章 觀艦式

觀艦式次第

天皇陛下は二十三日横濱沖に於て觀艦式御舉行のため同日午前八時十分御出門同港へ行幸あらせら
るへき旨二十一日を以て仰出されたり市内及横濱御道筋並に御發着割左の如し

市内御道筋 正門より櫻田門を出て外務省前左へ内幸町通右へ幸橋を渡り左へ二葉町通新橋停車場
横濱御道筋 横濱停車場より辨天橋を渡り本町郵便局角左へ縣廳前右へ左へ横濱税關監視部

御發着割 十月二十三日午前八時十分御出門同八時四十分新橋停車場御發車同九時二十分横濱停車
場御著車横濱税關監視部に於て御休憩同所西波止場より御乘艇御召艦淺間に御乘横濱沖に於て觀
艦式御舉行午後三時四十五分横濱停車場御發車同四時二十五分新橋停車場御著車(還幸)

聯合艦隊凱旋に付き觀艦式行幸御次第左の通定めらる

聯合艦隊凱旋に付觀艦式行幸御次第書

一 十月二十三日午前八時十分御出門午前八時四十分新橋停車場御發車午前九時三十五分横濱西渡

長は各海艇にて供奉す特務艦隊司令官海艇にて御先導をなす

七 御召艦に 乗御のとき同艦は敬禮式第六十條供奉艦は同式第六十二條の敬禮を行ふ

八 御召艦へ乗御の後同艦に在る大勲位、大臣、親任官、聯合艦隊司令長官、同幕僚、鎮守府司令長官、要港部司令官、大本營職員たる高等官、御召艦艦長、神奈川縣知事及本邦駐劄外國公使館附海軍武官に賜を賜ふ

九 御親閲中陪觀者は供奉艦に在て陪觀す

十 午前十時 御召艦及供奉艦錨拔式場に進む此時參列諸艦艇乗員は敬禮式第六十二條の敬禮を行ふべき位置に就き其諸艦皇禮砲を行ふ

十一 御召艦の航路は別圖に示す如く豫定す而して御列の序次左の如し

八重山、御召艦、龍田、千早、滿洲丸

十二 御親閲の間聯合艦隊司令長官は 玉座の側に在て參列艦艇長以上の指揮官の官氏名を奏上す

十三 參列諸艦艇は 御召艦其附近を通過の際逐次に敬禮式第六十二條の敬禮を行ふ

十四 御親閲終て 御召艦は第一列の西方延長線上豫定位置に投錨す

此時參列諸艦艇一齊に「奉賀」三回を唱ふ次て供奉艦 御召艦の錨地附近なる豫定位置に投錨す

十五 御召艦に左の諸員を召され 勅語を賜ふ

一 司令長官、司令官、幕僚、司令、艦長、艦長

二 海軍將官、同相當官

十六 午後二時三十分 御召艦及供奉艦錨拔式港内に入る參列諸艦艇乗員は一齊に敬禮式第六十二條の敬禮を行ふ

十七 午後三時二十分 御乘艇御上陸せらるる時御召艦に陪乘する者御先導を導す者供奉する者共に前に同じ

十八 御乘艇の際 御召艦は敬禮式第六十一條其他諸艦艇は同式第六十二條の敬禮を行ひ且つ諸艦艇總て 御召艦に倣ひ皇禮砲を行ふ

十九 横濱停車場 御發車の節奉送諸員は奉迎のときと同じ

二十 當日夜横濱沖に在泊の艦艇は電燈艦飾を行ふ其裝備なき艦艇は之を行ふに及ばず

二十一 當日海軍儀仗隊を供ふるは左の如し

位置 隊の所屬

横濱停車場 第一大隊 横須賀鎮守府

横濱西波止場 第一大隊 聯合艦隊

二十二 服裝、海軍武官は軍服帶勳長剣とし之官は高帽通常服とす

二十三 右各項の外細目は軍令部長便宜之を處理す (別圖略す)

在横濱艦隊司令官各幕僚並各艦長は、御召艦に於て謁見仰付けらる但し其時機は軍令部長旨を伺之を定む

勅語

御召艦の投錨せしは恰も正午十二時にして各艦一同に「奉賀」を三唱したる後各司令官各艦艇長等は、何れも小蒸氣艇にて御召艦に伺候し此に於て、陛下は諸員を召され左の勅語を賜はりたり

朕親シク凱旋ノ海軍ヲ關シ其軍容整齊士氣大ニ振アラ觀太タ之ヲ憐テ汝等倍々奮勵シテ帝國海軍ノ名聲ヲ發揚セヨ

右に對し東郷大將は謹嚴莊重なる語調を以て左の如く奉答せり、陛下の御意を仰承し、臣等光榮至大に、一隨て奉答す、陛下親しく觀艦式を舉行あらせられ加ふるに、優渥なる勅語を賜はる臣等光榮至大にして誠に感激に堪へず益々奮勵以て、聖旨に副ひ奉らん事を期す臣等八郎聯合艦隊を代表して、誠恐惶謹んで奉答す

明治三十八年十月二十三日 聯合艦隊司令長官 東郷平八郎 第六十二號

第六章 伊勢行幸

大廟鎮座以來歴世の天皇にして親しく御參拜ありたることは曾て之なき者の如し、然るに陛下は從來既に三次の御參拜あり、今回は實に第四次の御參拜にてたはせり

今茲十一月十四日午前十時十分宮城御出門、鹵簿は第二公式にして先驅は警備二騎、次に警備三騎、次に儀仗騎兵、次に田中宮内大臣其他宮内官の馬車、次に下士天皇旗を捧持し、次に儀仗騎兵、次に近衛將校三騎、次に根村車馬監騎馬にして先導し奉り、次に風笠、徳大寺内大臣陪乘し奉り、次は侍從並に侍從武官騎馬又は馬車にて供奉し、次に岡澤侍從武官長、柱總理大臣、岡侍醫局長等は各馬車にて供奉す、其次に儀仗騎兵、次に騎馬警備部、次に近衛騎兵二小隊後衛たり、斯くて御順路を進ませられ十時二十五分新橋停車場に着御なりたるか、風笠の過ぐる所各軍隊は「君が代」を吹奏し、並に捧銃の禮を行ひ、各學校の職員生徒は新たに文部省の定めたる敬禮を行ひ、生徒は一齊に「君が代」を唱へ、拜觀の群衆は萬歳を唱へて光景真に烈々洋々たり、やかて停車場に着御あれば、先着諸員奉迎し、鐵道作業局長官先導し奉りて「プラットフォーム」に進ませ給ふ

文武百官の奉送を受けさせられて直ちに御料の車中に入らせられしか、此處には徳大寺侍從長、田中宮内大臣陪乘し奉り、陛下此日の御服装は大元帥の御略服に、菊花大綬章並に各種の勳章を佩ひさせられ、十時四十分といふに玉顏麗はしく御發車あらせ給へり、猶此度行幸の供奉仰せ付けられたる人々は左の如し

伏見大將宮眞愛親王殿下、總理大臣村方印、侍從員内大臣徳大寺實則、宮内大臣田中光弘、内務大臣清浦奎吉、侍從武官長岡澤精、侍從武官長岡玄卿、宮内大臣秘書官長崎實吉、侍從米田虎雄、侍從北條氏勝、侍從武官大坂源三郎、侍從森永友健、内蔵家主事坂本俊健、侍從武官武藤源平、侍從武官鷹司源通、典典宮地殿夫、主馬助菊池末太郎、侍從武官白井二郎、騎刺師長山田善、宮内書記官栗原廣太、侍從日野四郎、車馬監候村宮守、侍從綾小路有真、次侍從澤澤宣元、次侍從池光寺仲政、内大臣秘書官野時光敏、侍從補給木金之助、禮部長久米井隆吉

又参列員として左の人々仰付られたり

参謀總長山縣有朋、海軍大臣東郷平八郎、寺内正毅、海軍軍令部長伊東祐子、軍令部長伊集院五郎、参謀次長島岡外史、右の外随行員及出張員は左の如し

内閣書記官南弘、總理大臣秘書官中島久吉、歩兵大臣大島隆之、歩兵中佐堀内文次郎、歩兵少佐齋藤隆三郎

右供奉員の中、眞愛親王殿下は前日御先發あらせられ、清浦内務大臣も亦前夜六時三三の人々を従へて先發したり

因に當日の御料列車は凡て六輛にして、風置の外に一等車三、二等車五、三等車二なり、左の如し

(一) 鐵道作業局員二三等連絡車一結

(二) 轉任官(二等)近衛將校、供奉高等官(一等)の連絡車一輛

(三) 御手許御用物、侍從職、内舍人、侍從職附、大膳職、内大臣屬、侍從局(以上二等)侍從武官長、侍從武官、侍從、内大臣秘書官、侍從、以上一等)の二、二等連絡車一輛

四) 馬

(五) 宮内大臣、同秘書官、宮内書記官、内政主事(以上一等)供奉判任官以下(二等)の二、二等連絡車

(六) 供奉判任官以下、鐵道作業局員(二等)小者、從者(三等)の二、三等の連絡車

斯くて御豫定の如く午後三時四十五分静岡停車場に着御あり、官民の奉迎を受けさせ給ひて御料の御馬車に召させられ、新たに建てたる凱旋門を過させ給ふて御用邸に入らせ給ひぬ、時に三時五十分なり、近々歸國すへき近衛將校が特許を得て奉迎したるは一異彩とや謂はむ、明くれば十五日午前七時五十分御用邸御出門あらせられ停車場に着御、八時御發車あらせられ、名古屋、四日市、津など諸大驛の盛んなる奉迎を受けさせ給ひつゝ、午後四時四十五分山田停車場に着御、直ちに御馬車にて五時二十分行在所に入らせ給ふ、行在所は神宮司廳を以て之に當てたり

兩宮御拜

兩宮の御式典は外宮を先にせらるゝ例なるよし、此回も亦十六日外宮御参拜、十七日内宮御参拜と豫て御治定相成りたるか、御服装は大元帥の御正装なりと承はりぬ、十六日は一天尤も清朗なり、豫て仰せ出されたる如く午前十時三十分行在所御出門、外宮へ向はせ給ふ、陛下は豊受大神正殿御橋の下なる御濱床の御座に着かせられ、御立拜御奉幣ありて、親しく御告文を奏し給ふ、御幣は金一百圓、御太刀一口なりと拜聞す、猶仄に漏れ承はる所に依れば、今回の御告文は、御發聲前陛下の親撰し給ふ所にして御奉告の後には度ひ持ち歸らせ給ふものなれば、

大神と陛下との外は、絶わて窺ひ知り奉る者なしとぞ、いとも畏き極みなりけり
 十七日は内宮御参拜なり、降り頻る雨を冒して典儀を奉り給ふ、亦畏し、此日の鳥居傍に列を
 作り、前夜より参籠せる祭主賀陽宮を始め、冷泉大宮司桑原少宮司二十名許の禰宜等は、早且より
 大御饗を供し奉る、陛下は正殿陛下の御濱床に着御、徳大寺侍従長は瑞垣御門内に、代見宮は瑞垣
 御門内に山縣大將以下の文武官は内玉垣御門外、奏任官は外玉垣御門内に伺候せる事、前日外宮の
 御式に同じ
 陛下御告文を奏し給ひたる後、冷泉大宮司は案上の玉串を堂典に傳へ、堂典之を陛下に奉す、御幣
 御拜、亦外宮に同じ、斯くて御式を終らせられしは午前十一時三十分にして、行在所に還御なりた
 るは午後零時五分なり

鹵簿還御

十八日は還幸の途に就かせ給ふ、午前八時三十分行在所御出門、九時山田驛御發車、御服装は通常
 軍服にて勳章を佩ひさせ給ふ、奉送の次第奉迎の時の如し、斯くて午後五時十五分静岡驛御着、六
 時御用邸に入らせ給ふ

十九日は午前十時二十分、御用邸御出門、静岡停車場より御乗車にて、午後三時四十五分新橋停車
 場に着御あらは、皇太子陛下を始め、各皇族拜妃殿下、國務大臣、文武百僚、府民の名譽職、市民

に至るまで恭しく迎へ奉る、陛下はやがて御馬車に召され、徳大寺侍従長階乗し奉りて、前後に
 仗兵を随へさせられ、洋々たる樂隊と高懸樂隊に、天顏履はじく宮城に還御し給へり

第七章 滿洲軍總司令部の凱旋

凱旋發途

當初の豫定にては、我が滿洲軍總司令部の凱旋期は、早とも本年末、若くは來年早々なるへき計
 なりしも大山總司令官へ優渥なる 詔勅の降りたる結果、俄かに其期日を繰上げ、十一月二十五日
 を以て奉天を出發し、十二月七日を以て目出度帝都へ凱旋せられたり、今回司令部一行が奉天出發
 以來の經過、並に各地歓迎の模様等を道順に依りて叙述する所あらんとすれども筆紙の間其の高分
 の一を悉くす能はざるを如何せん、故に只其の梗概を録するに止まると云ふ、因に記す司令部一
 行の人員は左の如し

滿洲軍總司令官陸軍大將侯爵大山巖、同總參謀長陸軍大將男爵兒玉源太郎、同參謀副官少將井口省吾、同松川敏胤、滿洲軍總司令部
 軍醫總監、有賀博士、片山主計監、尾野中佐、田中中佐、小池中佐、荻原中佐、渡邊少佐、古川少佐、高柳少佐、市ノ瀬少佐、三原少佐、曾
 田少佐、川崎少佐、岡部少佐、飯田書記官、河野軍醫正、今井主計正、村山軍醫正、安藤大尉、小澤大尉、藤崎大尉、田中大尉、川口大尉
 川上天尉、松山大尉、長川教授、坂井主計、三宅中尉、船濶主計、森中尉、鈴木主計、辻井主計、外通四數名

奉天出發、大連到着及解

一行は豫定の如く十一月二十五日午前を以て累月住み馴れたる奉天の司令部を發し、肅々として停車場に入り、直ちに流車に乗して大連に向へり、流車は翌二十六日午後五時三十分を以て大連に着す、此日石塚民政長官は一行を迎へんか爲に金州迄出張し、同車して大連に着し、大山元帥は民政長官々舎に入り、兒玉大將は兒玉通第一號官舎に入り、其他一行夫れ々を宿舍に就く、同地滞在中の近衛歩兵第三聯隊、及び駐屯諸部隊並に官民の歡迎頗る多く街衢は非常の盛觀を呈したり、此夜石塚民政長官の主宰を以て盛宴を滿洲館に催し、一行の爲に祝杯を擧げたり、一行は旅順大戦の迹を品ばんか爲に、二十七日大連を發して旅順に向ひ、二十八日は同地に滞在し、港内各砲臺を巡視し頗る感慨の情に禁へざりしものゝ如し、斯くて一行は三十日午前旅順より再び大連に還り、十二月一日午前十一時三十分豫定通り丹後丸に乗込みて大連を解纜し、凱旋の途に上りたり、大島閣東總督、石塚民政長官を始め、在留官民數千名は盛に一行を本船迄見送り、海陸には煙火を打揚げ音楽を奏し、在泊船は何れも裝飾を施し、祝砲を發し、非常の壯觀を呈したり

總司令部の入京

大山元帥を載せたる丹後丸は二日正午を以て馬関海峡を通過し宇品に上陸し、廣島、岡山、神戸、大阪等より熱誠なる國民の歡迎を受け、七日午前十時四十分を以て目出度新橋に着したり、何たる雨を、滿洲軍總司令部が帝都に凱旋したる十二月七日は前日來の冷雨霽れず、道は泥濘に埋まりて

人馬共に憫むの一日なりき、然れど全市民が一行を歡迎するの熱情は之が爲めに毫も其熱を冷かからしめず、市民は一行到着以前より既に新橋附近に人波打つて實に針の立つ隙も無し、午前十時新橋停車場(波札口)の開かるゝと共に、プラットフォームに入るを許されし各階級の歡迎員は彼の長さ數臺も餘地なき迄に雪蔭込めり、豫め規定されし位置に立つて迎へんとする者は東宮御使尾藤東宮武官を始めとして、各宮御使、各大臣、陸海の諸將、各國大公使館附武官、兩院議員、府市名譽職員以下、中間僅に尺餘の通路を除きて、プラットフォームは全然人を以て滿されたり

凱旋奉告

一行の爲には特に宮内省より馬車を差廻はされて、總員四十四名悉く馬車若くは人車にて雨を衝いて參内すべく停車場を出てたり、馬車の順序は次の如かりき

- 大山元帥 尾藤中佐 ▲兒玉大將 渡邊少佐 ▲井口少將 吉川少佐 ▲松川少將 高柳少佐 ▲田中中將 市村少佐 ▲安藤大尉 ▲小池中佐
- 曾田少佐 小澤大尉 ▲三原少佐 田崎少佐 藤村大尉 田中大尉 ▲小池中佐 河野中佐 ▲片山主計監 今井主計正 ▲藤原中佐 岡部少佐 川口大尉 川上大尉 (以上馬車) 村山軍醫正 ▲松山憲兵大尉 ▲藤澤主計 ▲鈴木主計 ▲坂井主計 ▲三宅中尉 ▲森中尉 ▲辻井主計 ▲有賀博士 ▲飯田軍醫官 ▲長川教授 ▲遠藤事務官 ▲末吉通譯 ▲水谷履員 ▲一通譯 ▲市川通譯 ▲軍地通譯 (以上人力車)

宮中にては、皇太子には午前十時二十分に御參内あり、伏見、有栖川、閑院、其他の各宮殿下にも前後御參内あつて御待受あり、十一時一行の御車寄に着するや、伊藤侍從武官先導となつて導き、山縣元帥、桂總理、山本海軍、寺内陸軍、伊東軍令部長、伊集院、長岡兩次長、村田、宇佐川兩少將、外松

村上兩主計總監、小池軍醫總監、其他大本營幕僚等順次參内、大元帥陛下には岡澤武官長以下を隨へさせられて出御、大山總司令官は恭しく御前に進みて戦闘経過を計畫につきて奏上し、陛下より種々御下問あつて次で左の勅語を賜はりたり

卿昨年以來滿洲軍ヲ指揮シ大小數十回ノ交戦悉ク偉功ヲ奏シ以テ出陣ノ目的ヲ達シ洵ニ朕カ望ニ副ヘリ朕今親シク作戰全局ノ情况ヲ聽キ更ニ卿ノ勳績ト將卒ノ忠勇トヲ嘉尚ス

一行は榮譽の極に達して恭しく勅語を拜し陛下には龍顏展じく午後零時三十分入御、各宮にも御退席あつて後ら、一行並に大本營幕僚には別殿にて酒饌を賜はりたり、此席上山縣元帥の發辭にて皇陛下の萬歳を三唱し、又た同元帥は左の頌詞を呈せり

本日は大山總司令官閣下以下、司令部職員諸君の名譽ある凱旋を迎へ且其崇重すへき戦況奉告の席に參列し今又茲に恩賜の酒饌を共にし別來内外経過の情况を獻酬談笑の間に交換するは吾人の最も光榮とする所なり

余は大山閣下以下の姿容を見其偉大なる功業を思ひ洵に感激に堪へず慶に陛下に奏請し茲に一言頌辭を述ぶるの尤可を得たり

昨年七月總司令部出征後余之を戰時參謀總長の要職に受てより以來、年有半、陛下の帷幄に參畫し幸ひに大過なきを得たるは偏に大元帥陛下の聖訓允武なる御指導と總司令部并に總參謀長以下の協同奮闘深甚善戰の力に歸るものにして余の深く感佩する所なり

戰役當初我隊軍は第一軍をして敵を鴨綠江畔に敗らしめ此機に乗し第二軍を遼東半島に揚げ敵の左防右顧するに當り第四軍を其中間大活山に上せ第二軍の敵を南山に擊て之を南方に驅逐するや直に第三軍を進め之に代りて旅順方面に對せしめ第二軍をして急轉して第一、第四軍と呼應北進せしめ茲に攻守の大勢を定めたり此間大山元帥閣下には陛下の幕僚長として此機敏なる運用に參畫し而して三軍齊しく北進の途に上り之を糾合して策應協同其目的に向はしめしか滿洲軍總司令部を置かるゝに方り總司令官の重職を奉し計畫指揮其宜しきを得遼陽に沙河に奉天に戰史以來未曾有の大戦を交へ戦線其長きは數十里に及び提兵數十萬毎回激戰數旬に亘り炎熱を冒し邪寒を

凄き克く困苦缺乏に堪へ常に優勢の敵を擊破し前古未聞の偉績を收めしめたり是實に總司令官其人を特顯明允式なる陛下の神算は實行其節に當り忠勇無比の將卒は上下協同益其能力を發揮したる結果にして此統帥たる總司令官の勳業は長へに汗背を照して決して磨滅せざるべし余は茲に杯を舉げて其空前の常勝軍たる大山閣下の成功を祝し其健康を祈らんとす

次に余は尙此常勝軍たる大山總司令官の幕僚長として此大業を參畫輔佐して遺算なからしめたる見玉大將の健康を祝す

頌詞了つて更に大山、見玉大將の萬歳を祝し一行退陣せり

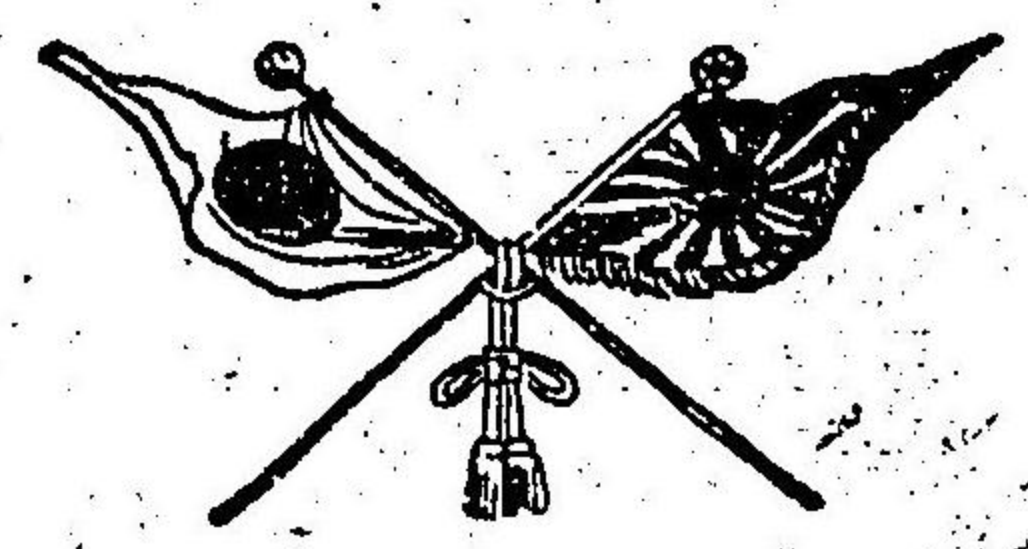
船中 兩陛下より大山元帥に左の御返を賜はり元帥陛下は御返を仰せらるるも特に拜謁を仰付られ候
還に御禮を拜したる也

天皇陛下より御返を賜はり大山元帥に左の御返を賜はり元帥陛下は御返を仰せらるるも特に拜謁を仰付られ候
還に御禮を拜したる也
一 金製巻煙草入 一個
一 御目録 一冊
一 高貴御物 一個
一 御目録 一冊

宮中退出後

午後一時宮中を退出したる一行は直に轎を連ねて參謀本部に赴けり、樓上の大食堂にて祝宴を舉げ
らるゝ身にして、特に閑院宮、北白川宮兩殿下にも御臨場あり、大本營幕僚と凱旋したる總司令部
と是に一堂に會して祝杯を舉げしなり、寺内山本兩相交々起つて大山元帥の健康を祝し、和氣洋々
として祝宴をす、午後二時三十分頃漸く散會して、斯くて一行は更らに東宮御所に伺候し、兩殿
下に拜謁して、一應御禮を言上したる後初めて各自の邸宅に入れり

日露大戰史



軍國彰勳錄

東京府豊多摩郡千駄ヶ谷
滿洲軍總司令官
元帥大勳位功一級公爵
大山 巖

陸軍大將
元帥大勳位功一級公爵
東京市赤坂區新町
山縣 有朋

故陸軍大將元帥
功一級侯爵
東京市赤坂區青山南町
野津 道貫

陸軍大將
功一級伯爵
東京市小石川區水道町
黑木 為楨

陸軍大將功一級
參謀總長伯爵
奧 保鞏

故陸軍大將功一級
前參謀總長子爵
兒玉源太郎

陸軍大將
功一級伯爵
東京市赤坂區新坂町
乃木 希典

故侍從武官長
陸軍大將子爵
岡 澤 精

韓國駐屯軍總司令官
陸軍大將功一級子爵
長谷川 好道

滿洲駐屯軍總司令官
陸軍大將功一級子爵
西 寬次郎

鴨綠江上陸軍司令官
陸軍大將功一級子爵
川村 景明

陸軍大將
勳一等功二級子爵
小川 又次

陸軍中將
功一級子爵
東京牛込區矢來町
大島 義昌

參謀次長
陸軍中將功二級
東京市麹町區上六番町
福島 安正

聯合艦隊司令官海軍軍令部長
海軍大將大勳位功一級
東京市芝區網町
東郷平八郎

第二艦隊司令官
海軍中將功二等
東京市芝區網町
上村彥之丞

第三艦隊司令官
海軍中將功二等
岩手縣盛岡市市馬町
片岡 七郎

工兵中尉
從七位勳六等
岩手縣築川村
村井 善八

陸軍步兵一等卒
上閉伊郡綾織村
大坪半次郎

步兵上等兵
勳八等
高橋 春松

軍國彰勳錄 (巖手縣、山梨縣、長野縣)

明治三十七八年日露戰役從軍
帝國在郷軍人會盛岡市第二分會長
帝國在郷軍人會築川分會長

明治三十七八年戰役從軍

帝國在郷軍人會福岡町分會長

二戸郡福岡町 步兵少尉正八位 國分 又六
勳六等功五級 山梨縣甲府市

甲府聯隊區司令部副官陸軍步兵大尉勳六等功五級 市 小林金太郎

甲府市軍人分會長 陸軍工兵中尉勳六等功五級 山梨縣南都留郡那谷村町 鈴木 義衰

陸軍二等軍醫 勳六等 高橋 教眞

陸軍步兵特務曹長 勳七等軍人分會長 全縣中巨麻郡明穗村 小野 將立

東京海軍要塞砲兵聯隊第五中隊砲兵曹勳長七等青色桐葉章賜金參百圓 長野縣諏訪郡四賀村 大宮 隆衛

野戰砲兵第一聯隊第一中隊砲兵一等卒勳八等白色桐葉章賜金八拾圓 全郡全村 平林市左衛門

輜重兵第一大隊輜重兵輸卒勳八等白色桐葉章賜金八拾圓 全郡全村 若御子 喜重

步兵第五十八聯隊第七中隊步兵一等卒勳八等瑞寶章賜金七拾圓下賜 全郡全村 若御子 經助

步兵第十五聯隊第九中隊放步兵二等卒勳八等白色柳葉章特別賜金貳百貳拾圓 全郡全村 溝口 安次

明治三十七八年戰役ニ從軍 陸軍步兵中尉從七位勳六等帝國 松尾 傳吉 三年生
河合殿生其會親黑澤會親ニ 軍人會三戸町在郷軍人分會長 松尾 傳吉 三年生
參與黑澤ニ於テ負傷内地後送退院後聯隊區副官補充隊附ニ轉任セララル功ニ依リ四百圓下賜セララル

日露戰役ニ從軍 陸軍步兵曹長 勳七等功七級 全郡全町 淺井 祐三 五年生

日露戰役ニ從軍 陸軍一等看護長勳七等 恩給年額金九拾圓 全郡全町 松尾 喜三郎 明治六年生

日露戰役ニ從軍 陸軍步兵曹長 勳七等 全郡全町 渡部 爲治 明治十一年生

明治三十七年六月十二日充員應召步兵第三十一聯隊ハ入隊十月四日大坂港出 陸軍步兵曹長勳七等 全郡全町 櫻井 榮太郎 明治九年生

帆船軍三十八年一月二十六日黒溝臺戰闘ニ參加三月五日奉天戰闘ニ於テ負傷廿四日大坂歸着大坂豫備病院ハ入院六月十一日歩兵第三十一聯隊補充大隊ハ復隊十月廿三日召集解除タ隊 全郡全町

日露戰役ニ從軍 陸軍步兵軍曹勳七等功七級恩給金 年額金八拾五圓赤十字正社員 全郡全町 梅館 榮太郎 明治五年生

日露兩戰役ニ從軍 陸軍憲兵軍曹 勳七等 全郡全町 山崎 命助 明治六年生

明治三十七年二月十一日充員召集ニ應シ後備 元陸軍歩兵伍長勳七等青色桐葉章賜金 三百圓免除恩給增加恩給年額金百圓 全郡全町 泉山 恒松 明治六年生

軍國彰勳錄 (三月那三月町)

中隊ニ編入八月廿六日野戰歩兵第三十一聯隊第三中隊ニ轉出九月三日補充トシテ弘前出發大坂ニ集
 近ノ戰國ニ參與敵ノ猛射ヲ習シ先シテ戰線ヲ奔走シ敵艦ヲ寒カラシメ大ニ武功ヲ奏ス引續キ全二
 十六日再ヒ敵ノ逆襲頭ル優勢ニシテ我ノ損害多大ナリ將校以下悉ク死傷ス悲憤其極ニ達スト雖氏ハ
 益々奮勵躍テ敵ニ肉迫衆ノ好摸範ト仰カレシモ優勢ナル敵彈ニ依リ重傷ヲ蒙リ其座ニ斃ル然シテ軍
 人ノ本分タリト云ツ、天皇陛下萬歳ヲ三唱シ全日午後三時三十分鬼籍ニ登リタルハ横山一家ノ名譽
 ト云フヘシ

明治三十七年八月清戰 陸軍歩兵一等卒勳八等瑞寶章賜金 誡訪 榮吉 明治六年生
 轉戰ニ際シ臺灣島各地ニ 八十圓恩給 年額金五十圓赤十字社員 明治三十七年二月十一日充員應召後備歩兵第
 三十一聯隊第三中隊ニ編入十二月廿八日中隊後備歩兵第五十六聯隊第十一中隊ニ轉入三月十八日二月十一日弘
 前出發廣島ニ集四月中隊ニ編入八月廿八日中隊後備歩兵第五十六聯隊第十一中隊ニ轉入三月十八日二月十一日弘
 戰國ヲ始メ富寧昌斗嶺各附近ノ戰國ニ參與九月八日大燕巢着滞在十月二十三日清津港乘船宇品港ヲ
 經テ十一月三日弘前ヘ凱旋ス

明治三十七年六月十一日 故陸軍歩兵一等卒勳八等白色桐葉章 豐川 清一 明治五年生
 充員召集ニ應シ歩兵第三十一聯隊第四中隊ニ編入十月二十九日野戰歩兵一等卒勳八等白色桐葉章 豐川 清一 明治五年生
 十一聯隊補充大隊第四中隊ニ編入十月二十九日野戰歩兵一等卒勳八等白色桐葉章 豐川 清一 明治五年生
 シテ弘前出發十一月一日宇品港出發十月二十九日野戰歩兵一等卒勳八等白色桐葉章 豐川 清一 明治五年生
 氏ハ性質活潑ニシテ出征以來別テ奮闘三十八年一月二十五日ヨリ黑溝臺附近ノ戰國ニ際シ先勇躍
 烈火ノ動作ヲ以テ敵壘ニ肉迫衆ノ好摸範ト仰カレシモ二十日ノ激戰中優勢ナル敵ノ彈丸ニ依テ天
 晴名譽ノ戰死ヲトケラル

明治三十七年九月二十六日臨時教育 陸軍歩兵一等卒勳八等 澤 留 明治六年生
 召集トシテ歩兵第三十一聯隊補充大隊第五中隊ニ編入九月十七日聯隊第三中隊ニ編入二十日補充召集ニ移サル二十六日弘
 前出發廿七日青森着八月二十八日全地發九月一日廣島着四日宇品港出發十五日大連上陸十六日韓國駐劄
 盛京省大紅旗着宿營全日第二軍ニ編入十月五日守備トシテ大紅旗出發廿七日宇品上陸四日弘前ヘ凱旋
 軍ニ編入全地守備三十九年一月十八日撤廠出發二十二日鎮南浦出帆廿七日宇品上陸四日弘前ヘ凱旋
 歩兵第三十一聯隊ニ假編入八日召集解除

明治三十八年五月十日臨時教育召集ト 陸軍歩兵一等卒勳八等 境澤 榮作 明治五年生
 ソテ歩兵第三十一聯隊補充大隊第五中隊ニ編入九月十七日聯隊第三中隊ニ編入二十日補充召集ニ移サル二十六日弘
 前出發廿七日青森着八月二十八日全地發九月一日廣島着四日宇品港出發十五日大連上陸十六日韓國駐劄
 盛京省大紅旗着宿營全日第二軍ニ編入十月五日守備トシテ大紅旗出發廿七日宇品上陸四日弘前ヘ凱旋
 軍ニ編入全地守備三十九年一月十八日撤廠出發二十二日鎮南浦出帆廿七日宇品上陸四日弘前ヘ凱旋
 歩兵第三十一聯隊ニ假編入八日召集解除

明治三十七年八月日露戰役從軍 陸軍三等軍醫正八位勳 上田 武次郎 全郡全村
 六等在郷軍人分會長 全郡全村

明治三十七年六月七日動員下令十月一 歩兵特務曹長 坂本 勝之丞 明治二年生
 日大坂出帆十一日清國柳樹屯上陸十四日 勳七等 坂本 勝之丞 明治二年生
 日遼陽着全地掩護ノ爲メ花園庄警備十七日煙臺ヲ經テ荒地ニ前進前哨全夜更ニ龍王廟ニ急進滿洲軍
 總豫備司令部附三十八年一月二十五日北五里街ニ駐軍廿六日大吹臺子ニ轉營十二月八日任歩兵曹長全日第
 八師團司令部附三十八年一月二十五日北五里街ニ駐軍廿六日大吹臺子ニ轉營十二月八日任歩兵曹長全日第
 臺附近ノ戰國ニ參加ス二月廿八日ヨリ三月十一日マテ奉天附近ノ大會戰ニ參加二十四日任歩兵特務
 曹長補充兵第五聯隊附五月二十一日ヨリ三月十一日マテ奉天附近ノ大會戰ニ參加二十四日任歩兵特務
 メ依田支隊ニ加ハリ盛京省柘山子附近ニ行動ス 全郡全村

明治三十七年六月廿二日充員ノ爲メ歩兵 小坂 淺吉 明治二年生
 第三十一聯隊第八中隊ニ編入九月四日 白色桐葉章勳七級 小坂 淺吉 明治二年生
 出征ノ爲メ弘前發大坂ヲ經テ十月十日柳樹屯上陸十七日ヨリ廿六日マテ南五里街附近ニアリテ滿洲
 軍總豫備隊第二十七日ヨリ三十八年一月二十五日マテ史家荒地附近ニアリテ滿洲軍總豫備隊一月二十
 六日ヨリ二十九日ニ至ル黑溝臺附近ノ大會戰ニ參與夫レヨリ五臺子ニアリテ前哨勤務二十八日ヨリ三
 月十日マテ奉天附近ノ大會戰ニ參與ス尋テ五月七日マテ前哨丁香屯附近ニアリテ滿洲軍總豫備隊八月
 ヨリ十月十六日マテ必家窩棚及ヒ小江家屯附近ニアリテ第二軍總豫備隊全日平和克復訓練

明治三十七年六月十二日充員ノ爲メ歩兵 木村 彌平治 明治四年生
 兵第三十一聯隊ヘ召集第一中隊ニ編入九 白色桐葉章勳金百圓 木村 彌平治 明治四年生

軍國影勳錄

(三戸郡戸來村)

月三日出征ノ爲メ弘前出發大坂ヲ經テ十月八日清國柳樹屯上陸十六日ヨリ十八日マテ河公堡守備ニ
十六日マテ南五里街附近ニアリ滿洲軍總隊ニ對シテ三十八年一月二十六日ヨリ二十九日ニ
巨ル黒溝臺附近ノ戰闘ニ參與ス二月二十八日ヨリ三月十日ニ至ル奉天附近ノ會戰ニ參加奮戰追擊中
廿五日魚鱗堡ニ於テ負傷第五師團野戰病院へ入院十五日大連出帆二十日大坂着夫レヨリ漸次飯郷

明治三十七年六月十二日充員ノ爲メ歩 故歩兵上等兵
兵第三十一聯隊へ召集第一中隊へ編入 勳八等功七級
九月四日出征ノ爲メ弘前屯營出發大坂ヲ經テ十月十日柳樹屯ニ
上陸南五里街附近ニ在リテ滿洲軍總隊備隊トナリ其他廿八日ニ巨ル黒溝臺附近ノ大戦ニ參與ス大ニ
奮激突進中二十七日敵彈ノ爲メ天晴名譽ノ戰死セリ

明治三十八年二月十一日歩兵第三十 歩兵一等卒勳八等瑞寶章
一聯隊補充トシテ屯營出發廣島宇品 賜金八拾圓善行證書附與
ヲ經テ二十一日柳樹屯上陸前丁香屯附近ニアリテ滿洲軍總隊備隊五月八日ヨリ十月十六日マテ必家
寓柳及ヒ小江家屯附近ニテ第二軍豫備隊全日平和克復三十九年三月十一日大連出帆十八日青森上陸
二十一日復員下令召集解除
明治三十八年二月十日勳員下令第八師 輻重輸卒勳八等
團第十七補助隊ニ編入三月十二日 瑞寶章賜金八拾圓
宇品出帆十七日柳樹屯上陸遼陽奉天省倭家堡ヲ經テ蘇摩堡兵站司令部へ配屬勤務二十日大野兵站司
司令部へ配屬下令倭家堡出發大房身着宋家荒地工藤兵站司令部へ配屬十二月二十五日第八師團第五兵
站司令部閉鎖全患者輸送部配屬三十九年一月一日ヨリ宋家荒地ニ於テ待命十一月全地出帆内地飯返
二月一日解散

明治三十七年六月十二日充員ノ爲メ歩 歩兵一等卒勳八等白色
集歩兵第三十一聯隊第三中隊へ編入出 桐葉章勳金百五拾圓
征ノ爲メ九月三日弘前出發大坂ヲ經テ十月八日柳樹屯上陸各地前哨勤務三十八年一月二十五日ヨリ
二十九日ニ至ル黒溝臺附近ノ戰闘ニ參加ス二月十一日柳樹屯上陸各地前哨勤務三十八年一月二十五日ヨリ
内地へ後送四月十九日全治退院歩兵第三十一聯隊補充大隊第二中隊へ編入五月九日召集解除

明治三十七年八月一日露戰役從軍
歩兵一等卒勳八等
白色桐葉章賜金百圓
佐々木兼藏 明治十三年生

明治三十七年八月一日露戰役從軍
歩兵一等卒
勳八等瑞寶章
高橋克衛 明治十六年生

明治三十六年十二月十五日徵兵トシ 上等看護卒勳八等瑞寶章
歩兵第三十一聯隊第十中隊へ入隊 賜金七拾圓善行證書附與
三十七年六月七日勳員下令野戰隊へ編入九月四日出征ノ爲メ弘前出發大坂ヲ經テ十月九日柳樹屯上
陸十八日南五里街着勤務十二月十一日一等症ニ罹リ退院郷五月二日歩兵第三十一聯隊補充大隊第四中隊へ復隊九
月五日看護學卒業三十九年三月十三日復員下令二十四日歩兵第三十一聯隊へ復隊十一月八日看護卒
被命全日飯除隊

明治三十七年九月二十六日歩兵第 歩兵一等卒勳八等瑞寶章
五聯隊第六中隊へ入隊征清ノ爲メ 賜金八拾圓恩給年額五拾圓
十月廿八日青森出發二十八日一月十五日大連上陸二十一日山東省營城灣重睡島へ上陸三十日虎山ニ
於テ戰闘二月一日半亭集ニテ戰闘十八日碼頭街着二十四日旅順上陸後格鎮堡ヲ經テ八月二日大連灣
出發七日臺灣基隆ニ着セリ三十七年十二月十日充員召集後備隊ニ入隊三十八年二月六日征清ノ爲メ
弘前出發二十八日韓國元山へ上陸威鏡道南道端川ニ集中塔坪鏡城ヲ經テ七月二日盧通洞附近ニ於テ
戰闘四日輪城出發前哨及ヒ敵攻撃シツ、九月十三日上浦頂着十月十九日出發内地飯返

明治二十七年八月日清戰役ニ從軍 歩兵一等卒勳七等青色桐葉章
其功ニ依リ勳八等瑞寶章賜金五 賜金八拾圓恩給年額五十二圓
拾圓ヲ賜フ及ヒ臺灣守備隊トシテ差遣中戰功ニ依リ金二十五圓下賜セラレタリ三十七年八月日露戰役
ニ從軍各地前哨守備勤務ヲ三十八年一月二十五日ヨリ黒溝臺附近ノ大激戰ニ會シ非常苦戰ニ陥リ
孤立トナリ全中隊ノ戰友悉ク斃ル東奔西走防戰ニ務ムト雖モ敵ハ大軍ニシテ支難遂ニ負傷入院セリ

明治三十七年六月十二日充員下令歩兵 歩兵一等卒勳八等
第三十一聯隊へ編入九月四日出征ノ爲 白色桐葉章勳七級
弘前出發大坂ヲ經テ十月十日柳樹屯上陸夫レヨリ南五里街附近ニアリテ滿洲軍總隊備隊ヲ中央家
荒地附近ニ轉シ三十八年一月二十六日ヨリ二十九日ニ至ル黒溝臺附近ノ大會戰ニ參與二月廿四日ヨ

軍國勳錄 (三戸郡戸來村)

木村 左部 明治十二年生

大西伊兵衛 明治七年生

澤口己之松 明治二年生

横田兼太郎 明治十六年生

村下長六 明治二年生

佐々木元松 明治七年生

佐々木彌一郎 明治五年生

リ二十七日迄五家子附近ニアリテ前哨勤務二十八日ヨリ三月十日マテ奉天附近ノ會戰ニ參與ス十一日ヨリ五月七日マテ前丁香屯附近ニアリテ滿洲軍總隊備隊十月十六日迄必家窩棚及ヒ小江家屯附近ニテ第二軍總隊備隊全日平和克復凱旋

明治三十七八年日露戰役從軍

明治三十七年六月七日勅員下令 工兵上等兵勳八等白色桐葉章
補佐隊へ編入七月二十六日坑道 賜金百圓
街專修員ヲ命セラレ三月二十八日五月二十五日電信隊附與
員トシテ出發十九日廣島着二十四日宇品出帆八月一日大連上陸五月奉天着二十一日全地發鐵着八
月卅一日ヨリ九月五日ニ至ル鐵嶺小青堆子及ヒ其他へ電話架設ニ從事三十九年二月七日奉天へ飯隊
二十八日奉天發大連ヲ經テ三月六日宇品上陸十一日東京へ凱旋八日復員下令解除

明治三十七八年日露戰役從軍

明治三十七八年日露戰役從軍
輻重輸卒勳八等 全郡全村
瑞寶章賜金八拾圓 全郡全村
田澤 兼 明治七年生

明治三十七八年日露戰役從軍
步兵一等卒勳八等白色桐葉章 全郡全村
間木市太郎 兼 明治十年生

明治三十七八年日露戰役從軍
色桐葉章賜金百五拾圓 全郡全村
小坂竹松 明治十年生

明治三十七八年日露戰役從軍
為メ步兵第三十一聯隊へ召集九 歩兵一等卒勳八等白色桐葉章 全郡全村
月三日出征ノ爲メ弘前出發大阪ヲ經テ十月八日柳樹屯上陸河公堡守備及ヒ南五里街附近ニアリテ滿
洲軍總隊備隊ヲ夫家荒地附近ニ轉シ三月二十八日ヨリ四月四日間黑溝臺附近ニ於テ戰闘ニ參與
十四日ヨリ二十七日迄五家子附近ニアリテ前哨勤務ニ從事三月二十八日ヨリ四月四日間黑溝臺附近ニ於テ戰闘ニ參與
五月二十八日第八師團機關砲隊へ轉出三十九年三月三日宿營地出發各地ヲ經テ十六日弘前飯着十七
日復員下令召集解除

明治三十七八年日露戰役從軍

輻重輸卒 賜金五拾圓 全郡全村
工藤與四 明治十年生

明治三十七年六月十二日充員召集步兵 元歩兵一等卒勳八等 全郡全村
第三十一聯隊補充大隊第五中隊ニ編入 瑞寶章賜金八拾圓 全郡全村
二十日第二中隊ニ轉シ十一月十七日出征ノ爲メ弘前出發大坂ヲ經テ十二月十四日ダレニ上陸十七
日遼陽西廣山屯着附近前哨勤務ヲ三十八年一月二十五日ヨリ二十九日ニ亘ル黑溝臺附近ノ大激戰
ニ參加奮戰中二十八日敵彈ノ爲メ負傷入院後送内地へ飯還療養廢兵トナル 全郡全村

明治三十七八年日露戰役從軍
輻重輸卒白色桐葉章 全郡全村
藤村與七 明治十年生

明治三十七年六月十六日充員召集第八 輻重輸卒勳八等白色 全郡全村
師團第三糧食縱列ニ編入九月六日弘前 桐葉章賜金八拾圓 全郡全村
出發青森大坂ヲ經テ十月十七日ダレニ上陸三十一日遼陽着三十八年一月二十六日ヨリ二十九日ニ
至ル黑溝臺附近ノ戰闘ニ參加ス三月一日ヨリ十日ニ至ル奉天附近ノ戰闘ニ參與ス十月十六日平和克
復内地へ飯還

明治三十七年六月七日勅員下令十二日 砲兵一聯卒勳八等白色 全郡全村
野戰砲兵第八聯隊へ充員召集第五中隊 桐葉章賜金百五拾圓 全郡全村
へ編入九月七日屯營出發大坂ヲ經テ十月二十五日ダレニ上陸大房身ニ着夫レヨリ大石橋海城遼陽ヲ經
テ荒地ニ着南嶺ニ轉シ省營三十八年一月二十五日ヨリ二十九日ニ至ル黑溝臺附近ノ大戦ニ參與ス蘇
旅堡ニ泊留宿營二月二十八日全地發三月一日ヨリ十一日マテ奉天附近ノ會戰ニ參與ス十二月藍山臺ニ
宿營沙蛇子ニ轉シ五月四日全地出發三藝子及ヒ弓夫屯娘々廟等ニ轉宿夫レヨリ内地へ飯還セリ

明治三十七八年日露戰役從軍
步兵一等卒勳八等白色 全郡全村
桐葉章賜金百五拾圓 全郡全村
福山仙太郎 明治十年生

明治三十七八年日露戰役從軍
輻重輸卒勳八等 全郡全村
賜金八拾圓 全郡全村
工藤吉太郎 明治十年生

軍國志勳錄 (三戸郡戸來村 野澤村)

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵軍曹勳七等青色桐葉章
賜金參百圓
西野儀八郎 四年生

明治三十八年三月四日臨時召集トシテ
步兵一等卒勳八等
前山鐵藏 七年生
編入四月十三日征露ノ爲メ弘前出發廣島宇品ヲ經テ廿四日大連上陸二十九日ヨリ五月七日マテ平
屯ニ於テ滿洲軍總隊豫備隊八日ヨリ十月十六日マテ必家窩棚小江家屯附近ニ於テ第二軍ノ豫備全日平
和克復内地飯還セリ

明治三十七年六月十八日充員召集第八
輻重輸卒勳八等白色
福田忠太郎 五年生
師團第七補助輸卒隊へ編入八月十一日 桐葉章賜金貳百圓
出征ノ爲メ屯營出發廣島宇品ヲ經テ二十六日大連上陸夫レヨリ牛家屯海豹島大鹽島等ノ各地ニ
於テ輸送其他諸般ノ勤務ニ從事ス三十八年十月十六日平和克復ニ依リ内地へ飯還

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金百五十圓
横澤三藏 五年生

明治二十七年八月日清戰役ニ從軍
功ニ依リ賜金貳拾五圓下賜セラ
横澤勘之助 四年生
爾來各地ニ轉戰ス爲メ三十八年一月二十六日黒溝臺附近ノ大會ニ參加奮戰ノ際負傷入院不日シテ
全癒シタルヲ以テ二月二十八日ヨリ三月十日マテ會戰ニ參加ス十月十六日平和克復ニ及ヒ内地へ飯
還
明治三十八年二月十二日補充ト
步兵一等卒勳八等白色桐葉章
シテ出征ノ目的ヲ以テ屯營出發 賜金八拾圓
横澤佐助 七年生
十七日ヨリ品出帆二十日柳樹屯上陸三月三日紅陵堡ニ於テ後備步兵第三十一聯隊第五中隊ニ編入三
月三十一日聯隊補充大隊へ復隊セリ

明治二十七年八月日清戰役起ルヤ野戰隊
補充トシテ青森出發征途ニ就ク二十九日 瑞寶章賜金七拾圓
横澤由藏 五年生
年一月二日蘇澳港上陸利澤簡ニ於テ戰鬪宣蘭城ノ守備或ハ戰鬪及中嶺止附近ニ於テ開夫レヨリ宣
蘭及其附近ノ守備二月二日蘇澳出發出帆内地ニ凱旋其ノ功ニ依リ賜金貳拾五圓ヲ下賜セラレヨリ宣
二月二十四日征露ノ爲メ弘前出發宇品ヲ經テ三月五日大連上陸第三中隊ニ編入全日ヨリ五月七日迄
前丁香屯附近ニ在リテ滿洲軍總隊豫備隊八日ヨリ十六日マテ必家窩棚及小江家屯附近ニ在テ第二軍ノ
豫備漸次飯還

明治三十七年六月十二日充員召集步兵
步兵一等卒勳八等白色
鹿島倉松 四年生
第三十一聯隊補充大隊第二中隊ニ編入 桐葉章賜金百圓
十月廿九日出征ノ爲メ弘前出發渡清爾來各地前哨三十八年一月廿五日ヨリ黒溝臺附近ノ戰鬪ニ參與
シ奮戰中二十七日敵彈ノ爲メ負傷入院後送漸次内地へ飯還セリ

明治三十七年六月十五日補充大隊第五
故步兵一等卒勳八等
鹿島馬之助 六年生
中隊ニ編入十月二十九日出征ノ爲メ弘 白色桐葉章
前出發廣島宇品ヲ經テ十一月十日大連上陸各地前哨勤務三 父壽郎 母ミサ 弟金次郎
十八年一月十三日六臺子附近ニ於テ戰鬪尋テ二十五日ヨリ黒溝臺附近ノ大激戰ニ參與大ニ奮戰卒先
シテ敵ニ突撃敵隊ヲ寒カラシム其勳キ天晴ノ勇士ナリ惜哉敵彈雨飛難支身ニ數發ヲ負ケ萬歳ヲ叫テ
斃ル嗚呼全二十六日ナリヤ

明治二十七年八月日清戰役ニ從軍
步兵一等卒勳七等青色桐葉章
田島勘九郎 七年生
其功ニ依リ金貳拾五圓下賜三十 賜金八拾圓恩給年額五拾圓
一年中臺灣守備ノ功ニ依リ勳八等瑞寶章金三十五圓下賜セラレ三十七年十一月十七日征露ノ爲メ弘
前出發十二月十四日大連上陸十七日東廣山屯ニ着待命三十八年一月廿三日大臺ニ移リ二十五日
ヨリ二十九日ニ至ル黒溝臺附近ノ大激戰ニ參加ス爾來凍傷ニ罹リ入院治療五月九日召集解除

明治三十七年六月十二日野戰砲
砲兵一等卒勳八等白色桐葉章
青山藤吉 八年生
兵第八聯隊ニ充員召集全聯隊段 賜金百圓等行證書附與
列ニ編入十月四日出征ノ爲メ大阪出帆八日大連上陸九日全地出發荒地小叭臺子等ニ宿營三十八年一

月廿五日ヨリ二十九日ニ至ル黒溝臺附近ノ戰闘ニ參與ス蘇摩優ニ宿營二月二十八日ヨリ三月十日ニ至ル奉天附近ノ大會戰ニ參與ス夫レヨリ最家沙花子三母子檢樹優房身等ノ各要所ニ宿營セリ

明治二十七八年日清戰役ノ功ニ 步兵一等卒勳八等白色桐葉章 全郡全村

依リ金貳拾五圓下賜セララル全三 賜金八拾圓恩給年額五拾圓

松本松之助 明治六年生

明治三十八年二月十日勳員下令十七日 輜重輸卒勳八等白色 全郡全村

第八師團第十七補助輸卒隊へ編入字品 桐葉章賜金百圓

ヲ經テ三月十七日柳樹屯上陸蘇摩優兵站司令部へ配屬四月廿八日大黒臺子小野兵站司令部へ配屬替

トナリ五月二十九日拉馬臺へ移轉倉庫及輸送事務ニ從事ス六月二十日宗家荒地ニアル本隊ニ合ス全

司令部ニ配屬十二月二十五日第八師團患者輸送部配屬三十九年一月一日ヨリ宗家荒地ニ於テ待命尋

テ内地へ飯還二月一日解散

高館孫太郎 明治七年生

明治三十七八年日露戰役ニ從軍

步兵一等卒勳八等 全郡全村

瑞寶章賜金八拾圓

高山市助 明治五年生

明治三十七年八月十二日征露ノ爲メ弘 輜重輸卒勳八等白色 全郡全村

前出發廣島宇品ヲ經テ二十四日柳樹屯 桐葉章賜金百圓

上陸滿洲軍倉庫勤務ニ服ス九月二十日全地出帆營口ニ上陸遼東守備戰團序列ニ入ル十月六日蓋平兵

站司令部ニ配屬三十八年五月十九日遼東兵站監部管下ニ配屬二十一日八家子兵站司令部へ配屬九月

三日遼陽待命二十六日大石橋本隊へ復飯全地兵站司令部ニ配屬十月十六日平和克復後遼東兵站監

部管下ヲ解カレ關東總督府配下ニ屬セララル

明治三十七八年日露戰役從軍

輜重輸卒勳八等白色 全郡全村

桐葉章賜金八拾圓

戶賀澤林藏 明治四年生

明治三十七年二月十一日第八師團充員 故步兵一等卒勳八等 全郡全村

召集後備步兵第三十一聯隊へ入隊十一月 白色桐葉章

月十七日出征ノ爲メ弘前出發大阪ヲ經テ十二月十四日ダニ

戶賀澤三太郎 明治九年生

上陸十七日遼陽洲西廣山屯着二十八日一月二十五日ヨリ黒溝臺附近ノ大會戰ニ參加ス夫レニ奮戰ニ努

ム彈丸雨降ノ間ヲ泰然自和モ行功ヲ乱不突進中全二二六日遂ニ敵彈ノ爲メ負傷野戰病院へ收容去

レヨリ遼陽病院へ入院醫術療養ヲ加フルト雖モ其功ヲ奏不惜哉二月二日死亡セリ

全郡全村

戶賀澤春松 明治九年生

明治三十七年二月十一日第八師團充員 賜金百五十圓善行證書州與

隊へ入隊十一月十七日出征ノ爲メ弘前出發大阪ヲ經テ十二月十四日ダニ

三十八年一月二十五日ヨリ遼陽洲西廣山屯着二十八日一月二十五日ヨリ黒溝臺附近ノ大會戰ニ參加ス夫レニ奮戰ニ努

二日第一線張良堡着第八聯隊ト交代三月五日ヨリ奉天附近ノ大會戰ニ參與勇戰奮激ノ剌那七日敵彈

ノ爲メ負傷入院後送各至テ經テ内地へ飯還

木村喜一

明治三十七八年日露戰役從軍

砲兵曹長第三軍第八師團第二師團分會長

兵站司令部附在郷軍人分會長

木村喜一

明治三十七八年日露戰役從軍

獨立第十三師團兵站監

本部附勳七等步兵曹長

石原敬治

明治二十七八年日清戰役從軍及

功七級恩給年額五十七圓

工藤勝三郎 明治五年生

明治三十七八年日露戰役從軍

元步兵一等卒勳八等白色桐葉章

賜金百圓賑恤金八拾八圓

小笠原與太郎 明治十一年生

明治三十二年臺灣守備トシ

天出向セリ三十七年六月十二日 賜金百圓賑恤金八拾八圓

日充員ノ爲メ步兵第三十一聯隊へ召集九月三日出征ノ爲メ屯營出發大坂ヲ經テ十月八日柳樹屯上陸

南五里街附近ニアルヲ滿洲軍總豫備隊尋テ中央荒地附近ニ轉シ三十八年一月五日ヨリ黒溝臺附近ノ大

激戰ニ參加大ニ奮戰進擊中二十六日敵彈ノ爲メ負傷入院後送漸次内地へ飯還兵トナラル

漆館仁助 明治九年生

軍國彰勳錄

(三戸郡野澤村 上北郡四和村)

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
等瑞寶章賜金七拾圓
全郡全村

古館嘉藤治郎

明治六年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金貳百圓
全郡全村

沼山與之吉

明治六年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金貳百圓
全郡全村

中村市

明治六年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金百五十拾圓
全郡全村

工藤鉄次郎

明治八年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金百五十拾圓
全郡全村

前川福太郎

明治六年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金百五十拾圓
全郡全村

漆館熊次郎

明治十年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金百五十拾圓
全郡全村

工藤元治

明治五年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金百五十拾圓
全郡全村

小泉多助

明治六年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金百五十拾圓
全郡全村

高橋八太郎

明治九年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金百五十拾圓
全郡全村

三浦善治

明治六年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金百五十拾圓
全郡全村

三浦石太郎

明治四年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金百五十拾圓
全郡全村

田中馬之助

明治五年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金百五十拾圓
全郡全村

田中倉松

明治一年生

明治三十七八年日露戰役從軍
步兵一等卒勳八等白色
桐葉章賜金百五十拾圓
全郡全村

桐葉章賜金百五十拾圓
全郡全村

田中倉松

明治一年生

軍國彰勳錄 (三月郡豊岡村 淺田村)

明治三十七八年日露戰役從軍

第二軍野戰病院附
看護卒八等
全郡全村

小泉 富彌

明治七年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒
全郡全村

小泉 千代吉

明治五年生

明治三十七八年日露戰役從軍

故工兵上等兵勳八等
全郡全村

小泉 子之松

明治十年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵上等兵帝國在鄉
軍人會分會長
三戸郡淺田村

沼田 昌一

明治八年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳七等瑞寶章
在鄉軍人副分會長
全郡全村

小澤 寅吉

明治一年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色
全郡全村

田中 佐彌太

明治二年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵上等兵勳七等青色桐葉章
功七級恩給年額六拾圓
全郡全村

關口 直太

明治四年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色桐
全郡全村

關口 權太郎

明治五年生

明治三十七八年日露戰役從軍

步兵一等卒勳八等白色桐
全郡全村

關口 權太郎

明治五年生

明治三十七八年日露戰役從軍
依り金貳拾五圓下賜セラシテ三十七
八年日露戰役ニ從軍

步兵一等卒勳八等白色桐
葉章恩給年額五拾貳圓
全郡全村

木下 西藏

明治六年生

明治三十七八年日露戰役從軍
三十一聯隊へ編入九月四日征露ノ爲メ
弘前出發大阪ヲ經テ十月九日柳樹屯上陸各地前哨勤務三十八年
一月二十五日ヨリ二十九日ニ亘ル黒溝臺附近ノ大激戰ニ參加ス
奮進突撃中二十七日敵彈ノ爲メ名譽ノ戰死ヲ遂ク

故步兵一等卒勳八等
白色桐葉章功七級
全郡全村

新井田 藤太郎

明治三年生

明治三十七八年日露戰役從軍
日征露ノ爲メ屯營出發大坂ヲ經テ十月
九日柳樹屯上陸各地前哨勤務ヲ備フヨリ三月十日ニ至ル奉天附近ノ大會戰ニ參加奮戰ニ務ム

步兵上等兵勳八等
白色桐葉章功七級
全郡全村

佐々木 巳之松

明治五年生

明治三十七八年日露戰役從軍
砲兵一等卒勳八等白色
桐葉章恩給年額百圓
全郡全村

高橋 熊太郎

明治一年生

明治三十七八年日露戰役從軍
砲兵一等卒勳八等白色
桐葉章恩給年額百圓
全郡全村

高橋 申松

明治五年生

明治三十七八年日露戰役從軍
砲兵一等卒勳八等白色
桐葉章恩給年額百圓
全郡全村

高橋 申松

明治五年生

明治三十七八年日露戰役從軍
砲兵一等卒勳八等白色
桐葉章恩給年額百圓
全郡全村

高橋 申松

明治五年生

明治三十七八年日露戰役從軍
砲兵一等卒勳八等白色
桐葉章恩給年額百圓
全郡全村

高橋 申松

明治五年生

明治三十七八年日露戰役從軍
砲兵一等卒勳八等白色
桐葉章恩給年額百圓
全郡全村

高橋 申松

明治五年生

明治三十七八年日露戰役從軍
砲兵一等卒勳八等白色
桐葉章恩給年額百圓
全郡全村

高橋 申松

明治五年生

軍口彰助録 (三戸郡淺田村 地引村)

明治三十三年十一月一日歩兵第三十聯隊 元歩兵一等卒勳八等白
 隊第三中隊入隊川六年十一月十六日 色桐葉章勳金百圓
 歸隊除隊川七年六月十一日充員召集二應シ歩兵第三十聯隊第三中隊入隊九月三日弘前出發十月
 四日大坂出帆八日柳樹屯上陸全月十七日ヨリヨリ三十八年一月二十五日迄南五里街及中央家荒地附近ニテ
 ヲテ滿洲軍總隊備一月二十五日ヨリヨリ三十八年一月二十五日迄南五里街及中央家荒地附近ニテ
 院ヲ經テ全年八月弘前豫備病院ニ入院十月十五日退院全日依傷疾兵役免除恩給法ニ依リ一時恩金百
 九十八圓下賜セラル

明治三十八年二月二十日充員召集二應 輻重輪卒從軍紀章 全郡全村
 シ第八師團第十五補助輪卒隊ニ編入ニ 賜金五拾圓
 月四日青森出發全月十二日廣島發着品港ヨリ目鹿丸ニ乗船十七日清國柳樹屯ニ上陸十八日當地出發
 金州得利寺橋岳城蓋平大石橋海城遼陽小北河砂家子大石橋ヲ經テ三月十日奉天到着第三軍奉天兵站
 司令部ニ配屬勤務二十日蘇家屯ニ分遣第三軍ニ屬スル道送品並ニ患者輸送等ニ從事四月二十八
 日歸隊六月二十四日送東監部田宮兵站司令部ニ配屬勤務六月三十日奉天兵站病院ニ入院七月三十八
 連出帆廣島豫備病院ヲ經テ東京月山分院ニ入院八月十四日歸郷 全郡全村

明治三十七年八月日清戰役ニ從軍 歩兵一等卒勳八等白色桐葉章 全郡全村
 明治三十七年八月日清戰役ニ從軍 賜金貳百圓恩給年額五拾四圓 島守安太郎 明治五
 年生

明治三十二年十二月一日歩兵第三十一聯隊 全郡全村
 聯隊第五中隊ニ入隊三十五年十一月十六日 桐葉章勳金百圓
 日飯休除隊全日善行證書附與三十七年六月十二日充員召集ニ應シ歩兵第三十一聯隊第五中隊ニ編入
 九月三日弘前出發十月六日大坂出帆十日清國柳樹屯上陸十月十七日ヨリヨリ三十八年一月二十五日迄南
 五里街及中央家荒地附近ニテ戰闘ニ參與二月三日第八師團機關砲隊ニ轉出廿四日復隊全日ヨリ
 與二月七日負傷後送三月十八日大連出發二月六日迄奉天附近ノ會戰ニ參與三月四日ヨリ機關砲隊ニ屬
 入五月七日迄前線ニ在リテ三月十八日大連出發二月六日迄奉天附近ノ會戰ニ參與三月四日ヨリ機關砲隊ニ屬
 近ニアリテ第二軍豫備隊全月五月二十三日夜山支隊ニ屬スル島岡地ヨリ二十五里堡附近ニ於テ戰闘ニ
 十九年三月十一日大連出帆十六日清森上陸三月二十三日召集解除

明治三十七年八月日清戰役從軍 全郡全村
 補充兵歩兵一等卒白色桐葉章勳金八拾圓 佐藤 玄 明治十
 桐葉章勳金八拾圓 全郡全村 父定吉 島守 孫吉 明治十
 賜金七拾圓 全郡全村 父定吉 島守 孫吉 明治十
 全郡全村 父定吉 島守 孫吉 明治十

明治三十六年十二月十五日歩兵第三十聯隊 全郡全村
 一聯隊第三中隊入隊三十七年六月七日 桐葉章勳金百圓
 日勳員下令九月三日出征ノタメ弘前出發十月四日大坂出帆八日清國柳樹屯上陸十六日ヨリ河公堡守
 衛十九日ヨリ南五里街及中央家荒地附近ニテ戰闘ニ參與二月三日第八師團機關砲隊ニ轉出廿四日復隊全日ヨリ
 六日ヨリ二十九日迄南五里街及中央家荒地附近ノ戰闘ニ參與二月三日第八師團機關砲隊ニ轉出廿四日復隊全日ヨリ
 五家子附近ニテ三月十八日大連出發二月六日迄奉天附近ノ會戰ニ參與三月四日ヨリ機關砲隊ニ屬
 ス六日負傷後送三月十八日大連出發二月六日迄奉天附近ノ會戰ニ參與三月四日ヨリ機關砲隊ニ屬
 聯隊補充大隊第二中隊ニ編入七月二十六日第五十六聯隊第二中隊ニ屬スル弘前出發出征青森廣島宇品
 ヲ經テ九月七日大連上陸盛京省大江旗着宿營十一月第六日第二軍ニ屬スル南孤山江界楚山江口等ニ守備
 三十九年五月十一日平壤發着宇品ヲ經テ六月一日弘前着歩兵第三十聯隊第三中隊ニ編入全年十二月八
 日飯休除隊 全郡全村

明治二十八年十二月一日歩兵第五聯隊 歩兵上等兵勳八等 三戸郡田子村
 補充大隊ニ入營三十七年二月十一日充 白色桐葉章
 員召集ニ依リ後備歩兵第三十一聯隊ニ入隊全月十七日出征ノタメ出發全日大坂築港日帆十二
 月十四日清國青泥窪上陸待命全月十七日東廣山屯ニ着待命三十八年一月二十二日大坂ニ移リ 廿五日
 ヲリ二十九日迄南五里街及中央家荒地附近ニテ戰闘ニ參與五月二十七日召集解除 全郡全村
 明治二十二年十二月二十五日砲兵第二 砲兵軍曹勳七等 全郡全村
 池田仁太郎 明治十
 行禮書附與全月三日飯休除隊二十七年七月二十七日臨時召集十月三日砲廠監視隊ニ編入二十八
 月十六日外征廿五日大連ニ上陸三月九日迄駐 臨時召集十月三日砲廠監視隊ニ編入二十八
 年八月召集解除勳功ニ依リ勳八等ニ叙シ瑞寶章ヲ賜フ 臨時召集十月三日砲廠監視隊ニ編入二十八
 年八月召集解除勳功ニ依リ勳八等ニ叙シ瑞寶章ヲ賜フ 臨時召集十月三日砲廠監視隊ニ編入二十八